

授業科目名(英文名) /Course Title	西洋思想/European Philosophy		
担当教員(所属)/Instructor	三重野 清顕(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G300954
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	<p>「思想」とは「いかに生きるべきか」の指針になるものであり、さらに、ある哲学者によれば、精神的かつ物理的な意味において、防衛と攻撃の「武器」ともなりうるものである。周知のごとく、とりわけ「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大な物がある。</p> <p>本講義では、「西洋」とは何か、「思想」とは何か、という大前提を問うことから始め、次に、古代ギリシャから現代思想にいたるまでを概観する。その上で「近代」に着目し、「科学」と「自由」をキーワードに、「西洋思想」の本質およびその問題点を探っていく。先人たちの思想と現代社会に生きる我々のそれとの比較および影響について考えながら、現代社会が抱える具体的諸問題(環境問題、先端医療技術にまつわる倫理問題)にも言及する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>本講義のねらいは、時間的・空間的に遠い異国の思想を通覧するにとどまることなく、同時に、我々自身のリアルタイムの社会問題(環境問題、先端医療技術倫理問題、経済問題等々)の根幹を押さえることにある。受講生が、そうした諸「問題」について、自分なりの意見や考えをもち、論述、展開できるようになることが最終目標である。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>西洋思想は、どのような分野を専攻するにしても、教養教育としては必修科目にもあたいます。基礎的な教養を身につけるとともに、西洋思想を通じて、多様な「ものの見方」「考え方」を開拓することが重要である。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>毎回プリントを配布するので、受講者は、講義を通し、そのプリントに基づいてオリジナルの教科書を作成しながら探求をすすめてほしい。また§ごとに当該ポイントに関する「問題」を提示するので、各自その「回答」を作成することで、自分なりの意見や考えを論理的に展開する作業を重ねて欲しい(希望者には添削)。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1週 ガイダンス 第2週 §1 西洋思想とは (1) 思想とは(2)西洋と東洋について 第3週 (3) 思想「史」～「歴史」という概念について 第4週 §2 西洋思想史概観 (1) 西洋思想史の時代区分 第5週 (2) 中世から近代への三大大革命 第6週 (3) 近代と現代～「応用倫理」の諸問題へ ① 第7週 ② 第8週 §3 西洋思想と科学技術の問題 (1) 伝統的技術と近代技術 第9週 (2) 技術倫理の問題① 第10週 ② 第11週 §4 自由と責任の問題へ～いかに生きるべきかを問いながら 第12週 (1) 自由であるとはいかなることか① 第13週 ② 第14週 (2) 自由主義思想(liberalism)について 第15週 期末試験</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	必要な資料・レジュメは適宜配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末試験の結果(100点満点)で評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	<p>毎回の出欠カードに受講者のみなさん自身の意見や批判、質問等をまとめてもらい、次回の講義内容はそれにもとづいて再編成していく双方向型の授業を目指しています。それゆえ、受講者には積極的な参加を求めます。</p>		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	現代思想/Contemporary Philosophy		
担当教員(所属)/Instructor	杉本 隆久(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G301003
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 9, 火/Tue 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	杉本 隆久(e-mail : sugimoto-takahisa@hotmail.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	杉本 隆久(後期 火曜12:20-12:50及び16:00以降に、非常勤講師室。(要メール予約))		
授業の内容/Course Description	「現代思想」という名のもとに包括される現代の様々な思想を概観する。また、概観を通じて「現代思想」の特性を検討し、どのような点で近代の思想などと異なるのかを考える。こうした作業を通じて、私たちが生きる現代の思考様式がいかなるものであるのかを学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	現代の様々な思想の概観を通じ、それらの方法と内容を理解することを目標とする。また現代思想という異他なる思考(別の仕方で考えること)と向き合うことによって、これまで培ってきた素朴な信念(あるいは意見や感情)を批判的に自覚することも目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義は、基盤教育科目の中の人文科学系科目の一つであり、達成目標の「人文科学系科目では、教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける」に関連している。		
前提とする知識/Prerequisites	予備知識や経験は、まったく必要としない。ただし、異他なる思考や他なるものと向き合う(すなわち、受講者各人の意見や感情にそぐわない議論と向き合う)真摯で謙虚で誠実な態度を要する。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に沿って、講義形式により現代の諸思想について説明・紹介を行う。原則として教科書は使用しない。講義で扱う内容に関するプリント(資料)を配布し、それをもとに講義を進める。プリントはあらかじめ配布するので、次の週までに予習として読んでおくこと。また毎回、講義の最初に前週までの復習を行うので、その点を復習しておくこと。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンスー現代思想概論 第2回 ポスト・モダニズムの源流(1) ニーチェ、遠近法主義、生の哲学 第3回 ポスト・モダニズムの源流(2) ソシュール、ラングとパロール、差異の体系 第4回 精神分析 フロイト、ラカン、無意識 第5回 オリジナルとコピー(1) ベンヤミン、ボードリヤール、シミュラクルとシミュレーション 第6回 オリジナルとコピー(2) バルト、作者の死、相互テクスト性 第7回 オリジナルとコピー(3) メルロ＝ポンティ、創造、表現、現実的経験 第8回 メディア・スタディーズとメディアロジー マクルーハン、ドゥブレ、伝達作用 第9回 脱構築の思想 デリダ、内と外、差延、決定 第10回 フェミニズム 個人的なことと政治的なこと、セクシュアリティ、ポリロゴス 第11回 政治と民主主義 ランシエール、不和、マニフェスタシオン 第12回 人間の終焉 フーコー、使用、散逸、超人 第13回 ひとつの生 ドゥルーズ、特異性、存在の一義性、超越論的経験論 第14回 日本の現代思想 ニュー・アカデミズム、ゼロ年代の思想 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	原則的に教科書は使用しない。プリントを配布する。参考書に関しては、講義を進めていく中でそのつど紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(60%)、小論文(20%)、リアクションペーパーの内容・提出状況(20%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	受動的に講義を受けるのではなく、積極的に講義に臨み、自ら能動的に思考するよう努めること。また狭い見で安易に「答え」を出そうとするのではなく、「今までとは別の仕方です」思考するよう試みる。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	東洋思想/Oriental Thought		
担当教員(所属)/Instructor	水野 雄司(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G301311
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	水野 雄司(e-mail : yuraelectric@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	水野 雄司(授業終了後)		
授業の内容/Course Description	<p>狭義に定義すると、日本思想史、つまり歴史的な「日本の思想」を学ぶ授業となる。過去の日本人がどのようなことを考え、想ってきたかを、「今」を支点軸として考察する内容である。</p> <p>ただしそれは「東洋思想」と直結する。なぜならば、思想の歴史とは、後からの、原典の解釈の歴史とも言い換えられ、基本的に日本人たちが参照してきたものは、儒教や仏教といった「東洋」のテキストであったためである。</p> <p>東日本大震災は、日本に生きる私たちに、多くの問いを投げかけた。それは今でも変わることはない。それに少しでも応えられるように、私たちとその社会を培ってきた思想的背景を、できるだけ広く学び、そこから確かに繋がっている「今」の自分の「思想」を見直したいと思う。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	普段意識していないこと、また、あたりまえに思っていることにどのような歴史的背景があるかを知ること、普段の思索行為を深めることが目標である。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	上記の説明から、「幅広く深い教養と豊かな人間性を身につける」に合致すると捉える。		
前提とする知識/Prerequisites	ある程度の日本史の知識があることが望ましいが、絶対的な条件ではない。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	原則講義形式。適宜、視聴覚教材を活用する予定。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンスー東日本大震災以降、私たちはどのように生きていけばいいのか？ 第2回 私たちの伝統は正しいのか？ー石原慎太郎と坂口安吾の墮落論ー 第3回 天皇に何を見出すべきなのか？ー和辻哲郎の天皇論ー 第4回 日本人は神を信じているのか？ー『国体の本義』と『神皇正統記』の神国論ー 第5回 誰のために行動するのか？ー新渡戸稲造と山本常朝の武士道論ー 第6回 空気を読むとは？ー山本七平と十七条憲法の空気論ー 第7回 (前半のまとめ)「伝統」とは？ 第8回 (補論)「思考」の3つのパターンとは？ー『リヴァイアサン』『五分後の世界』『同日同国』よりー 第9回 私たちは近代化しているのか？ー丸山真男と江藤淳の近代化論ー 第10回 自由とは何か？①ー福沢諭吉と鈴木大拙の天職論ー 第11回 自由とは何か？②ー「明鏡止水」と「もののははれ」の自由論ー 第12回 歴史をどう見るのか？ー司馬遼太郎と山田風太郎の歴史論ー 第13回 国家とは何か？ー会沢正志斎の国体論ー 第14回 (後半のまとめ)「近代」とは？ 第15回 まとめー「伝統」と「近代」の狭間で		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない。講義レジュメを配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業中に定期的に行う課題と学期末試験の点数によって評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	現在の事例・問題に関して、最初に過去の人々がいかに考えてきたかを知ること、次に自分なりの理解を深めてください。既存の知識を「知ること」と自分で「考える」ことは違うということを意識して学習することが、大学での勉強です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	論理学/Logic		
担当教員(所属)/Instructor	小山 悠(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G301813
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小山 悠(e-mail : dilatwellan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小山 悠(前期 火曜12:00-12:30(非常勤講師控室) 前期 金曜12:00-12:30(非常勤講師控室))		
授業の内容/Course Description	この講義では論理的に思考する技能を学ぶ。論理的思考は、与えられた情報の相互関係の正しさを評価しながら、情報を分析・総合する過程に存する。この過程を学ぶのに最も適した題材として「自然演繹」と呼ばれる形式体系を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	基本的な論理的概念(連言・選言・前提・仮定・条件・量化)を使用して論理的思考をおこなう技能を身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教養科目中の人文科学系科目であり、あらゆる学問の基礎となる論理的思考を身につけ向上させる訓練をおこなう。		
前提とする知識/Prerequisites	特にない。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式でおこないます。毎回、その回で講義した内容を各自で応用してもらうために課題を出します。課題に対する解答は次回の授業の最後に提出してもらいます。第2回以降は前回出した課題の解説が講義の半分以上を占めることになります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 論理とは何か 第2回 何が論理的な正しさを決めるのか 第3回 形式化ということ 第4回 連言 第5回 条件法 第6回 否定と矛盾 第7回 選言 第8回 推論とその規則 第9回 量化と自然言語 第10回 全称量化除去と存在量化導入 第11回 全称量化導入 第12回 存在量化除去 第13回 量化の規則 第14回 多重量化 第15回 反例をあげる		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特にない。必要な教材はハンドアウトとして配布する。 参考書：戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会)、前原昭二『記号論理入門』(日本評論社)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の課題に対する解答(合計14回分)70%、定期試験30%		
学習上の助言/Learning Advice	「論理的思考とは何か」を理解するだけでは、論理的に思考する能力は身につけません。応用・練習が必要です。そのために毎回課題を出します。課題をきちんとやらないと講義を受ける意義も半減するので注意してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	西洋の倫理思想/Western ethical thught		
担当教員(所属)/Instructor	杉本 隆久(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G312915
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	杉本 隆久(e-mail : sugimoto-takahisa@hotmail.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	杉本 隆久(後期 火曜12:20-12:50及び16:00以降に、非常勤講師室。(要メール予約))		
授業の内容/Course Description	自己の生を、どうすれば肯定することができるだろうか。本講義では、「生」の問題に関する倫理学的な背景を踏まえながら、人間一般ではなく、個人(単独者、超人)の生=「一つの生」について考えたスピノザ、ニーチェ、ドゥルーズなどの議論を概観することで、西洋の倫理思想における最も重要で根本的な問題である「生」について考える。特に「善/悪」と「よい/わるい」との違い、精神と身体の並行論、遠近法主義、自由意志批判(無意志主義)について検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	古代から現代までの西洋倫理思想(とくに神人同形説、ソクラテス、デカルト、スピノザ、ルソー、カント、ニーチェ、サルトル、ドゥルーズ)における「生」についての思想を理解することを目的とする。また、「生」の問題の検討を通じて、自らの生を反省的に捉え直すことも目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本講義は、基盤教育科目の中の人文科学系科目の一つであり、達成目標の「人文科学系科目では、教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける」に関連している。		
前提とする知識/Prerequisites	予備知識や経験は、まったく必要としない。ただし、異なる思考や他なるものと向き合う(すなわち、受講者各人の意見や感情にそぐわない議論と向き合う)真摯で謙虚で誠実な態度を要する。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストを用いて、生に関する思想の説明・紹介を行うという形式で講義を行う。各回に講義で扱うテーマ・内容に関しては、テキストの該当箇所を予め指示するので、予習として読んでおくこと。また、予習時に理解できなかった点はノートに書くなどしておくこと。授業後は、予習時に分からなかった点が理解できたかどうかを板書・テキストを見返しながら復習すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンスー西洋の倫理思想概論 倫理、生の問題 第2回 「善い生き方」と「よいものとの出会い」 「個性性-一般性」と「特異性-普遍性」の差異 第3回 習慣と生活法の違い 「善/悪」と「よい/わるい」 第4回 有神論者と無神論者を巡る4つのタイプ 神人同形説、無神論的実存主義、汎神論 第5回 心身関係論の価値転換 相互作用論と心身並行論 第6回 精神の三つの位相と身体の変様(1) 第一種の認識、第二種の認識、第三種の認識について 第7回 精神の三つの位相と身体の変様(2) 喜び、悲しみ、欲望(三つの感情)について 第8回 精神の三つの位相と身体の変様(3) 三つの認識に対応する身体の変様について 第9回 遠近法主義と「このもの性」(1) 認識と解釈 第10回 遠近法主義と「このもの性」(2) 「個々のもの」と「このもの」 第11回 遠近法主義と「このもの性」(3) 真理への意志と解釈の一義性 第12回 自由意志と非意志主義(1) 自由意志の誤謬と「一般意志」批判 第13回 自由意志と非意志主義(2) 意志と知性(認識)、意志と感性(知覚)の同一性 第14回 自由意志と非意志主義(3) ニヒリズムの三つの段階ー否定的・反動的・受動的ニヒリズム 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	江川隆男『超人の倫理 〈哲学すること〉入門』(河出ブックス)。参考書に関しては、講義を進めていく中でそのつど紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(60%)、小論文(20%)、リアクションペーパーの内容・提出状況(20%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	受動的に講義を受けるのではなく、積極的に講義に臨み、自ら能動的に思考(問題提起)するよう努めること。また狭い見で安易に「答え」を出そうとするのではなく、「今までとは別の仕方」で思考するよう試みることを。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	科学思想史/History of Scientific Thought		
担当教員(所属)/Instructor	小山 悠(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G313016
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小山 悠(e-mail : dilatwellan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小山 悠(前期 火曜12:00-12:30(非常勤講師控室) 前期 金曜12:00-12:30(非常勤講師控室))		
授業の内容/Course Description	科学の歴史的発展には、科学方法論、すなわち「科学的研究はどのような手続きによって進められるべきか」という問題に関する反省的思考の発展が伴ってきた。科学的方法論の歴史的展開を通して科学的思考を反省的に分析する視座について講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	科学的思考に対して歴史的・反省的な捉え方ができるようになること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教養科目中の人文科学系科目であり、現代社会を生きるために必要な教養の根本として、科学的思考に対する反省的な見方を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	特にない。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式でおこなう。適宜、資料を配布し、受講者には、資料についてレポートを毎回提出してもらう。(レポートで提示された意見の集約結果は講義の中で紹介する。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 科学思想史の主題 第2回 神話的思考と科学的思考 第3回 宇宙論と存在論 第4回 論理学と数学の伝統 第5回 アリストテレス 第6回 アルキメデス 第7回 プトレマイオス 第8回 イブン・アルハイサム 第9回 オッカム 第10回 デカルト 第11回 科学革命 第12回 合理主義 第13回 アダム・スミス 第14回 啓蒙思想 第15回 科学の存在		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特にない。必要な資料はハンドアウトとして配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポート70%、定期試験30%		
学習上の助言/Learning Advice	歴史的に成立している現象はその現象の歴史を辿ることによってのみ正しく理解できます。歴史的な思考や理解を科学という現象に適用するには独特の困難が伴いますが、その困難を身をもって体験することが科学思想史を学ぶ醍醐味だと心得てください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	仏教における人間形成論/Theories of Character formation in Buddhism		
担当教員(所属)/Instructor	松本 敏(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G313060
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松本 敏(satoshim@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松本 敏(月曜日12時~12時30分, 火曜日10時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	仏教は基本的に人生を苦と捉える宗教であり、世俗的な成功や幸福の価値を否定する。そのような思想に強く影響された社会で、人間がいかに自己を形成し、自分の生き方に納得していくかを、仏陀自身およびインド・中国・日本の高僧や信者の事例をもとに考える。		
授業の達成目標/Course Goals	仏教の基本的な考え方を説明できる。仏教に影響された社会における人間形成の課題や特色について自分の考えを持つことができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人文科学の中の哲学領域に関する基礎的な知識と考え方を修得する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校公民科「倫理」の履修、またはそれに準ずる知識・理解を持っていることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	第1回を除いて資料を事前に配布するので、毎回授業までに精読し、自分の考えや疑問点をまとめてくること。それを前提に講義を行い、学生の意見を発表させ、小さな討論を行う。毎回最後に自己省察のカードに記入する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 仏教とはなにか・仏陀とは何者か 第2回 仏陀の生涯と仏教の歴史の概略 第3回 初期仏教経典に見る仏陀のことば(スッタニパータ) 第4回 初期仏教経典に見る仏陀のことば(法句経) 第5回 仏陀の最期の教え(涅槃経) 第6回 初期仏教の展開 第7回 空の思想と大乘の世界(般若経・法華経など) 第8回 在家の生き方(維摩経) 第9回 中国の禅僧たち(六祖壇経など) 第10回 中国の禅僧たち(臨済録など) 第11回 日本の仏教の展開 第12回 浄土の思想と悪人正機(親鸞、歎異抄) 第13回 禅宗の興隆と身心脱落(道元) 第14回 江戸時代の仏教(白隠・一休・妙好人) 第15回 現代の仏教と青年の人間形成		
教科書・参考書等/Textbooks	プリントで配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の自己省察カード(30%)、試験の成績(70%)の合計で評価する。特に優れた者を全体の1割以内で秀とする。		
学習上の助言/Learning Advice	よく読み、よく考え、よく発表してください。		
キーワード/Keywords	仏教, 人間形成論, 思想,		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	認知心理学入門/Introduction to Cognitive Psychology		
担当教員(所属)/Instructor	中村 真(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320229
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 真(028-649-5209 nakamura_AT_cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 真(研究室:火(17:40-18:00), 水(17:40-18:00), E-mail等での予約)		
授業の内容/Course Description	私たちの行動の背景には、自覚することが難しいにもかかわらず大きな影響力を持つさまざまな心理的要因が関与しています。この授業では、認知心理学の研究成果を紹介しながら、このような心理的要因のいくつかについて考えます。		
授業の達成目標/Course Goals	認知心理学の基礎的知識とともに、人間の行動の背景について心理学的に説明するための基本を習得することを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	心理学や対人コミュニケーション論に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成をめざします。		
前提とする知識/Prerequisites	特別な知識や経験は必要ありませんが、自分自身の行動や判断の背景について自分なりに分析してみようというモチベーションがあることが重要です。		
関連科目/Related Courses	特別な知識や経験は必要ありませんが、自分自身の行動や判断の背景について自分なりに分析してみようというモチベーションがあることが重要です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	取り上げるテーマに関連した資料を適宜配布します。講義が中心になりますが、それぞれのテーマに関係した具体的な問題を解いたり、簡単な模擬実験や調査などを交えて授業を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 週オリエンテーション:心理学の下位分野と研究方法 2 週情報の入力と感覚器官 3 週感覚の特徴 4 週感覚と認知 5 週記憶の仕組み 6 週記憶と知識構造 7 週さまざまな推論 8 週論理的推論と人間の推論 9 週直観的推論 10 週言語の特徴 11 週言語の認知 12 週感情の役割 13 週感情経験のモデル 14 週感情と認知 15 週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 特にありません。 参考書: 授業中に紹介します。 教材: 特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(出席と授業中に行うミニ実験等の提出物)20%, 期末試験80%とし、全体で60%以上の評価を得られたものを合格とします。		
学習上の助言/Learning Advice	授業以外にも実験へ参加し、実際の心理学実験を経験してもらいたいと考えています。授業時間外の実験を行う場合には、授業中にアナウンスします。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	行動心理学入門/Introduction to Behavioral Psychology		
担当教員(所属)/Instructor	仲嶺 真(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320231
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	仲嶺 真(shinn.syr833@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	行動心理学における種々の領域について講義を行い、行動心理学という領域の大枠や、研究例を紹介します。		
授業の達成目標/Course Goals	行動心理学における基本的なトピックの理解をめざし、行動心理学的な視点を身につけることを目標にします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人間の本性や行動、文化や芸術的側面に関する研究分野が人文科学です。この科目では、教養の根本である学問のうち、行動心理学の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方の基本を身につけます。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。毎回、担当教員が、スライドをもとに行動心理学における主要なトピックについて講義します。スライドの配布は、しない予定でいますので、メモができるノートをご持参ください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 イントロダクション：行動心理学とは何か？ 第2回 古典的条件づけ 第3回 オペラント条件づけ 第4回 学習の理論 第5回 行動療法・認知行動療法 第6回 コミュニケーションの機能 第7回 コミュニケーションのチャネル：言語的行動・非言語的行動 第8回 コミュニケーション・スキル 第9回 恋愛行動 第10回 集合・群集の行動 第11回 集合行動の理論 第12回 パニック行動 第13回 エンボディメント：行動と態度 第14回 エンボディメント：行動と認知 第15回 講義のまとめ・テスト		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし。講義中に適宜紹介いたします。		
成績評価の方法/Evaluation	テストによって評価します(基準：100%)。テストは、講義で紹介した内容の理解を確認する問題と、講義内容に関わる記述問題から構成する予定です。		
学習上の助言/Learning Advice	専門的な内容を、日常生活でどのように当てはめられるか考えながら、講義を聞いてもらえますと幸いです。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	実験心理学入門/Introduction to Experimental Psychology		
担当教員(所属)/Instructor	仲嶺 真(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320444
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	仲嶺 真(shinn.syr833@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本講義では、心理学の基礎領域における実証科学的な実験法の解説を行います。さらに、各実験計画について具体例を挙げながら説明し、心理学の研究がどのように行われるかを概観していきます。		
授業の達成目標/Course Goals	心理学実験法および実験計画の理解し、心理学的な視点を身につけることを目標としています。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人間の本性や行動、文化や芸術的側面に関する研究分野が人文科学です。この科目では、教養の根本である学問のうち、心理学の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方の基本を身につけます。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で進めます。毎回、担当教員が、スライドをもとに実験心理学に関するトピックについて講義します。スライドの配布は、しない予定でいますので、メモができるノートをご持参ください。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 インTRODクシヨン:実証科学とは何か 第2回 心理学とは何か:心理学の歴史と現在 第3回 心理学研究法とは何か 第4回 心理測定法とは何か 第5回 心理学実験とは何か 第6回 1要因の実験計画 第7回 1要因の実験の紹介 第8回 2要因の実験計画 第9回 2要因の実験の紹介 第10回 被験者内計画と被験者間計画の特徴 第11回 一事例の実験計画 第12回 一事例の実験の紹介 第13回 心理学の代表的な実験の紹介:ミルグラムの服従実験など 第14回 心理学の代表的な実験の紹介:心の理論の実験など 第15回 授業内容のまとめとテスト		
教科書・参考書等/Textbooks	特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	テストによって評価します(基準:100%)。テストは、講義で紹介した内容の理解を確認する問題と、講義内容に関わる記述問題から構成する予定です。		
学習上の助言/Learning Advice	「心」を捉えるのは簡単ではありませんが、その面白さがあります。「心」を実験的に捉えるには、どうしたら良いのか、講義を参考としながらも、批判的な視点を持ちながら取り組んでいただくと幸いです。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	障害者心理学/ Psychology for the Children with Disabilities		
担当教員(所属)/Instructor	石川 由美子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320988
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石川 由美子(ym_ishikawa@cc.utsunomiya.ac.jp 教育学部B409)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石川 由美子(前期 金曜日7-8時限 後期 水曜日 11時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	障害は、因果関係が明確に捉えられるものばかりではない。むしろ、因果関係など特定できない複雑なものである場合が多い。長く医学モデルで捕らえられてきた障害という概念を、人と人との関係性の世界でかたち創られる世界と捉えなおしてみる。物語の視点で障害を読み解くとき、障害は、診断名で規定するのではなく、人が生きあう生活の中で理解する必要があることがわかる。本講義では、関係性の中で見え隠れする障害の姿を、物語を通して紐解く。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義によって、障害を医学モデル、社会モデルといった二文法的な見方で捉えるのではなく、それらを統合した相互作用モデルという視点で捉えることについて受講者それぞれが熟考する機会となる。物語を題材としながら、講義に参加し考えることを通して、障害についての理解を深めることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	出会った人々の共に生きあうかたちで、障害は重くも軽くもなる。共に生きあうかたちの中で、弱みは、人の真の強さを生み出すものでもあると理解できたとき、優しく、温かく人々と共に生きるまなざしをもつ自分になれるのだろうと思います。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	障害に関わる題材のDVD、自伝、物語等を題材としながら、人と人が生き合う生活の中での生きるかたちとしての障害についての理解を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害とは何だろうかー弱さのちから (To Heartマルチの物語より) 2. 弱さのちからーキツツキと啄木鳥 (WHOの障害モデル: 医学モデル、社会モデル、相互作用モデル) 3. 3つの言葉 (グリム童話) (WHOの障害モデル: ICF生活機能分類で考えてみよう) 4. となりの怪物くんは怪物なんだろうか? (WHOの障害モデル: ICF生活機能分類で考えてみよう) 5. となりの怪物くんは怪物なんだろうか? (ぼくはADHDなんかじゃないよ、子どもたち同士に診断名は必要なの?) 6. 自閉症の子どもとは文化が異なるのだろうか? (フランシス・ハッペの自閉症の世界、イソップ株式会社より) 7. 自閉症の子どもとは文化が異なるのだろうか? (ぼくは海が見たくなりました) 8. 自閉症の子どもとは文化が異なるのだろうか? (手持ちの力をつけて生きることの意味) 9. 手のことば (君の心が聴こえるより、聴こえないことへの不安と性格の関係) 10. 手のことばは美しい (手話、音のないことばと美しい動き) 11. この人だあれ? Waterの奇跡!! 12. 三重苦はどのように乗り越えたのか? (サリバン先生の指導法) 13. 病気の子ども (レアの星より、キューブラーロスの死の概念) 14. 病気の子ども (白血病の子どもたち) 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じて資料を準備する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組みの態度20%、講義で提示する小課題への取り組み30%、課題レポート50%		
学習上の助言/Learning Advice	まずは、物語を通して自分の心を動かしてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	子どもの言語とコミュニケーション入門/Introduction to Language and Communication in Children		
担当教員(所属)/Instructor	岡澤 慎一(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320990
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	岡澤 慎一(028-649-5350 okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	岡澤 慎一(月曜9:00~10:00, 12:10~12:40)		
授業の内容/Course Description	ここでは、子どもとの教育的係わり合いを念頭において、子どもの言語とコミュニケーションに関する種々の問題について検討する。		
授業の達成目標/Course Goals	子どもの言語とコミュニケーションに関する基本的枠組みを自身のうちに形成することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育教養科目社会科学系科目の達成目標に対応する。		
前提とする知識/Prerequisites	特にないが、様々な条件を抱えた子どもとの教育的係わり合いの実際について強い関心があることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には、教員から配布する資料にしたがって進行する。講義資料に対応するスライドおよび映像資料をふんだんに使用し、講義内容に関する具体的、実際的理解の促進を図りたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 言語とコミュニケーションの基礎にあるもの 第2週 言語とは何か (1) 言語の構成要素 第3週 言語とは何か (2) 言語獲得に関する立場 第4週 言語とは何か (3) 初期の言語発達 第5週 コミュニケーションとは何か (1) 定義、コミュニケーションの発達 第6週 コミュニケーションとは何か (2) 共同性と相互性 第7週 コミュニケーションとは何か (3) コミュニケーション行動の働き 第8週 コミュニケーションとは何か (4) コミュニケーション行動の水準と種類 第9週 コミュニケーションとは何か (5) 個体内コミュニケーション行動、相互調整と自己調整 第10週 動物の「言語」 第11週 言語とコミュニケーションをめぐる話題 (1) 隔絶して育てられた事例の言語発達 第12週 言語とコミュニケーションをめぐる話題 (2) 各種障害事例における言語行動の形成 (1) 盲ろう 第13週 言語とコミュニケーションをめぐる話題 (3) 各種障害事例における言語行動の形成 (2) 言語障害 第14週 言語とコミュニケーションをめぐる話題 (4) 各種障害事例における言語行動の形成 (3) 重度・重複障害 第15週 まとめ 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書 田子 亜木子・中野 尚彦 (2016) 育児日記が語る赤ちゃん心理学Ⅰ. 川島書店 必要な資料は毎回配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の講義終了時に課す小レポート (15%) と途中で課す課題レポート (20%) および最低3冊以上のブックレポート (15%) および最終試験 (50%) による。		
学習上の助言/Learning Advice	授業は、料理に例えれば「メニュー」に過ぎない。本授業を通して関心を持った事象について、本や論文を読むなど、主体的に学びを展開してほしい。また、そのための助言には労を惜しまないので積極的に質問してほしい。皆さんの貢献を期待する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	心理学と人権／Psychology and Human-rights		
担当教員(所属)／Instructor	橘川 眞彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G320991
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	人権問題発生の原因となる心理学的要因である偏見と差別の問題について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・ 偏見の形成・変容・消去のメカニズムと方法について理解する。 ・ 成人に対する人権学習における指導法や教材開発の能力や技能を習得する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育の教養科目である。偏見や差別問題、人権問題解決に果たす心理学の役割について学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	特に求めません。		
関連科目／Related Courses	特に求めません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義が中心となります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学と人権問題との関わり 2. 偏見と差別 3. 心理学と女性の人権 4. 心理学と子どもの人権 5. 心理学と高齢者の人権 6. 心理学と障害者の人権 7. 心理学と同和問題 8. 心理学と外国人の人権 9. 心理学とアイヌの人々の人権 10. 心理学とHIV・セン病元患者等の人権 11. 心理学と刑を終えて出所した人の人権 12. 心理学と犯罪被害者等の人権 13. 心理学とインターネットによる人権侵害 14. 心理学とその他の人権侵害 15. まとめ 		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜プリントを配布します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(20%)及び期末試験(80%)を総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	偏見と差別及び人権問題に興味がある学生の受講を希望します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	学校臨床心理学/School Clinical Psychology		
担当教員(所属)/Instructor	川原 誠司(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G320995
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	川原 誠司(メールアドレス: kawahara★cc.utsumiya-u.ac.jp (★を@に変えてください) 電話: 028-649-5340 ※迷惑電話が多いので、できるだけメールでの予約・質問をお願いいたします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	川原 誠司(月曜日12:10~12:40 / 木曜日14:30~16:00 (相談等はできるだけ予約願います。急用で対応できない場合もあります。上記以外でも、短い時間で終わるもの等は、在室中は極力対応します))		
授業の内容/Course Description	学校の中で起きる様々なところの問題を知り、その問題に寄り添い、働きかけていくことの重要性を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・学校臨床の実情を分かるようになること ・子どもや教師への臨症的な視点を持つようになること ・学校臨床に関する基本的な知識を習得すること 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は基盤教育科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	<p>特に前提とする知識は必要ないが、学校や子ども、教師、こころの動き、といったことについて考えてみようという気持ち。 予習復習等も課されるので授業に積極的に参加することを求めます。</p> <p>※後ろ向きな受講、楽をしたいという動機での受講だと苦勞しますので、受講に関して慎重に判断してください。アクティブラーニングの意識を求めます。</p>		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・予習(文献を読んでくること)ならびに復習が課される。 ・授業中は講義ならびに学生同士のディスカッションを組み合わせで行う。 ・授業の予習復習にあたってはe-Learningを利用する。したがってその操作を忌避しないことが求められる 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 学校臨床ということ、本授業での基本的姿勢 第2回 不登校・非社会性についての概説 第3回 不登校・非社会性についての具体的情報・事例 第4回 不登校・非社会性についての働きかけのポイント 第5回 不登校・非社会性についての模擬職員会議 第6回 いじめ・暴力行為についての概説 第7回 いじめ・暴力行為についての具体的情報・事例 第8回 いじめ・暴力行為についての働きかけのポイント 第9回 いじめ・暴力行為についての模擬職員会議 第10回 授業困難・学級崩壊についての概説 第11回 授業困難・学級崩壊についての具体的情報・事例 第12回 授業困難・学級崩壊についての働きかけのポイント 第13回 授業困難・学級崩壊についての模擬職員会議 第14回 教師の精神的健康について 第15回 学校という場所のすごさ、教師の関わりのおすごさ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しないが、毎回読むべき文献を指定する。それを各自読んでくるのが受講の前提となる。		
成績評価の方法/Evaluation	(1) 受講状況(出席・態度)、(2) 予習・復習の様子、(3) レポートの出来、の3つを合わせて行う。		
学習上の助言/Learning Advice	学校という場での生活経験はほぼ全ての人にあると思います。その学校という場では様々な人の様々な思いやこころの問題が渦巻いていることを知ってもらいたいと思います。子どもたちだけでなく、大人や教師の中にも。そのような生々しい場所において、教師としての自分に何ができるかという点について、思いを馳せてもらいたいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	言語習得論/Language Acquisition		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G321001
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	本授業では、母語や外国語がどのように習得されるのか、そのプロセスとメカニズムについて主に言語心理学的観点から概説します。		
授業の達成目標/Course Goals	言語習得に関する関心と理解を深めることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育教養科目人科学系科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	ことばに対して関心を持っていることが望ましいと思います。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画にしたがって講義形式で授業を進めますが、授業の中で各自考えたことを発表してもらうこともあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 言語心理学と言語習得 第2回 母語の習得1(発話の発達) 第3回 母語の習得2(単語と意味、語彙の習得) 第4回 母語の習得3(文構造の発達) 第5回 母語の習得4(文法の習得) 第6回 母語の習得5(文章理解) 第7回 母語の習得6(文章産出) 第8回 第二言語の習得1(子どもと成人の第二言語習得) 第9回 第二言語の習得2(学習者言語の特徴と母語の影響) 第10回 第二言語の習得3(言語習得のメカニズム) 第11回 第二言語の習得4(ストラテジー、学習者要因) 第12回 第二言語の習得5(縦断的研究・横断的研究、質的研究・量的研究、データ収集方法) 第13回 学習言語の習得1(話しことばと書きことば、一次的事ことばと二次的事ことば) 第14回 学習言語の習得2(学習に必要な語彙の習得、教科書の文章の理解) 第15回 学習言語の習得3(教室談話の特徴とその習得、教科理解と評価)、まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の中で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・試験(50%)に基づき評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業で紹介する関連図書を通して、さらに理解と関心を深めてほしいと思います。		
キーワード/Keywords	基盤教育		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本文学(古典)／Japanese Literature(The Classics)		
担当教員(所属)／Instructor	高山 道代(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G330000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	11世紀初頭に成立したとされる『源氏物語』は21世紀初頭の今日にいたるまでさまざまなかたちで享受されている日本古典文学の代表的な作品である。この講義では、活字化された現代版『源氏物語』をもちい、「夕顔」巻を中心に据えながら、「桐壺」「帚木」「空蝉」の各巻も参照し、テキストを精読する。文化的背景や作品構成などについても考察する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文学作品にのめり込み、複眼的によむ力を身につけること ・辞書を駆使し、古典語の意味を考えながら解釈する力を身につける 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育教養科目(人文科学系科目)の「文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける」という達成目標に対応している。		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語によるコミュニケーションがとれること ・古典語の辞書が使用できること ・古典文学や古代語に興味をもっていること 		
関連科目／Related Courses	関連科目: 「日本語の表記」(基盤教育教養科目)・「日本語論」(国際学部専門科目)・「日本語史」(国際学部専門科目)		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基本的にテキストにそって原文を読み進め、考察していく。講義形式の授業であるが、指定範囲について事前に辞書で調べ、読んでくることを前提とし、授業内活動にとりくんでもらう。また、必要に応じて課題をだし、受講者全員に考えてもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1初回ガイダンス 2物語の背景 3読解①(桐壺) 4読解②(桐壺) 5読解③(帚木) 6読解④(帚木) 7読解⑤(空蝉) 8読解⑥(夕顔) 9読解⑦(夕顔) 10読解⑧(夕顔) 11読解⑨(夕顔) 12読解⑩(夕顔) 13読解⑪(夕顔) 14作品鑑賞 15総括		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: 『源氏物語 第一巻』角川ソフィア文庫 教材: 古典語の辞書(出版社の別は問わない)		
成績評価の方法／Evaluation	授業への取り組み、課題等(50%)、試験(50%)を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	受講者の予習を前提とする。指定された範囲までテキストを読み、与えられた課題に取り組んでから、授業に臨むこと。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国文学/Chinese Literature		
担当教員(所属)/Instructor	池澤 實芳(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G332215
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	池澤 實芳(電話: 024-545-8791 e-mail: ikezawa@econ.fukushima-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	池澤 實芳(月曜日, 午前12時10分~12時40分, 非常勤控室にて)		
授業の内容/Course Description	この授業は、中国当代文学を対象とします。当代文学とは、1949年~現在までの中華人民共和国時代の文学を指します。当代文学は、解放直後からの17年文学、文化大革命時期(1966~76.10)の空白期、文革以後の新時期文学の3つの時期に大別できます。この授業では、新時期文学の河北省の女性作家・鉄凝(1957~)の3篇の中篇小説を鑑賞します。これら3作品には、華北大地の自然とそこに暮らす人びとの生活が、時に荒々しいほどに力強く、時に心打ち震えるような細やかな筆致で描かれています。おそらく読者は、これらの作品を読み進めていくうちに、中国現代史における中国の農民たちの悲喜交々の想いが、また中国と日本との抜き差しならない深刻な関わりが、そして市場経済下の人びとの欲望と不安の渦巻く世界が、忘れがたい版画や映画の1シーンを見るような思いで深く心に刻まれることでしょう。		
授業の達成目標/Course Goals	この授業では、次の3点を目標とします。1,中国当代文学の概略を把握する。2,新時期以後の女性作家・鉄凝を理解する。3,鉄凝の3作品を読むことにより、文学作品としての3作品の特徴を把握するとともに、中国現代(1919~49)から当代に至る中国の歴史、女性の生活及び日中関係を理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業では、人文科学系科目の到達目標である教養の根本としての哲学、心理学、文学、芸術のうち、文学分野、特に中国当代文学の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学の評価のための基本を身につけます。		
前提とする知識/Prerequisites	高校までに習得した中国近現代史の知識があれば十分です。中国語を学んだことがなくても大丈夫です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	第1, 2回を導入に当てます。第3回以降は、テキストを受講生が輪読(音読)することにより授業を進めていきます。なお、作品理解のために、適宜、視聴覚教材を利用します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	様々な要因で実際の授業では計画通り進まない場合もありますが、以下のように計画しています。 第1回 導入(1): 鉄凝概説, 1945年8月10日について 第2回 導入(2): 当代文学前史, 中華民国期の女性作家, 林徽因と凌叔華 第3回 「棉積み」を読む(1)---梗概, 登場人物について 第4回 「棉積み」を読む(2)---米子, 明喜, 宝聚ら五四時期の人びと 第5回 「棉積み」を読む(3)---小臭子, 喬, 老有らの幼少期, 柳条湖事件 第6回 「棉積み」を読む(4)---小臭子, 喬の青春時代, 抗日戦争前半 第7回 「棉積み」を読む(5)---喬の最期と日本兵の蛮行 第8回 「棉積み」を読む(6)---小臭子の最期, 国の秘密 第9回 ロシア映画『女狙撃兵マリユートカ』鑑賞---小臭子殺害場面の発想のヒント 第10回 「麦積み」を読む(1)---文革時期の河北農村, 知識青年と土着農民 第11回 「麦積み」を読む(2)---端村の農民の悲哀, 「人買い」 第12回 「麦積み」を読む(3)---沈小鳳失踪事件とその後 第13回 「草積み」を読む(1)---山村の若者(死者)が語る物語 第14回 「草積み」を読む(2)---90年代, 欲望の時代 第15回 「草積み」を読む(3)---怪異小説的結末		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 鉄凝『棉積み』(2003年11月, 近代文芸社)。在庫がない場合は、生協に注文して下さい。 参考書: 洪子誠著, 岩佐・間編訳『中国当代文学史』(2013年12月, 東方書店), 小島・丸山『中国近現代史』(岩波新書)/教材等: 適宜, プリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の小レポート(50%), 期末試験または期末レポート(50%)の結果を総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業を契機に、日本人の受講生は、鉄凝以外の中国当代文学や現代文学(中華民国時期)の作家の作品や、台湾の文学作品を読み、中国語を使用している人びとの悲喜交々の生活に触れてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス文学/French Literature		
担当教員(所属)/Instructor	守永 直幹(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G334157
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守永 直幹(講義終了後対応します。)		
授業の内容/Course Description	文学のみならず多岐に渡り学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	フランス文学は、哲学や科学思想、美術や建築と深く結びついて発展してきました。それは一方で洗練された都市の文学であると同時に、外なる自然を探求し、ついに自らの内に包含せんとする野生の文学でもありました。人類文明を文学として昇華し、可能なかぎり普遍的な「世界文学」たらしめた。その企ての成否は別として、地球文明のありようが大きく変質しつつある今、私たちが改めてフランス文学から学ぶことは多々あると思われます。授業では19世紀から20世紀にかけての文学や思想・芸術をもっぱら取り上げ、都市と自然の相克を論じます。過去の文人や哲人の自然観・人間観は現代にどう受け継がれているか。それが日本のサブカルチャーとどう関わるかにも言及する予定です。学生との応答で講義内容は変化するため、シラバスの項目そのままの授業になるとは限りません。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会に参画しながら造り続ける(あるいは、身に付け続ける)幅広く深い教養の基礎を学びます。		
前提とする知識/Prerequisites	フランス語は用いません。受講生の要望に応じて講義内容は変化します。おのずと話題は多岐に及びますが、噛み砕いた分かりやすい話をするつもりです。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	フランス文学史の講義ではなく、現代の学生にたいする文学の案内、いわば教養教育を旨とします。授業内容に応じて、絵画や芸術作品のスライド、映画、音楽等をできるだけ多く紹介するつもりです。リアクション・ペーパー等を介した質疑応答を重視し、講義内容もそれに応じて変化します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 フランス文学とはなにか/授業内容のガイダンス 第2週 主体をめぐる冒険—文学・自然・建築(1) 第3週 主体をめぐる冒険—文学・自然・建築(2) 第4週 主体をめぐる冒険—文学・自然・建築(3) 第5週 ヴィクトル・ユゴーのメディア論—ゴシック建築と重力からの解放(1) 第6週 ヴィクトル・ユゴーのメディア論—ゴシック建築と重力からの解放(2) 第7週 『フランケンシュタイン』あるいは人工生命の誕生(1) 第8週 『フランケンシュタイン』あるいは人工生命の誕生(2) 第9週 進化論から生命の哲学—ハーファブル、ベルクソン、プルースト(1) 第10週 進化論から生命の哲学—ハーファブル、ベルクソン、プルースト(2) 第11週 進化論から生命の哲学—ハーファブル、ベルクソン、プルースト(3) 第12週 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』とディストピア 第13週 J・ヴェルヌ、世界の果ての旅 第14週 マラルメとエドガー・アラン・ポーの宇宙(1) 第15週 マラルメとエドガー・アラン・ポーの宇宙(2) 第16週 結論/レポートの指示		
教科書・参考書等/Textbooks	教材や参考文献のたぐいは授業中に指示するか、あるいはコピーを配付します。		
成績評価の方法/Evaluation	千字程度のレポートを2回提出してもらいます。1回目のレポートを授業内で講評し、評価基準を明示します。各人の自由な発想を評価し、コピーや、当方の指示を無視したレポートは一切認めません。		
学習上の助言/Learning Advice	文学や芸術に関心があり、広く文化や教養に触れたいと願う学生さんが受講されるのを期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	英文学入門/Introduction to British Literature		
担当教員(所属)/Instructor	大野 直美(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G334921
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 直美(ohno8@nifty.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 直美(月曜日 授業終了後 講師控室)		
授業の内容/Course Description	英国の長編小説に触れながら、作者の特質、時代背景について学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	文学の豊かな表現を理解すると同時に、読書に親しむことによって、文学作品を楽しむ技術も習得します。さらに、異なる文化圏の考え方についても理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	広く世界に目を向け、文化の知識を増やすとともに、芸術の理解を深めて、人間性を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	特に知識は前提としませんが、積極的に学ぼうとする態度は求めます。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には講義形式をとります。テキストの英文を読んでもらうこともあります。受け身の態度でないこと。適宜、映像も取り入れます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 授業の進め方を説明します。 第2回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』1 第3回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』2 第4回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』3 第5回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』4 第6回 シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』1 第7回 シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』2 第8回 シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』3 第9回 チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』1 第10回 チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』2 第11回 チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』3 第12回 チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』4 第13回 E・M・フォースター 第14回 質疑応答 第15回 まとめとレポート課題提出		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: Christopher Tate他著『映画で見るイギリス小説入門』開文社 1400円		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度(50%)、レポート課題(50%)から成績を評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	文学を読む楽しさを覚えたい人に受講してもらいたいです。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	米文学入門/Introduction to American Literature		
担当教員(所属)/Instructor	幡山 秀明(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G334925
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	アメリカ戦争文学の歴史を紹介する。まず、受講生が馴染みのある中学高校の英語の教科書に採用されている戦争に関する内容を確認していく。さらに、ヴェトナム戦争参戦作家Tim O'Brien, 第二次世界大戦を伝えるVonnegut, 第一次世界大戦のHemingway, 南北戦争のS. CraneやA. Bierce達の作品をDVDなど映像も活用して紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	1. 戦争の物語や映画について体系化した知識を持つ。 2. 英語教科書の戦争ものを再確認する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	様々な英語教科書で必ず取り上げられている戦争に関するreading教材を足がかりにして、アメリカの戦争作品を紹介しながら世界や日本の歴史の中で戦争に関する知識を深める。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業者の講義や説明が中心となりますが、グループでの話し合いや受講生への質疑により出来るだけ多くの人に意見を述べてもらい、知識をシェアしていきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 Introduction 第2回 第二次世界大戦：原爆と“A Mother’s Lullaby”(New Horizon 3), “Sadako”(New Crown 3), “A Red Ribbon”(Sunshine 3) John HerseyのHiroshima、 第3-6回 第二次世界大戦：Kurt VonnegutのSlaughterhouse 5 第7回 第一次世界大戦：Hemingwayの戦争小説 第8回 第一次世界大戦：ジョニーは戦場に行った 第9回 前回続き 第10回 南北戦争のS. CraneやA. Bierce達の作品 第11回 前回続き 第12回 “Not So Long Ago” とヴェトナム戦争：Tim O'Brien 第13回 前回続き 第14回 未来戦争：Bradbery の There Will Come Soft Rain 第15回 前回続き 第16回 レポート提出と指導		
教科書・参考書等/Textbooks	基本資料はこちらで用意します。その他は必要に応じて各自用意すること。		
成績評価の方法/Evaluation	出席(15%)、授業への参加・貢献(15%)、レポート(70%)の結果を総合的に判断する。		
学習上の助言/Learning Advice	積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords	war stories		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ヨーロッパ地域文化論/Culture of Europe		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G341067
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	ヨーロッパの思想体系についての概要を学んだのち、ヨーロッパとその周縁地域(ロシア)を比較しながら文化史をたどります。		
授業の達成目標/Course Goals	1. ヨーロッパの文化と芸術への理解を深めること。 2. 文化を研究する際の視点、方法への理解を深めること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	芸術・文化の学習を通じて、人文系の学問に親しみます。これをつうじて幅広い教養と豊かな人間性を身に付け、文化の多様性についての理解を深め、知識を習得するという基盤教育の目標に関連しています。		
前提とする知識/Prerequisites	特に予備知識はいりません。		
関連科目/Related Courses	芸術文化論(国際学部)		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義を中心に進めます。テーマに応じて視聴覚資料を鑑賞します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 世界像の変遷 古代-中世 第2回 世界像の変遷 中世-ルネサンス 第3回 ルネサンスの知的革命 第4回 バロック時代の知と芸術 第5回 バロック時代の世俗権力-ベルサイユ宮殿とルイ14世 第6回 博物学の時代 第7回 ヨーロッパの周縁地域 第8回 ロシアの近代化 18世紀 第9回 ロシアの近代化 19世紀 第10回 ロシアの文学 ロマン主義からリアリズムへ 第11回 ロシアの芸術 美術、舞台芸術 第12回 世紀末の文化と神秘思想 第13回 香りの芸術 ロシアとフランス 第14回 革命と芸術 第15回 モダニズムとソビエト		
教科書・参考書等/Textbooks	授業で資料を提示します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度 30% 試験70%		
学習上の助言/Learning Advice	授業をきっかけとして、関連する本や資料を読んでみるなどの自分なりの取り組みを行うとよいと思います。		
キーワード/Keywords	ヨーロッパ、文化研究、芸術、文化		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	現代美学／Contemporary Aesthetics		
担当教員(所属)／Instructor	原田 葉子(その他)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G341373
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	原田 葉子(yharadam@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	原田 葉子(火曜日 9:50~10:30)		
授業の内容／Course Description	イメージの創出において、また美的体験において、記憶は重要な役割を果たしている。記憶が芸術とどのように関わっているのか、いくつかのテキストおよび芸術作品をとおして検討していく。		
授業の達成目標／Course Goals	美学を学ぶ上での基礎的な知識を習得し、イメージや美をめぐる諸問題について考察できるようになる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業では、人文科学系科目の到達目標である教養の根本としての哲学、心理学、文学、芸術のうち、美学・芸術に関する基礎的な知識を身につけ、幅広い教養を育むとともに、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学の評価のための基本を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で進めるが、ときには学生の意見も求める。作品のスライドを見せるなど、具体例を挙げながら、理論的な枠組みの理解を目指す。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 美学へのアプローチ 第2週 夢想への志向 第3週 庭園と記憶 第4週 廃墟をめぐって 第5週 ロマン主義の美学 第6週 ボードレールの美術批評 第7週 ボードレールの“憂鬱と理想” 第8週 ベルクソンにおける記憶と芸術 第9週 フロイトにおける記憶 第10週 フロイトの芸術論 第11週 ブルーストの無意志的記憶について 第12週 ブルーストの絵画をめぐる言説と自然 第13週 風景と記憶 第14週 現代アートにみられる自然との共生 第15週 まとめ、イメージと想起		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は指定しない。必要な資料はプリントで配布する。参考書は授業中に指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	学期末レポート(70%)と小テスト(30%)を合わせて評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	ときに哲学的な内容に関して理解しづらいことがあるかもしれないが、そうした際には積極的に質問してほしい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	芸術学/Science of Art		
担当教員(所属)/Instructor	原田 葉子(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G341772
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	原田 葉子(yharadam@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	原田 葉子(火曜日 9:50~10:30)		
授業の内容/Course Description	現代社会においては様々なイメージが満ちあふれ、私たちは少なからずその影響を受けている。イメージをとおして、何が伝えられてきたのか、またどのように解釈しうるのかを、西洋美術の歴史を踏まえ、いくつかの方法論を紹介しつつ、考察していきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	あるイメージを目にしたときに、その内容や意味、背景、制作された意図などについて自らの言葉で語れるように、また、現代における様々な視覚的イメージについて、批判的に検討できるようになる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業では、人文科学系科目の到達目標である教養の根本としての哲学、心理学、文学、芸術のうち、芸術に関する基礎的な知識を身につけ、幅広い教養を育むとともに、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学の評価のための基本を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業の前半で理論的な枠組みを示し、後半で実際にスライドを見ながら検討していく。講義形式で行うが、ときに学生の意見も述べてもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 芸術学へのアプローチ 第2週 イメージの創出 第3週 “芸術意志”について 第4週 不可視のものイメージ 第5週 象徴について 第6週 様式の誕生 第7週 古典と革新 第8週 制度と美術 第9週 美術とジェンダー 第10週 美術と知覚心理学 第11週 イリュージョンの力 第12週 イメージと記号 第13週 「芸術」と「アート」 第14週 新たなメディアによるイメージ 第15週 まとめ、イメージの力		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。参考書は授業中に指示する。必要な資料はプリントで配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末レポート(70%)と小テスト(30%)を合わせて評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃から芸術作品に触れるようにつとめ、自分なりの解釈を試みてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	音楽通論/General Theory of Music		
担当教員(所属)/Instructor	木下 大輔(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G342000
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	木下 大輔(連絡先およびオフィスアワーは所定の場所に掲示される。原則eメールで予約を取ること。)		
授業の内容/Course Description	音楽の仕組み。		
授業の達成目標/Course Goals	音楽の仕組みに関する基礎的事項の理解。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	上記到達目標に達するための学習を行う。 芸術の評価や鑑賞のための基本を身につけるために、音楽の仕組みを学ぶ。		
前提とする知識/Prerequisites	1. 楽譜が読めること。 2. 楽典についての基礎知識を持っていること。もし、この知識のない者が受講する場合は、大角欣矢『ポケット楽典』(音楽之友社)を受講学期前に一通り読んで(第8章を除く)、内容を理解しておくこと。		
関連科目/Related Courses	1. 楽譜が読めること。 2. 楽典についての基礎知識を持っていること。もし、この知識のない者が受講する場合は、大角欣矢『ポケット楽典』(音楽之友社)を受講学期前に一通り読んで(第8章を除く)、内容を理解しておくこと。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	音楽の実例を示しながら講義する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 音楽の仕組み 2. 音・音律 3. 音程・協和/不協和 4. 音階・旋法 5. 調・調性 6. 和音・和声法 7. 非和声音 8. 対位法 9. 拍・拍節・拍子 10. リズム 11. 音楽形式 12. ソナタ形式 13. フーガの形式 14. 変奏曲の形式 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： ・久保田慶一、木下大輔、ほか『音楽通論キーワード150』(アルテス・パブリッシング) 。参考書： ・野本由紀夫『はじめてのオーケストラスコア』音楽之友社 ・菊池有恒『楽典―音楽家を志す人のための一新版』音楽之友社 ・菊池有恒『演奏のための楽典』音楽之友社 ・大角欣矢『ポケット楽典』音楽之友社 ・ビッチュ『音楽覚え書き貼』音楽之友社		
成績評価の方法/Evaluation	試験(100%)。ただし、本学規定の出席日数に達しない者には、単位を与えられない。なお、授業中の迷惑行為者(私語など)は、大幅減点ないし単位不授与。		
学習上の助言/Learning Advice	教育学部音楽教育専攻の学生へ： 専門科目「音楽史A」の内容を理解するために、この「音楽通論」を履修することを強く勧める。 その他の学生へ： 「音楽は、ただ楽しければそれで良い」と考えている人には、この授業は不向きである。知性・感性の両面から音楽に対する「深い」理解を追求する意志のある人のみを、歓迎する。		
キーワード/Keywords	音楽、音楽理論、音楽の仕組み		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	管打合奏演習/Practice of Wind Orchestra		
担当教員(所属)/Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G342019
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 他 /Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容/Course Description	吹奏楽器(管楽器・打楽器群)構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を習得する。また、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。		
授業の達成目標/Course Goals	吹奏楽オリジナル作品を中心に演奏研究を行い、オーケストラアレンジ作品、ポップス、ジャズ等にバリエーションを広げ、研究発表を行う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育科目教養科目人文科学系科目であり、合奏体の中で楽器同士が、演奏上で共有し合っていることを認識する。		
前提とする知識/Prerequisites	楽器経験があり、且つ小型及び中型楽器に関しては個人で所有していることが望ましい(学校既存の楽器には数に限りがあるため)。授業の運営上45名を限度とする。また、楽器構成に関するバランスも考慮する。		
関連科目/Related Courses	楽器経験があり、且つ小型及び中型楽器に関しては個人で所有していることが望ましい(学校既存の楽器には数に限りがあるため)。授業の運営上45名を限度とする。また、楽器構成に関するバランスも考慮する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	合奏を中心として、楽曲分析、楽器の特徴を生かした音響研究、レパートリーの拡充を実践的に行うものである。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、役割分担 2. 楽曲演習①オリジナル作品 3. 楽曲演習②オリジナル作品 4. 楽曲演習③オリジナル作品 5. 楽曲演習④オリジナル作品 6. 楽曲演習⑤オリジナル作品、アレンジ作品 7. 楽曲演習⑥オリジナル作品、アレンジ作品 8. 楽曲演習⑦オリジナル作品、アレンジ作品 9. 楽曲演習⑧オリジナル作品、アレンジ作品 10. 楽曲演習⑨オリジナル作品、アレンジ作品、ポピュラー作品 11. 楽曲演習⑩オリジナル作品、アレンジ作品、ポピュラー作品 12. 楽曲演習⑪オリジナル作品、アレンジ作品、ポピュラー作品 13. 楽曲演習⑫オリジナル作品、アレンジ作品、ポピュラー作品 14. 楽曲演習⑬オリジナル作品、アレンジ作品、ポピュラー作品 15. コンサート、発表 		
教科書・参考書等/Textbooks	各自折りたたみ式譜面台が用意できると望ましい。 楽譜は授業で提示。		
成績評価の方法/Evaluation	授業貢献度(50%)、演奏技術の向上(50%)を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	授業の中で個人練習、パート及びセクション等の練習は難しい。従って日常の練習を怠らないこと。演奏以外の面において事務的な作業に協力的であること。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	近現代美術論/Theory of modern art and contemporary art		
担当教員(所属)/Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G342821
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容/Course Description	広範なジャンルの作品を取り上げ、近代および現代の美術について考察する。批評的言説、美術史、芸術学、美術理論、さらには作家論、作品論なども交え、今日の美術を読み解く。		
授業の達成目標/Course Goals	近代および現代の美術表現の多様性とその変遷を理解し、美術への関心を高めることを目標とする。また、自らの視点で美術を考察する能力を培い、明確に社会のなかで美術を位置づけられるようにする。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	現代に生きる人間の教養の基礎として、今日の社会における創造活動としての美術について素養を高める。		
前提とする知識/Prerequisites	美術に興味、関心があり、中学、高校の学習などから美術史の基本的な流れを理解していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	美術に興味、関心があり、中学、高校の学習などから美術史の基本的な流れを理解していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	この授業は2名の教員が分担して行う。全体を通して近現代美術論を扱うが、前半では、主に絵画・彫刻について取り上げ、後半では、建築を通して近代デザインの成り立ちについて見ていく。講義を軸に、レポート、意見交換、発表なども随時取り入れる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1週 ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明) 第2週 近現代美術概観 第3週 表現主義・キュビズム・抽象 第4週 ダダとシュルレアリスム 第5週 アヴァンギャルドとモダニズムの理論 第6週 抽象表現主義・ミニマルアート・アースワーク 第7週 大衆文化と芸術(ポップアート) 第8週 現代美術の諸概念(社会的主題、物語性、身体性、他者性) 第9週 美術における近現代 第10週 芸術と技術の統一バウハウスとグロピウス、ミース・ファン・デル・ローエ 第11週 装飾から機能・合理主義へ ル・コルビュジエ 第12週 先導的な実験場オランダ デ・ステイル 第13週 社会創造のための美術へ ロシア・アヴァンギャルド 第14週 フランク・ロイド・ライトとアメリカ・ミッドセンチュリー 第15週 ポストモダニズム以降 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 『カラー版 西洋美術史』高階 秀爾、美術出版社、2002年増補新装版 参考書: 『カラー版 20世紀の美術』末永照和、美術出版社、2000年初版(2010年第6版) 『カラー版 世界デザイン史』阿部公正、美術出版社、1995年初版(2012年増補新装版) 『美術の物語』E・H・ゴンブリッチ、ファイドン、2011年(16版、ポケット版) 『芸術理論の現在』藤枝晃雄、谷川渥、東信堂、1999年 『美学への招待』佐々木健一、中央公論新書、2004年 他、参考となる図書や文献は授業時に随時紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	出席、発言、レポート等の取り組みを総合して成績を評価する。成績の秀は90%以上、優は80%以上90%未満、良は70%以上80%未満、可は60%以上70%未満。なお、2/3以上の出席がないと単位を取得できない。		
学習上の助言/Learning Advice	積極的な発言を期待する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	多言語コミュニケーション学A/Multilingual Communication A		
担当教員(所属)/Instructor	吉田 一彦(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381215
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	吉田 一彦(ysd@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	吉田 一彦(月曜日13:00-14:30)		
授業の内容/Course Description	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。そこでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動をとおして実体験していただきます。/In this course we practice communication in several different languages, which is simply an everyday phenomenon in many places in the world but rare in Japan. In multilingual situations we try to obtain mutual understanding rather than correctness of grammar or pronunciation. We will experience achieving understanding with some good use of our limited knowledge and ability in foreign languages throughout classroom activities.		
授業の達成目標/Course Goals	多言語状況は言語コミュニケーション自体に関する理解を深める絶好の場。自分の母語のあり方を振り返るとともに、クラスメートがやっている自分とは違ったコミュニケーションの仕方にも目を向ける視点を養っていきます。/We will experience achieving understanding with some good use of our limited knowledge and ability in foreign languages throughout classroom activities. This course also provides opportunities to reflect on our ways of communication in our mother tongue and to know better classmates' different ways from ours.		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	すべての留学生が受講できます。正規学部生と学部の特別聴講学生は、基盤教育科目として受講することができます。/Students in any status can take this course. The course is part of General Education Curriculum for undergraduate and exchange students.		
前提とする知識/Prerequisites	日・英語をしっかりと使う意志があること。受講者同士協力し合って活動する意志があること。そのような意志がない人は、他の受講者の迷惑になりますので受講お断り。/Participants need the intention to use both English and Japanese properly and to cooperate with other classmates. Students having no such intention are NOT allowed to take the course, as they must be an annoyance to other participants.		
関連科目/Related Courses	「多言語コミュニケーション学B」とは別に受講・単位取得可能です。/Students can obtain credits separately from 'Multilingual Communication B'.		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	日本語と英語を半々に使いながら授業を進めていきますが、参加者の母語も可能な限り使っていきます。国籍や社会・文化背景の異なる人々が机を並べて共に学ぶ機会をできるかぎり設けます。/The course is conducted half in English, half in Japanese. And we use as much of participants' mother tongues as possible. The class offers opportunities to study with people of different nationalities and cultural/social backgrounds.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週(1st week)オリエンテーションと(希望者多数の場合)選考試験/Orientations and selection (in case of too many applicants) 第2週(2nd week)多言語の基礎学習1+簡単なコンタクトゲーム/Studying MLC basics 1 + Simple Contact Game 1 第3週(3rd week)多言語の基礎学習2+簡単なコンタクトゲーム/Studying MLC basics 2 + Simple Contact Game 2 第4週(4th week)グループ結成1+母語再発見1/Grouping 1+Discover mother tongues 1 第5週(5th week)3言語2分スキット1 /2-minute skit in 3 languages 1 第6週(6th week)3言語2分スキット2 /2-minute skit in 3 languages 2 第7週(7th week)3言語2分スキット3 /2-minute skit in 3 languages 3 第8週(8th week)3言語2分スキット4 /2-minute skit in 3 languages 4 第9週(9th week)3言語2分スキット5 /2-minute skit in 3 languages 5 第10週(10th week)グループ結成2+母語再発見2/Grouping 2+Discover mother tongues 2 第11週(11th week)英語の物語を書く1/Writing an English story 1 第12週(12th week)英語の物語を書く2/Writing an English story 2 第13週(13th week)英語の物語を書く3/Writing an English story 3 第14週(14th week)英語の物語を書く4/Writing an English story 4 第15週(15th week)まとめの活動と多言語パーティー/Review and multilingual party ※他に、本学で教えられる外国語のうち半数についての基礎事項の学習、世界の多言語地域からの報告行います。/Also, the course includes basics on half of the foreign languages taught at this university and reports from multilingual areas in the world.		
教科書・参考書等/Textbooks	教師が作って配布した資料を使用します。/Original materials will be distributed in class.		

成績評価の方法／Evaluation	教室活動への参加と貢献/Attendance and participation(80%)、クラスでのプレゼンテーション/Class presentation(20%)。
学習上の助言／Learning Advice	言語ゲームを楽しんでください。3回以上個人の都合で欠席、毎度の遅刻、授業中睡眠の予定の人は、受講しないでください。初回授業に出席すること。止むを得ない理由がなく初回に欠席した学生は受講登録を認めません。/Enjoy language games. PLEASE DO NOT take this class, if you are planning to be absent more than 4 times for a very personal reason, be late regularly or sleep during class hours. Attend the first week. Those students who do not do that without any unavoidable reasons will not be allowed to register the name in the course.
キーワード／Keywords	社会的・文化的・言語的多様性、寛容さ、発見、尽くすこと、伝え合い / social, cultural and linguistic diversity, tolerance, noticing, contribution, communication
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	多言語コミュニケーション学B/Multilingual Communication B		
担当教員(所属)/Instructor	吉田 一彦(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381216
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	吉田 一彦(ysd@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	吉田 一彦(月曜日13:00-14:30)		
授業の内容/Course Description	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。そこでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動をとおして実体験していただきます。/In this course we practice communication in several different languages, which is simply an everyday phenomenon in many places in the world but rare in Japan. In multilingual situations we try to obtain mutual understanding rather than correctness of grammar or pronunciation. We will experience achieving understanding with some good use of our limited knowledge and ability in foreign languages throughout classroom activities.		
授業の達成目標/Course Goals	多言語状況は言語コミュニケーション自体に関する理解を深める絶好の場。自分の母語のあり方を振り返るとともに、クラスメートがやっている自分とは違ったコミュニケーションの仕方にも目を向ける視点を養っていきます。/We will experience achieving understanding with some good use of our limited knowledge and ability in foreign languages throughout classroom activities. This course also provides opportunities to reflect on our ways of communication in our mother tongue and to know better classmates' different ways from ours.		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	すべての留学生が受講できます。正規学部生と学部の特別聴講学生は、基盤教育科目として受講することができます。/Students in any status can take this course. The course is part of General Education Curriculum for undergraduate and exchange students.		
前提とする知識/Prerequisites	日・英語をしっかりと使う意志があること。受講者同士協力し合って活動する意志があること。そのような意志がない人は、他の受講者の迷惑になりますので受講お断り。/Participants need the intention to use both English and Japanese properly and to cooperate with other classmates. Students having no such intention are NOT allowed to take the course, as they must be an annoyance to other participants.		
関連科目/Related Courses	「多言語コミュニケーション学A」とは別に受講・単位取得可能です。/Students can obtain credits separately from 'Multilingual Communication A'.		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	日本語と英語を半々に使いながら授業を進めていきますが、参加者の母語も可能な限り使っていきます。国籍や社会・文化背景の異なる人々が机を並べて共に学ぶ機会をできるかぎり設けます。/The course is conducted half in English, half in Japanese. And we use as much of participants' mother tongues as possible. The class offers opportunities to study with people of different nationalities and cultural/social backgrounds.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週(1st week)オリエンテーションと(希望者多数の場合)選考試験/Orientations and selection (in case of too many applicants) 第2週(2nd week)多言語の基礎学習1+簡単なコンタクトゲーム/Studying MLC basics 1 + Simple Contact Game 1 第3週(3rd week)多言語の基礎学習2+簡単なコンタクトゲーム/Studying MLC basics 2 + Simple Contact Game 2 第4週(4th week)グループ結成1+母語再発見1/Grouping 1+Discover mother tongues 1 第5週(5th week)3言語2分スキット1 /2-minute skit in 3 languages 1 第6週(6th week)3言語2分スキット2 /2-minute skit in 3 languages 2 第7週(7th week)3言語2分スキット3 /2-minute skit in 3 languages 3 第8週(8th week)3言語2分スキット4 /2-minute skit in 3 languages 4 第9週(9th week)3言語2分スキット5 /2-minute skit in 3 languages 5 第10週(10th week)グループ結成2+母語再発見2/Grouping 2+Discover mother tongues 2 第11週(11th week)英語の物語を書く1/Writing an English story 1 第12週(12th week)英語の物語を書く2/Writing an English story 2 第13週(13th week)英語の物語を書く3/Writing an English story 3 第14週(14th week)英語の物語を書く4/Writing an English story 4 第15週(15th week)まとめの活動と多言語パーティー/Review and multilingual party ※他に、本学で教えられる外国語のうち半数についての基礎事項の学習、世界の多言語地域からの報告行います。/Also, the course includes basics on half of the foreign languages taught at this university and reports from multilingual areas in the world.		
教科書・参考書等/Textbooks	教師が作って配布した資料を使用します。/Original materials will be distributed in class.		

成績評価の方法／Evaluation	教室活動への参加と貢献/Attendance and participation(80%)、クラスでのプレゼンテーション/Class presentation(20%)。
学習上の助言／Learning Advice	言語ゲームを楽しんでください。3回以上個人の都合で欠席、毎度の遅刻、授業中睡眠の予定の人は、受講しないでください。初回授業に出席すること。止むを得ない理由がなく初回に欠席した学生は受講登録を認めません。/Enjoy language games. PLEASE DO NOT take this class, if you are planning to be absent more than 4 times for a very personal reason, be late regularly or sleep during class hours. Attend the first week. Those students who do not do that without any unavoidable reasons will not be allowed to register the name in the course.
キーワード／Keywords	社会的・文化的・言語的多様性、寛容さ、発見、尽くすこと、伝え合い / social, cultural and linguistic diversity, tolerance, noticing, contribution, communication
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	国語(H22以前入学者対象)/Japanese		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 啓子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381320
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鈴木 啓子(suzukike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鈴木 啓子(金曜日10時~10時半、16時~17時。できれば、事前にメール等で予約しておこしてください。6号館3階、鈴木啓子研究室、芥川龍之介のイラストがウィックしている扉です。)		
授業の内容/Course Description	本授業は、平成22年度以前の入学生を対象とする。「国語」の特色と意義について、総論及び書写3回、国文学4回、国語学4回、国語国文学4回の計15回のオムニバス形式で開設する。それぞれの学問分野の専門性に基づいて、教育現場に即した事例・教材の提示・解説を行い、小学校で国語を教える際に必要な、日本語・日本文学・書写に関する基礎的知識、文学的教材を扱う際の基礎的技能を具体的に講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語」の特色と意義について深く理解する。 ・小学校の教員として必要な「書写」の指導法に関する基礎的な知識を修得する。 ・小学校「国語」で「文学的教材」を扱う際に必要となる態度・知識・技能を修得する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	小学校教員免許を取得するための免許法指定科目「国語(書写を含む)」に対応する授業科目として開設する。「国語」という教科の特色・意義を、「書写」「国語学」「国文学」の3分野を通して学び、小学校で国語を教える際に必要な態度・知識・技能を修得する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。「教職入門」など小学校教員免許関連必修科目の取得希望者であること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	総論及び書写(中島宗皓(望))・国文学(守安敏久)・国語学(澤崎文)・国語国文学(鈴木啓子)の4教員体制で行う。国語国文学(鈴木啓子)のうち1回は、実施指導講師を招聘し、小学校の国語教材に即した授業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 総論ーガイダンス:国語科の指導と目的 第2回 書写①ー国語のなかの書写 第3回 書写②ー書写の指導と目的 第4回 国文学①ー夏目漱石の人と文学 第5回 国文学②ー夏目漱石の思想 第6回 国文学③ー正岡子規の短歌 第7回 国文学④ー高浜虚子の俳句 第8回 国語学①ーことばの働きと特徴 第9回 国語学②ー古典文学のことば 第10回 国語学③ー辞書のことば 第11回 国語学④ーことばの表記 第12回 国語国文学①ー文学的教材の特質と意義 第13回 国語国文学②ー小説・童話の読解方法 第14回 国語国文学③ー小学校高学年の教材 第15回 国語国文学④ー小学校中学年の教材・まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:プリントを配布 参考書:「漱石とその時代」第1~5部、江藤淳、新潮社(図書館所蔵) 「新しい国語表記ハンドブック」(第7版)、三省堂編修所編、三省堂		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業に対する積極的な取り組み、出席状況を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	第1回の授業(ガイダンス)には必ず出席してください。欠席の場合は原則として受講を認めません。 The class is not designed for studying Japanese as foreign and second language. 不是学日。這節課不是學習日語課。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	国語(H22以前入学者対象)/ Japanese		
担当教員(所属)/ Instructor	守安 敏久(教育学部)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	G381321
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 後期/ Second semester 金 / Fri 1, 金/ Fri 2	単位数/ Credits	2単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/ Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/ Office Hours	守安 敏久(木) 12:00~12:30(守安研究室)		
授業の内容/ Course Description	本授業は、平成22年度以前の入学生を対象とする。「国語」の特色と意義について、総論及び書写3回、国文学4回、国語学4回、国語国文学4回の計15回のオムニバス形式で開設する。それぞれの学問分野の専門性に基づいて、教育現場に即した事例・教材の提示・解説を行い、小学校で国語を教える際に必要な、日本語・日本文学・書写に関する基礎的知識、文学的教材を扱う際の基礎的技能を具体的に講義する。		
授業の達成目標/ Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語」の特色と意義について深く理解する。 ・小学校の教員として必要な「書写」の指導法に関する基礎的な知識を修得する。 ・小学校「国語」で「文学的教材」を扱う際に必要となる態度・知識・技能を修得する。 		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	小学校教員免許を取得するための免許法指定科目「国語(書写を含む)」に対応する授業科目として開設する。「国語」という教科の特色・意義を、「書写」「国語学」「国文学」の3分野を通して学び、小学校で国語を教える際に必要な態度・知識・技能を修得する。		
前提とする知識/ Prerequisites	特になし。「教職入門」など小学校教員免許関連必修科目の取得希望者であること。		
関連科目/ Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	総論及び書写(中島宗皓(望))・国文学(守安敏久)・国語学(澤崎文)・国語国文学(鈴木啓子)の4教員体制で行う。国語国文学(鈴木啓子)のうち1回は、実施指導講師を招聘し、小学校の国語教材に即した授業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 総論ーガイダンス:国語科の指導と目的 第2回 書写①ー国語のなかの書写 第3回 書写②ー書写の指導と目的 第4回 国文学①ー夏目漱石の人と文学 第5回 国文学②ー夏目漱石の思想 第6回 国文学③ー正岡子規の短歌 第7回 国文学④ー高浜虚子の俳句 第8回 国語学①ーことばの働きと特徴 第9回 国語学②ー古典文学のことば 第10回 国語学③ー辞書のことば 第11回 国語学④ーことばの表記 第12回 国語国文学①ー文学的教材の特質と意義 第13回 国語国文学②ー小説・童話の読解方法 第14回 国語国文学③ー小学校高学年の教材 第15回 国語国文学④ー小学校中学年の教材・まとめ		
教科書・参考書等/ Textbooks	教科書:プリントを配布 参考書:「漱石とその時代」第1~5部、江藤淳、新潮社(図書館所蔵) 「新しい国語表記ハンドブック」(第7版)、三省堂編修所編、三省堂		
成績評価の方法/ Evaluation	毎回の授業に対する積極的な取り組み、出席状況を総合して評価する。		
学習上の助言/ Learning Advice	第1回の授業(ガイダンス)には必ず出席してください。欠席の場合は原則として受講を認めません。 The class is not designed for studying Japanese as foreign and second language. 不是学日。這節課不是學習日語課。		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	Japanese Communication Arts/Japanese Communication Arts		
担当教員(所属)/Instructor	戚 傑(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381410
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	戚 傑(電子メール: jqi@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話番号: 028-649-5237)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	戚 傑(火 12:00-13:00, または, アポにより 研究室)		
授業の内容/Course Description	<p>COURSE DESCRIPTION</p> <p>In this course, we will explore various aspects of Japanese Communication Arts. This course will introduce different communication styles, which are crucial for successfully functioning in Japanese society. Japanese has a set of discourse styles, or registers that can seem complex to newcomers. We will look at the styles of speech used in personal versus public situations, by men and by women, by old people and young people, in a way that will help clarify the differences and offer you a window into Japanese culture. In addition to presenting the different styles, the class will help you situate them in terms of Japanese history, society, culture and education.</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>COURSE OBJECTIVES</p> <p>The ultimate goal of this course is to help students enter the Japanese way of thinking through the Japanese language and through a deep knowledge of Japanese culture and society.</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>The goal of this course meets the Principles and Aims of Utsunomiya University by helping students have a better understanding of other cultures as well as develop the skills necessary to communicate with people of other cultures.</p>		
前提とする知識/Prerequisites	<p>PREREQUISITE KNOWLEDGE AND SKILLS</p> <p>Students who register for this course are required to have good reading and communication skills in English.</p>		
関連科目/Related Courses	移民と多文化教育		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	This course is conducted in English.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>WEEKLY SCHEDULE</p> <p>Week 1: Course introduction: what does "communication arts" mean? Week 2: The Japanese style of introducing oneself: underestimating oneself. Week 3: The differences between casual and formal speech in Japanese. Week 4: Honorific language and humble language. Week 5: Modesty: the Japanese way of responding to compliments. Week 6: Inside and outside: words that shape personal relationships. Week 7: Tatemaie and honne: the gap between words and real intentions. Week 8: Generation differences in speech. Week 9: Gender differences in speech. Week 10: Japanese pop songs: exemplifying gender differences in the family and society. Week 11: The typical Japanese way of apologizing: no reason given. Week 12: Vague expressions: saying "No!" without using the word "No!" Week 13: Popular words: representing current social issues Week 14: Humor and wit: popular TV presenters' communication styles. Week 15: Student Presentations: towards a better understanding of Japanese communication styles.</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>TEXTS</p> <p>a. The Japanese Mind b. Japan: Then and Now *Additional material will be distributed in class.</p>		
成績評価の方法/Evaluation	<p>EVALUATION</p> <p>a. Class attendance and participation 25% b. Homework assignments 25% c. Final paper 25% d. Final class presentation 25%</p>		
学習上の助言/Learning Advice	<p>Read assigned materials. Be critical and look beyond.</p>		

キーワード/Keywords	
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	ことばから見た人間/Language(s) and the Human Being		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 一隆(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381522
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	「ことば」に対する言語学的(科学的)な接近法の初歩を学び、その視点から人間の有様や営みの諸相について考察します。		
授業の達成目標/Course Goals	言語への記述的・科学的な態度を身に付け、言語の関わる諸事象に対して理性的な思考をできるようにすることをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教養科目中の人文総合領域科目であり、幅広い複合的な問題に対する科学的・論理的な思考を主体的かつ柔軟に行えるようになるための素地を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	形態は「講義」としてありますが、実際には対受講者または受講者間の質疑応答や議論、あるいは演習や課題などをまじえて授業を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>以下のような話題をめぐって、関連する身近な問題を考えてゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：ことばをめぐる状況 2. ことばが伝えるもの 3. ことばについての幻想 4. ことばの勝者とことばの幸福 5. ことばの多様性と方言 6. ことばとアイデンティティ 7. ことばの標準と規範 8. 変わりゆくことば 9. ことばをさかのぼる 10. ことばと社会 11. ことばの獲得と喪失 12. ことばと文化 13. ことばを聞き、書く 14. ことばで伝える 15. まとめ：ことばを科学的に見る 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：加藤重広『学びのエクササイズことばの科学』ひつじ書房。 参考書等：授業中に随時紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取組(40%)と課題(60%)を総合評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	ことばの不思議を体験して、ことばへの興味が増し、自分でことばを探求できるようになれば幸いです。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	ことばから見た人間/Language(s) and the Human Being		
担当教員(所属)/Instructor	佐藤 淳一(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381523
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐藤 淳一(電話 : 070-2838-9749 e-mail : sato.junichi.fu@u.tsukuba.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐藤 淳一(授業時間前後の休憩の時間帯)		
授業の内容/Course Description	ことばに対する言語学的(科学的)なアプローチの初歩を学び、その視点から人間の有様や営みの諸相について考察します。		
授業の達成目標/Course Goals	言語事実を記述したり、説明したりする態度を身につけ、言語に関わる諸事象に対して理性的な思考ができるようになることをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教養科目の中の人文総合領域科目であり、幅広い複合的な問題に対する科学的・論理的な思考を主体的かつ柔軟に行えるようになるための素地を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	形態は「講義」としてありますが、実際には対受講者または受講者間の質疑応答や議論、あるいは演習や課題などをまじえて授業を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	以下のような話題をめぐって、ことばに関連する身近な問題を考えていきます。 1. ガイダンス;ことばとは 2. 人間のことばの特徴と役割 3. 動物の“ことば”らしきもの 4. ことばの起源と進化 5. 個別言語の成り立ち 6. 日本語における漢字・カタカナの利点 7. 日本語における漢字・カタカナの問題点 8. 不思議な日本語表現 9. 言語音の不思議 10. フランス語は美しい言語? 11. 英語とフランス語 12. 子供によることばの獲得 13. 敬語の種類と用法 14. 辞書の比較 15. まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 特定のものはいずれも、資料を配布します。 参考書等: 授業中に随時紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組みの様子(30%)、課題(20%)、期末試験(50%)を総合して評価を行います。		
学習上の助言/Learning Advice	日ごろ無意識のうちに使っていることばには、さまざまな不思議かつ興味深いことがらが潜んでいます。この授業が、そうしたことに目を向けるきっかけとなれば幸いです。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	社会言語学概論－日本語の変遷－/Outline of Sociolinguistics - Linguistic Changes in Japanese -		
担当教員(所属)/Instructor	堀尾 佳以(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381541
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	全学生対象の、社会言語学の基礎を学ぶ授業です。 社会言語学とは何かを学び、日本語が変わっていく面白さについて考えていきます。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ○社会言語学の基礎について知る。 ○日本語が変わっていく様子を自分の目で確かめる。 ○資料収集の方法やデータ分析法について学ぶ。 ○発表技術を身につける。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	宇都宮大学の教育目標である、「専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成」を目指しています。 特に「日本語の変遷」というテーマにおける課題発見力や問題解決力を身につけるだけでなく、グループ活動を通して傾聴力や柔軟性といった社会人基礎力を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	留学生が受講する場合は、原則として日本語能力試験N2程度の日本語レベルが必要です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	アクティブラーニングであり、学生の自主性を重視します。 概説を学んだ上で、各自テーマを選び、成果を発表します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 : 授業および発表についての説明 第2、3週 : 社会言語学概説 第4～6週 : ペアまたは個別 発表課題決定、発表内容指導および作成 第7～9週 : 第1回 発表会 第10～13週 : グループ 発表課題決定、発表内容指導および作成 第14、15週 : 第2回 発表会		
教科書・参考書等/Textbooks	プリント教材		
成績評価の方法/Evaluation	出席率80%以上のみ評価対象とします。 口頭発表(30%)、課題(30%)、授業態度(40%)を総合的に評価します。 「秀」90点以上、「優」80点～89点、「良」70点～79点以上、「可」60点～69点		
学習上の助言/Learning Advice	自分たちが使っている「日本語」に興味を持って取り組みましょう。		
キーワード/Keywords	アクティブラーニング、日本語、言語学		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	生涯学習概論/Introduction to Lifelong Learning		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 英和(地域連携教育研究センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381557
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 英和(sasakih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 英和(火曜日11:00-12:00)		
授業の内容/Course Description	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。なお、本科目は、国際・教育・農・工学部の教養科目でもある。		
授業の達成目標/Course Goals	授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまうことなく、日常生活の中で普段から、「いつでも、どこでも、だれからでも、なにからでも、どのようにでも」自ら学び取っていく貪欲さを持つこと。		
前提とする知識/Prerequisites	学ぶことに対して受け身の姿勢のままにとどまらずに、様々なことに疑問を持ち、問題意識を醸成しておくこと。また、知識の習得や理解のみならず、探求的センスや問題発見能力および自己表現力などを磨くよう努めてほしい。知識より、学ぶ心がけのほうが前提である。		
関連科目/Related Courses	学ぶことに対して受け身の姿勢のままにとどまらずに、様々なことに疑問を持ち、問題意識を醸成しておくこと。また、知識の習得や理解のみならず、探求的センスや問題発見能力および自己表現力などを磨くよう努めてほしい。知識より、学ぶ心がけのほうが前提である。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講師が学生に伝達する一方向性の講話形式に見える場合においても、意識の上では「参画型学習」を実践するつもりで授業に臨めるように配慮していきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 生涯学習について語り出す前の「前提的議論」 第3週 自己形成論の視点①…「教育」と「形成」 第4週 自己形成論の視点②…メディアによる人間形成 第5週 自己形成論の視点③…「伝達」と「コミュニケーション」 第6週 生涯学習の原理論①…自分史、ライフサイクル論 第7週 生涯学習の原理論②…社会教育・生涯学習の方法・形態 第8週 生涯学習概念の把握方法①…生涯学習・生涯教育、社会教育と学校教育 第9週 生涯学習概念の把握方法②…自己論を軸にした教育理念の問い直し 第10週 自分探しと生涯学習①…欲求・欲望論、自己実現・生きがい論 第11週 自分探しと生涯学習②…自分探しの物語、自分学び・自分育て 第12週 社会教育・生涯学習の歴史…世界史的把握、日本の戦後史 第13週 生涯学習の条件整備①…法制・行財政論 第14週 生涯学習の条件整備②…施設論、援助者論、計画論 第15週 総括および補足 第16週 定期試験		
教科書・参考書等/Textbooks	①香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和共編著『よくわかる生涯学習』、ミネルヴァ書房、2008年 ②野村一夫『社会学感覚[増補版]』、文化書房博文社、1998年		
成績評価の方法/Evaluation	最終レポート(10%)を出していることを必要条件として、学期末試験の結果を大元の基準とする(70%)が、出席状況や日常レポート等の出来など(20%)も考慮する。		
学習上の助言/Learning Advice	初回のオリエンテーションのときに、単位取得の条件や成績評価の基準などについて具体的に説明すると同時に、授業の詳細なスケジュール(具体的な日程)等を示した関連資料を配布する予定なので、出席せよ。また、ほぼ毎回、何らかの授業資料を配付する予定である。その中には、単位取得の条件や定期試験の内容に直接関わる重要なものも含まれるが、欠席者等は自らが不利にならないように、各自が自己責任で対処せよ。		
キーワード/Keywords	生涯学習。社会教育。学校教育。コミュニケーション。地域づくり。		
備考/Notes	試験実施可能性などを考慮して、受講制限を行う場合があります。その際には、授業に対するやる気などを基準にして選抜を行います。了承ください。		

授業科目名(英文名) /Course Title	成人教育と参加型学習(アクティブ・ラーニング科目)/Adult education and Active learning(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	桑島 英理佳(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381558
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	桑島 英理佳(028-649-5073 kuwajima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	桑島 英理佳(随時対応しますのでお気軽にラーニング・commons(峰町5号館B棟1階)にお越しください。)		
授業の内容/Course Description	<p>この授業ではおとなとはどのような存在なのかについて探ります。皆さんは自分のことを子どもだと思いませんか？おとなだと思いませんか？子どもとおとなの違いとは何でしょう？おとなの特徴は何でしょう？この問いに対して「おとなは子どもと違って頑固で他人の話を聞かない」と答える人が多いです。それはなぜでしょうか？また、「おとなは冷静に判断することができる」と答える人も多いです。それはなぜでしょうか？親や先生など周囲のおとなを想像してみましょう。</p> <p>おとなの特徴を理解することは、日常生活においておとなとコミュニケーションを取るうえでとても役立ちます。また、自分自身もおとなと捉えてみることで今後より学びやすく目標を達成しやすくなるかもしれません。そのような実践的なヒントを成人教育学から探してみましょう。</p> <p>さらに、学部問わず他の授業にも役立つ参加型学習の手法(アイデアを考える、プレゼンテーション等)も学びます。人前で話すことや聞くことが苦手な人でも練習の場として考えて安心して参加してください。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学習者の特徴および教育方法について理解する。 ・学部問わず今後の学習に活用できる参加型学習の手法やファシリテーションについて理解する。 ・他者と関わりながら生涯にわたって主体的に学ぶ意欲を喚起する。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人間の行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方を身につけるという人文科学系科目の教育目標に対応しています。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	小グループでの話し合い学習やワークを中心にを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 チームビルディング 第3回 身近な事例から考える成人学習者の特徴 第4回 「前提」とは① 第5回 「前提」とは② 第6回 「前提」とらわれないために 第7回 成人教育学理論から見る成人学習者の特徴 第8回 エンパワメントとは① 第9回 エンパワメントとは② 第10回 成人教育と参加型学習 第11回 参加型学習の手法 第12回 参加型学習と振り返り 第13回 ファシリテーション力を身につける① 第14回 ファシリテーション力を身につける② 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じて適宜資料を配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	グループワークへの参加と貢献、コメントシート、レポート等によって評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	学生同士または教員と学生の対話を大切に進めていきましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育の裏側に光を当てる(アクティブ・ラーニング科目)/Shedding Light on the Backside of Education(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	若園 雄志郎(地域デザイン科学部), 上原 秀一(教育学部), 小原 一馬(教育学部), 渡邊 信一(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381560
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小原 一馬(koharak@cc) 渡邊 信一(工学部附属ものづくり創成工学センター 028-689-7071 snc.watanabe@swlab-uu.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7-8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける) 渡邊 信一(事前に連絡すること)		
授業の内容/Course Description	教育にまつわる極めて実際のトピックであるにも関わらず、学校教育では真正面から扱われることの少ない事柄をあえて俎上に載せ、徹底的な討論をさせることで、受講生が受けてきた教育をより広い視点から捉えさせ、固定観念を乗り越えてあらたな社会を切り開く力を身につけさせることを志向するアクティブ・ラーニング科目である。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・人が見落としがちなところに、多くの論点や興味深い事実が存在することを意識できるようになること。 ・あらゆる物事は、さまざまな側面から肯定したり否定したりできることを理解できるようになること。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本学の教育目標に謳う、問題解決能力および“あらたな社会”を拓く力の育成に対応している。また基盤教育が目指す「心の底からわき上がる」知識欲を生じさせる点でも極めて有効な科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	これまでに受けてきた学校教育の経験そのものが前提の知識と言える。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	学内外の複数の教員によるオムニバス形式で進める。受講生同士の討論を設けるので、積極的な発言を期待する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 「教科書」とは何か 第3回 「教育」はどのように語られているか 第4回 グループ・ディスカッション① 第5回 学校と宗教(上原) 第6回 道徳教育(上原) 第7回 教育的なメッセージと偏り(小原) 第8回 「基礎基本」と「主体的な学び」①:問題提起(小原) 第9回 学校以外での教育(社会教育)① 図書館 第10回 学校以外での教育(社会教育)② 博物館 第11回 「基礎基本」と「主体的な学び」②:ディスカッション(小原) 第12回 理系学部における教育学とは何か①(原/渡辺) 第13回 理系学部における教育学とは何か②(原/渡辺) 第14回 グループ・ディスカッション② 第15回 授業のまとめおよびディスカッション総括		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特に指定しない。必要な教材は授業時間中に配布する。参考文献については授業時間中に適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(授業時間中の討議への参加、小レポート)40%、レポート60%		
学習上の助言/Learning Advice	新聞・テレビ・インターネット・他者との会話など、どのような媒体を使用してもいいので、常に社会の状況や自分との関わりを意識しよう心がけてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ものと文化と社会(アクティブ・ラーニング科目)/Artifact, culture, society(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	若園 雄志郎(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381567
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	若園 雄志郎(028-649-5381 pontono@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	若園 雄志郎(ラーニング・commons受付時間に準じる。)		
授業の内容/Course Description	文化について考える際に「もの」は非常に重要であるといえる。それはその文化を所有する集団のアイデンティティを端的に示すと同時に、その集団以外の者がそれをどのように読み解くかによって文化、さらにはその集団に対する認識が示されているといえる。本授業では「もの」を通じて文化や社会がそこにどのように示されているのかについて考察していく。またこれに関連して国内外の博物館についての紹介を行い、その展示を題材に議論していく。		
授業の達成目標/Course Goals	「もの」を取り巻く問題点に気づくことができるようになると同時に批判的視点を養う。また、博物館などの文化についての教育活動へのよきオーディエンスを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本時は文化について考える授業となるため、「人間とその文化」、「社会の姿としくみ」、「現代の科学と技術」や「さまざまな言語」に関する基礎知識や考え方を学ぶことから、幅広く深い教養と豊かな人間性を養うことができる」に該当する。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識は特に限定しないが、受講生が今までに学んできた知識全般を活用してほしい。またできるだけ博物館等の展示を見てくることが望ましい。関連する科目は社会教育/生涯学習概論、文化人類学などである。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式とワークショップ形式を取り混ぜて進めていく。プレゼンテーション制作にあたっては授業時間外で各自時間を調整し、ラーニング・commonsや図書館を利用して自主的に行うことが求められる。なお、受講者数や最新のニュースなどを勘案して授業計画の内容を変更することがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション：自己紹介、授業内容の詳細説明、受講上の注意点の説明など 第2回 「もの」から何が見えるか 第3回 「自文化」について考える 第4回 学力調査に見る問題点～批判的視点による読み解き 第5回 博物館における文化表象(1)：展示の目的 第6回 博物館における文化表象(2)：展示を読み解く 第7回 海外における文化表象～オーストラリア・台湾 第8回 「もの」が語りかけるのか 第9回 「もの」の学習と製作(1)：白老・アイヌ民族博物館 第10回 「もの」の学習と製作(2)：アイデンティティ形成 第11回 「もの」を伝える 第12回 プレゼンテーションにむけて 第13回 プレゼンテーション制作 第14回 プレゼンテーション(1)：各自/各グループ発表 第15回 プレゼンテーション(2)：発表への相互討論		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特に指定しない。必要な教材は授業時間中に配布する。参考文献については授業時間中に適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(授業時間中の討議への参加、小レポート)40%、レポートおよびプレゼンテーション60%		
学習上の助言/Learning Advice	新聞・テレビ・インターネット・他者との会話など、どのような方法を使用してもいいので、常に社会の状況や自分との関わりを意識するよう心がけてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	声のトレーニング(H26以降入学者対象)／Voice Training		
担当教員(所属)／Instructor	石野 健二(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G381575
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石野 健二(ishino-k@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石野 健二(〔火曜日〕10時30分～12時)		
授業の内容／Course Description	声のトレーニングの前提として、声帯の振動と発声様式、声帯の様々な振動に必要な息質を理解することは重要です。その上で様々な息質を作り出す呼吸器官の働きを理解するのが、トレーニングの中心は身体の様々な部位の連携、そして呼吸器官のコントロールと強化、発声器官のコントロールと強化、空間意識の育成等からなっています。		
授業の達成目標／Course Goals	この授業では、声の仕組みを知り、声というものが体全体の様々な筋肉によって生み出されるということ、そして、ここから得た知識を基に様々な実践的な工夫を通じて声を改善し、総合として声の機能を高めるということを目指しています。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	現代、PCや電子機器の発達等の中で野外での活動が減り、その結果声の機能が退化しているのではないかとされています。声を出す機会というのは多くあり、社会生活をする上では欠かすことができません。この為、声のトレーニングは現代人に必須のものとして考えるべきです。		
前提とする知識／Prerequisites	音楽的な経験の有無を問いません。例えば教員として声を強化したいとか、演劇等を目指している人とか、合唱や独唱の経験のある人で声を一層発展させたいと考えている人達を対象とします。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	発声理論等の解説は講義的であり、呼吸法・発声法のトレーニングにおいては実践的に授業を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 声と体 第2週 声帯のしくみと息 第3週 呼吸法の基本 第4週 姿勢の基本と自由な呼吸 第5週 喉頭のしくみ 第6週 声と呼吸のコントロール 第7週 声と呼吸の実践 第8週 朗読の実践 第9週 歌の実践Ⅰ(声区の管理) 第10週 歌の実践Ⅱ(発音処理) 第11週 表現とトレーニングⅠ(トレーニング法) 第12週 表現とトレーニングⅡ(空間意識の育成) 第13週 課題発表の練習 第14週 発表Ⅰ(朗読) 第15週 発表Ⅱ(歌唱)		
教科書・参考書等／Textbooks	必要に応じて資料を用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	筆記試験による授業内容の理解度(40パーセント)、課題発表の結果(40パーセント)、授業への取り組み方(20パーセント)を通じて総合的に判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	声は生まれつきのものであると思い込んでいる人も多いとは思いますが、実際にはトレーニング等を通じて発展しうるものです。興味のある方はぜひ参加してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ文学/German Literature		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381580
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ文学について概要とその特徴を講義します。特に、教養として知っておくべき近代文学を扱う予定です。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ文学にかんする基礎的知識を教授します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	グローバル化時代において大学で身に付けるべき異文化理解のための一つである。		
前提とする知識/Prerequisites	特別な知識は必要ありません。文学や哲学、ドイツ文学に興味・関心がある人のための講義です。		
関連科目/Related Courses	哲学、歴史、思想、宗教、民俗等に関連する内容を含みます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1 古代から現代までのドイツ文学を概観します。(1~2回) 2 ドイツ18世紀の近代から現代まで、重要かつ著名な作家とその作品を概観します。 3 随時、他のヨーロッパ諸国の文学(フランスやイギリス等)と比較したり、関連について解説します。		
教科書・参考書等/Textbooks	・教科書はありません。 ・参考書『ドイツ文学史』(岩波書店)等。		
成績評価の方法/Evaluation	出席50%および試験等50%による。		
学習上の助言/Learning Advice	日本語訳がある具体的作品を紹介します。		
キーワード/Keywords	啓蒙主義、合理主義、古典主義、ロマン主義、シュトルム ウント ドラング、写実主義、自然主義、ユダヤ人等 レッシング、ゲーテ、シラー、グリム兄弟、カフカ、H. ヘッセ、T. マン、G. グラース等作家たち		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	芸術と自然／Art and Nature		
担当教員(所属)／Instructor	出羽 尚(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G381581
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	出羽 尚(izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	出羽 尚(月曜日14:30-16:00)		
授業の内容／Course Description	地域や時代の枠を限定せず、世界の様々な芸術活動のなかで、自然とのかかわりが見出せるものを対象に、それぞれの創作における自然との関係性を探る。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文化、芸術の諸相を理解する。 ・人間の活動と自然の関係について考察する。 ・文化や自然の現象を体験するために自主的に行動する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	幅広い教養を身につける教養教育のうち、人文科学系芸術領域として開講される。		
前提とする知識／Prerequisites	様々な文化、芸術、現象に興味を持つとうとする積極性		
関連科目／Related Courses	「イギリス文化論(国際)」、「英語圏文化論(国際)」、「ヨーロッパ地域文化論(基盤)」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教員による講義、及び受講生による活動(議論・発表・報告等)を授業の二つの柱とする。受講生はその準備として、授業時間外にもグループで課題に取り組む必要がある。また、最終レポートのほか、複数の小レポートも課す。ただし、受講者の人数によって授業の進め方は変更されることもある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 イン트로ダクション：芸術、自然とは？ 第2-14回 以下のテーマ(キーワード)で講義、議論を行う ・風景画(理想風景、地誌、絵葉書、古写真) ・静物画(植物、動物) ・彫刻(巨石、地蔵、彫刻公園、オブジェ) ・聖地巡礼(名所図会、漫画アニメ) ・庭園(古代、楽園、極楽浄土、山紫水明) ・園芸(盆栽、コテージ) ・科学と自然(本草学、プラントハンター、温室) ・景観(産業、ランド・アート) 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は定めない。必要な参考文献を提示した資料を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内課題40%と最終レポート60%の割合で算出し評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	講義とあわせ、受講生の自主的な活動を授業のひとつの柱とするので、その活動に積極的に関わることを履修の条件とします。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本の小説/Japanese Modern Novels		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 啓子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G381582
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鈴木 啓子(suzukike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鈴木 啓子(金曜日10時~10時半、16時~17時。できれば、事前にメール等で予約しておこしてください。6号館3階、鈴木啓子研究室、芥川龍之介のイラストがウイックしている扉です。)		
授業の内容/Course Description	近代日本の掌編・短編小説を素材に、文学テクストを読むための知識や方法を具体的に提示し、文学および小説の真の面白さを伝授する。この講義のサブタイトルは「ディープノベルによろこそ」です。明治中期以降の日本で書かれた「深い小説」を、深く豊かに読み味わうためのレッスンである。		
授業の達成目標/Course Goals	日本の近代小説の特質と魅力を知り、文学的読書が主体的に行えるようになる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人文科学系科目の教育目標である「教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける」に関連する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	24~27年度、1年生むけに開講した「日本文学概説A」の内容と一部重なるので、この科目の既履修者には受講を勧めません。他の専門科目を受講してください。一部重なることを了承の上での受講は妨げません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	掌編ないし短編小説を素材に、解釈と鑑賞を行います。受講者の感想や意見も取り入れながら、授業を対話的に展開します。28年度は漱石・鏡花・芥川・志賀・川端・太宰・三島等の作品を取りあげる予定です。小説を原作とする文芸映画の鑑賞も行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス(授業の方法と受講上の約束事を説明します) 第2回 作品A 第3回 作品A 第4回 作品B 第5回 作品B 第6回 作品C 第7回 作品C 第8回 作品D 第9回 作品D 第10回 作品E 第11回 作品E 第12回 作品F 第13回 作品F 第14~15回 総括と補足		
教科書・参考書等/Textbooks	プリントを配布します。参考書等は、入手可能なものを適宜授業内に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況・発言(30%)、授業時間内に課すミニ提出物(30%)、期末に行う論述式試験(40%)を総合して判断します。		
学習上の助言/Learning Advice	2年次以降に、「国語分野」に進むことを検討している方は、国語教育ないし日本文学への入門的基礎科目としてぜひともご受講ください。その他、国語は苦手だが読書は好きだという方、読書は好きだが日本の文学作品はあまり読んでいない方、漫画やアニメやテレビドラマは大好きだが読書は苦手という方も、ぜひご参加ください。小説の面白さ、活字文化の魅力を再発見していただけたらと思います。私語は厳禁です。特別な理由のない遅刻・欠席もご遠慮願います。なお、教室のスペースに合わせて受講者制限を行いますので、初回には必ずご出席ください。抽選等の選考を行います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本国憲法／The Constitution of Japan		
担当教員(所属)／Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G400134
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアポを取ってください))		
授業の内容／Course Description	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本概念を修得すること ・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、憲法を中心にしてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。教員免許取得希望者においては、必修の科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	「法学概論」および「法学入門」 「法学特講B」(教育学部専門科目)において、日本国憲法の刑事手続に関する規定(憲法31条ないし憲法40条)を取り上げる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行う。毎回配付するレジュメに従って講義をすすめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス、憲法を学ぶ意義 第2回 憲法と立憲主義、国民主権 第3回 平和主義 第4回 基本的人権①一人権の歴史と人権享有主体 第5回 基本的人権②一人権の限界 第6回 基本的人権③一包括的基本権と法の下での平等 第7回 基本的人権④一精神的自由権(思想・良心の自由) 第8回 基本的人権⑤一精神的自由権(信教の自由、学問の自由) 第9回 基本的人権⑥一精神的自由権(表現の自由の意義) 第10回 基本的人権⑦一精神的自由権(表現の自由の限界) 第11回 基本的人権⑧一経済的自由権(職業選択の自由) 第12回 基本的人権⑨一経済的自由権(居住移転の自由、財産権) 第13回 基本的人権⑩一身体の自由 第14回 基本的人権⑪一参政権 第15回 基本的人権⑫一社会権(生存権)		
教科書・参考書等／Textbooks	最新版の六法(ポケット六法(有斐閣)またはデイリー六法(三省堂))を毎回持参すること。レジュメや資料は、こちらで用意し配付する。参考文献等は、適宜紹介する。教科書は、芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)を指定する。必ず購入すること。参考文献として『憲法判例百選Ⅰ 第6版』および『憲法判例百選Ⅱ 第6版』(有斐閣、2013年)をあげておく。		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験(論述式)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	本講義を通じて、改めて憲法の実在意義を考えてほしい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes	教育学部1年生は、この授業(前期水曜1-2限)を受講すること(詳細は掲示を確認)。		

授業科目名(英文名) / Course Title	日本国憲法/The Constitution of Japan		
担当教員(所属)/Instructor	石川 裕一郎(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G400396
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石川 裕一郎(yuichiro@gol.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石川 裕一郎(講義期間中の金曜日 17:40-以降に「憲法」講義の教室にて、あるいはメールで事前に連絡をください。)		
授業の内容/Course Description	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本概念を修得すること ・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、憲法を中心にしてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。教員免許取得希望者においては、必修の科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「法学概論」および「法学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記【授業計画】に沿って進めるが、できるだけアクチュアルな話題を取り上げたいので、実際の内容・順番には多少変更がありえる。また、受講者全員には毎回講義内容についてリアクションペーパーを作成してもらおう。なお、原則として講義レジュメは事前に配布するので、予めそれに目を通しておき、講義後も読み返すことを予習・復習として求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 憲法とは何か(1)：宇都宮東署誤認逮捕事件を題材に 第2週 憲法とは何か(2)：非嫡出子法定相続分差別事件を題材に 第3週 国民・国家・憲法の関係 第4週 日本国憲法の構造：人権 第5週 日本国憲法の構造：統治機構 第6週 公務員と憲法尊重擁護義務(1)：政治家の精神的自由を題材に 第7週 公務員と憲法尊重擁護義務(2)：公立学校教員の精神的自由を題材に 第8週 個人の尊重と幸福追求権 第9週 公共の福祉 第10週 平等原則 第11週 日本国憲法の制定過程 第12週 平和主義(1)：前史 第13週 平和主義(2)：日本国憲法制定から冷戦終結まで 第14週 平和主義(3)：冷戦終結以降 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特定の教科書は用いず、毎回レジュメ・資料をこちらで用意、配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(リアクションペーパーの記述状況)80%+期末レポート20%で評価する。単なる「出席」、すなわち物理的に教室に存在するだけでは平常点にはならない。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義では、法学部の一般的な憲法講義とは異なり、比較的新しい(2000年代以降の)事件を多く取り上げるので、まずは新聞を毎日読む習慣を身につけるところから始めてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本国憲法/The Constitution of Japan		
担当教員(所属)/Instructor	綿貫 由美子(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G400418
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	綿貫 由美子(yumikowatan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	綿貫 由美子(授業終了後に当該教室または非常勤講師室にて)		
授業の内容/Course Description	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本概念を修得すること ・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、憲法を中心にしてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。教員免許取得希望者においては、必修の科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「法学概論」および「法学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。適宜レジュメを使用するほか、必要に応じて条文や判例百選等を参照します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 憲法とは何か(「六法」を確認し、法律等との違いや相互の関係性を学ぶ)。 第2回 近代民主政治の基本理念と立憲主義を考える。 第3回 「日本国憲法」を概観する。 第4回 日本国憲法(統治)とは何か。 第5回 日本国憲法(人権)とは何か。基本的人権とその限界について。 第6回 基本的人権を考える① 自由権的基本権を概観する。 第7回 基本的人権を考える② 思想・良心の自由と信教の自由。 第8回 基本的人権を考える③ 表現の自由とその限界。 第9回 基本的人権を考える④ 人身の自由と刑罰。 第10回 基本的人権を考える⑤ 人身の自由と刑事司法制度。 第11回 基本的人権を考える⑥ 経済的自由と社会権的基本権。 第12回 基本的人権を考える⑦ 包括的基本権と法の下での平等。 第13回 基本的人権を考える⑧ 「平等」とは何かを考える。 第14回 最後に改めて日本国憲法の三原則を考える① 国民主権と基本的人権を考える。 第15回 最後に改めて日本国憲法の三原則を考える② 平和主義と世界の中の日本を考える		
教科書・参考書等/Textbooks	小型六法を使用します。参考書として、芦部信喜『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)を使用します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末試験で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義をとおして、「憲法」とはただ学ぶべき教科ではなく、私たちの人生をかけた問題であることを実感すると同時に、皆さんや皆さんの子どもたちの問題として、ともに考えてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本国憲法/The Constitution of Japan		
担当教員(所属)/Instructor	綿貫 由美子(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G400426
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	綿貫 由美子(yumikowatan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	綿貫 由美子(授業終了後に当該教室または非常勤講師室にて)		
授業の内容/Course Description	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本概念を修得すること ・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、憲法を中心にしてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。教員免許取得希望者においては、必修の科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「法学概論」および「法学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。適宜レジュメを使用するほか、必要に応じて条文や判例百選等を参照します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 憲法とは何か(「六法」を確認し、法律等との違いや相互の関係性を学ぶ)。 第2回 近代民主政治の基本理念と立憲主義を考える。 第3回 「日本国憲法」を概観する。 第4回 日本国憲法(統治)とは何か。 第5回 日本国憲法(人権)とは何か。基本的人権とその限界について。 第6回 基本的人権を考える① 自由権的基本権を概観する。 第7回 基本的人権を考える② 思想・良心の自由と信教の自由。 第8回 基本的人権を考える③ 表現の自由とその限界。 第9回 基本的人権を考える④ 人身の自由と刑罰。 第10回 基本的人権を考える⑤ 人身の自由と刑事司法制度。 第11回 基本的人権を考える⑥ 経済的自由と社会権的基本権。 第12回 基本的人権を考える⑦ 包括的基本権と法の下での平等。 第13回 基本的人権を考える⑧ 「平等」とは何かを考える。 第14回 最後に改めて日本国憲法の三原則を考える① 国民主権と基本的人権を考える。 第15回 最後に改めて日本国憲法の三原則を考える② 平和主義と世界の中の日本を考える。		
教科書・参考書等/Textbooks	小型六法を使用します。参考書として、芦部信喜『憲法(第6版)』(岩波書店、2015年)を使用します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末試験で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義をとおして、「憲法」とはただ学ぶべき教科ではなく、私たちの人生をかけた問題であることを実感すると同時に、皆さんや皆さんの子どもたちの問題として、ともに考えてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes	【特記事項】 教育学部学校教育教員養成課程1年生については、履修を制限する(詳細は掲示板を確認すること)。		

授業科目名(英文名) /Course Title	日本国憲法/The Constitution of Japan		
担当教員(所属)/Instructor	石川 裕一郎(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G400429
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石川 裕一郎(yuichiro@gol.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石川 裕一郎(講義期間中の金曜日 17:40-以降に「憲法」講義の教室にて、あるいはメールで事前に連絡をください。)		
授業の内容/Course Description	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の基本概念を修得すること ・憲法の重要判例を理解し、批判的に考察できること 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、憲法を中心にしてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。教員免許取得希望者においては、必修の科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「法学概論」および「法学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記【授業計画】に沿って進めるが、できるだけアクチュアルな話題を取り上げたいので、実際の内容・順番には多少変更がありえる。また、受講者全員には毎回講義内容についてリアクションペーパーを作成してもらおう。なお、原則として講義レジュメは事前に配布するので、予めそれに目を通しておき、講義後も読み返すことを予習・復習として求める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 憲法とは何か(1)：宇都宮東署誤認逮捕事件を題材に 第2週 憲法とは何か(2)：非嫡出子法定相続分差別事件を題材に 第3週 国民・国家・憲法の関係 第4週 日本国憲法の構造：人権 第5週 日本国憲法の構造：統治機構 第6週 公務員と憲法尊重擁護義務(1)：政治家の精神的自由を題材に 第7週 公務員と憲法尊重擁護義務(2)：公立学校教員の精神的自由を題材に 第8週 個人の尊重と幸福追求権 第9週 公共の福祉 第10週 平等原則 第11週 日本国憲法の制定過程 第12週 平和主義(1)：前史 第13週 平和主義(2)：日本国憲法制定から冷戦終結まで 第14週 平和主義(3)：冷戦終結以降 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特定の教科書は用いず、毎回レジュメ・資料をこちらで用意、配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(リアクションペーパーの記述状況)80%+期末レポート20%で評価する。単なる「出席」、すなわち物理的に教室に存在するだけでは平常点にはならない。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義では、法学部の一般的な憲法講義とは異なり、比較的新しい(2000年代以降の)事件を多く取り上げるので、まずは新聞を毎日読む習慣を身につけるところから始めてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	法学入門／Introduction to Law		
担当教員(所属)／Instructor	綿貫 由美子(その他)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G400517
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	綿貫 由美子(yumikowatan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	綿貫 由美子(授業終了後に当該教室または非常勤講師室にて)		
授業の内容／Course Description	この授業では、賛否や意見の分かれる時事問題を主な素材として、「法的に考える」とはどのようなことか、なぜ「法的に考える」ことが必要かを体験してもらうことを主な内容とする。		
授業の達成目標／Course Goals	「法的に考える」とは、一定の問題について、様々な立場があり得ることを理解した上で、自らの立場を明らかにし、これを説得的に／合理的に主張するという一連のプロセスを辿るものである。このプロセスを理解し、関心のある問題についてこれを実践することを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	法的思考を用いて現実社会における諸問題の対応／解決能力を養い、さらに社会的な立場の違いにより、起きている問題についての評価が異なることを理解する。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。ただし、時事問題に広く関心をもち、自分なりに考えることを心がけて下さい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行います。適宜レジュメを作成・配布して授業を実施します。必要に応じて小型六法を持参して下さい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 「法学」とは何か。法律はなぜ必要か。 第2回 「六法」とは何か。 第3回 権利とは何か。人権とは何か。 第4回 少年法・少年司法とは何か。 第5回 刑事裁判と民事裁判。 第6回 裁判員制度を考える。 第7回 犯罪とは何か。 第8回 刑罰とは何か。 第9回 家族と法を考える。 第10回 家族とは何か。 第11回 契約の自由と財産。 第12回 損害賠償。 第13回 労働者の権利と社会保障。 第14回 国際社会と日本。 第15回 グローバル社会と日本(共生を考える)。		
教科書・参考書等／Textbooks	小型六法は用意して下さい。必要に応じて、末川博『法学入門(第6版補訂版)』有斐閣双書を参考書として使用します。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験で評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	この授業は正解を選ぶための授業ではありません。皆さんが自分の答えを導き出す訓練となるよう祈っています。そして、私たちにとって法律がいかに有効でありかつ問題があるのかを、一緒に考えていきたいと思っています。		
キーワード／Keywords	法学入門		
備考／Notes	【特記事項】 教育学部学校教育教員養成課程1年生については、履修を制限する(詳細は掲示板を確認すること)。		

授業科目名(英文名) / Course Title	法学入門/Introduction to Law		
担当教員(所属)/Instructor	綿貫 由美子(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G400525
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	綿貫 由美子(yumikowatan@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	綿貫 由美子(授業終了後に当該教室または非常勤講師室にて)		
授業の内容/Course Description	この授業では、賛否や意見の分かれる時事問題を主な素材として、「法的に考える」とはどのようなことか、なぜ「法的に考える」ことが必要かを体験してもらうことを主な内容とする。		
授業の達成目標/Course Goals	「法的に考える」とは、一定の問題について、様々な立場があり得ることを理解した上で、自らの立場を明らかにし、これを説得的に/合理的に主張するという一連のプロセスを辿るものである。このプロセスを理解し、関心のある問題についてこれを実践することを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	法的思考を用いて現実社会における諸問題の対応/解決能力を養い、さらに社会的な立場の違いにより、起きている問題についての評価が異なることを理解する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。ただし、時事問題に広く関心を持ち、自分なりに考えることを心がけて下さい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行います。適宜レジュメを作成・配布して授業を実施します。必要に応じて小型六法を持参して下さい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 「法学」とは何か。法律はなぜ必要か。 第2回 「六法」とは何か。 第3回 権利とは何か。人権とは何か。 第4回 少年法・少年司法とは何か。 第5回 刑事裁判と民事裁判。 第6回 裁判員制度を考える。 第7回 犯罪とは何か。 第8回 刑罰とは何か。 第9回 家族と法を考える。 第10回 家族とは何か。 第11回 契約の自由と財産。 第12回 損害賠償。 第13回 労働者の権利と社会保障。 第14回 国際社会と日本。 第15回 グローバル社会と日本(共生を考える)。		
教科書・参考書等/Textbooks	小型六法は用意して下さい。必要に応じて、末川博『法学入門(第6版補訂版)』有斐閣双書を参考書として使用します。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業は正解を選ぶための授業ではありません。皆さんが自分の答えを導き出す訓練となるよう祈っています。そして、私たちにとって法律がいかに有効でありかつ問題があるのかを、一緒に考えていきたいと思っています。		
キーワード/Keywords	法学入門		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際化と人権/Internationalization and Human Rights		
担当教員(所属)/Instructor	今井 直(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G401718
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	今井 直(imai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	今井 直(前期:木曜5-6, 後期:水曜昼休み(研究室、授業期間中)、またはメールによる予約)		
授業の内容/Course Description	人権とはhuman rightsという言葉の翻訳です。「人間が人間らしく生きていくために社会によって認められている権利」とでもいえるでしょうか。日本では、第2次世界大戦後日本国憲法によってようやく認知された考え方です。しかし、現実の場面でその具体的な内容や解釈を明らかにするのはそう簡単ではありません。まして、人やモノや情報が国境をこえて行き交う「国際化」の時代では、人権も国際的レベルで考えていく必要があります。世界人権宣言や日本も締結している国連の人権諸条約(国際人権規約など)は、まさにそうした客観的普遍的な基準です。本授業では、日本における人権問題をこうした国際的基準に照らして検討します。		
授業の達成目標/Course Goals	外国人や社会的に不利な立場にある人たちの人権問題を中心に、国際人権基準をふまえて日本社会における人権のあり方を考えることにより、今日進行している多文化共生社会に適応する人権意識の向上をめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	人権教育は、単に心の問題だけではなく、実態や制度に関する正確な知識と考察が伴わなくては道徳論に終わってしまいます。また、国内的論理だけではなく、国際的基準を理解することにより、多文化共生の理念とも合致する認識が生まれます。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありませんが、中学や高校で人権について学んだことをおさらいしてください。		
関連科目/Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業は講義形式により行います。教科書は特に指定せず、毎回レジュメや資料を配布します。自らノートをとることは身につけるべき大事な技術ですので、この点を十分に心がけてください。一方的な講義に終始せず、質疑応答や議論を重視したいと思います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 在日外国人の現状の概観 第3週 植民地支配の歴史 第4週 戦後の在日コリアンの処遇と現在 第5週 戦後補償 第6週 移住外国人労働者の人権 第7週 人種差別・外国人差別問題 第8週 日本の難民受け入れ問題 第9週 被拘禁者の人権(1) 第10週 被拘禁者の人権(2) 第11週 女性の人権(1) 第12週 女性の人権(2) 第13週 子どもの人権 第14週 高齢者の人権 第15週 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 特にありません。 参考書: 神奈川人権センター編『国際化時代の人権入門』(明石書店) 阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法[第3版]』(日本評論社) 教材: 毎回資料やプリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験を中心に(随時レポートを加味して)評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	さまざまな人権問題が日常的に起きており、新聞、雑誌、テレビなどのメディアを通じて日頃から関心をもってください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	知的財産権概論 / Introduction to Intellectual Property		
担当教員(所属) / Instructor	野本 義弘(工学部)		
授業種別 / Type of Class	講義・演習	時間割コード / Registration Code	G401800
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 9, 火 / Tue 10	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	野本 義弘(電話番号(居室) 028-689-6317 ボイスメール 050-3491-4140 電子メール nomoto@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	野本 義弘(特定曜日・時間に設けず、e-mail もしくは、電話で予約を取ってから、教員室にて、質問や相談に応じる。)		
授業の内容 / Course Description	知的財産推進計画2013で謳われたように、大学における知的財産教育が国際競争力強化の観点から、更に重視される方向にある。当該方針に則り、初学者が最初に知的財産権制度を学ぶ指標の一つとして挙げられるのが、国際知的所有権機関(WIPO)のスキル標準(IPSS)を参考に、国内法に基づき構成した国家検定「知的財産管理技能検定3級」(以降、知財検定3級と呼ぶ)である。 本講義では、当該学習基準を、基盤教育がカバーすべき知財教育プログラムとして設定し、当該法域を対象とする講義を行う。		
授業の達成目標 / Course Goals	知財検定3級レベルの知識修得を目標とする。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	現代に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるとともに、実践的で専門的な知識を修得を目指す。		
前提とする知識 / Prerequisites	特別に必要とせず、基礎から学習する。		
関連科目 / Related Courses	専門教育科目「知的財産権・PL法」履修には、本講義の履修が望ましい。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	対象とする法域が広いとため、各法域の重要な箇所を絞り込んだ上で講義を進め、検定試験の過去問などの該当法域を参照しながら理解の確認を行う。法律の理解度の確認には、問いに答える課程が必ず必要と考えて欲しい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	01 ガイダンス(講義の目的、知的財産権とは何か、講義の進め方)、特許法1 02 特許法2 03 特許法3 04 特許法4、実用新案法 05 意匠法 06 商標法1 07 商標法2 08 商標法3 09 著作権法1 10 著作権法2 11 著作権法3 12 パリ条約、特許協力条約(PCT) 13 不正競争防止法、独占禁止法 14 種苗法(育成権)、地理的表示法、弁理士法 15 まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	各回毎に、講義資料を配布する。		
成績評価の方法 / Evaluation	試験成績のみで評価を行う。		
学習上の助言 / Learning Advice	本講義の単位取得だけに終わらず、知財検定3級(例年3月上旬の日曜日に実施される)にも挑戦し、「3級 知的財産管理技能士」資格を取得することを推奨する。		
キーワード / Keywords	知的財産 産業財産権 特許法 実用新案法 意匠法 商標法 著作権法 パリ条約 PCT 不正競争防止法 独占禁止法 種苗法 育成権 地理的表示 弁理士		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	法学概論/Introduction to Law		
担当教員(所属)/Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G401999
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアポを取ってください))		
授業の内容/Course Description	本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点をひとつずつ取り上げ、さまざまな角度から検討する。さらに、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。		
授業の達成目標/Course Goals	教養の1つとして、わが国の司法制度や法的思考方法を理解すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広く深い教養を修得するにあたり、法学を中心としてこれからの社会や国のあり方を考える科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	「日本国憲法」および「法学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で行う。毎回配付するレジюмеに従って講義をすすめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス、法学を学ぶ意義 第2回 法とは何か、法の位置づけ(国際法を含む) 第3回 法の解釈と三段論法、法的意見表明の技術 第4回 憲法(1)憲法の存在意義 第5回 憲法(2)憲法の事例検討 第6回 民法(1)民法の基本原則 第7回 民法(2)民法の事例検討 第8回 刑法(1)刑法の基本原則 第9回 刑法(2)刑法の事例検討 第10回 わが国の司法制度(1)わが国の裁判制度、裁判所の種類 第11回 わが国の司法制度(2)民事裁判と刑事裁判 第12回 わが国の司法制度(3)司法の担い手たち(裁判官・検察官・弁護士) 第13回 わが国の司法制度(4)裁判員制度の概要 第14回 わが国の司法制度(5)裁判員制度の意義と課題 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	最新版の六法(ポケット六法(有斐閣)またはデイリー六法(三省堂))を毎回持参すること。レジюмеや資料は、こちらで用意し配付する。参考文献等は、適宜紹介する。 教科書は以下の物を指定する。2冊とも購入すること。 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門【第4版】』(有斐閣、2005年) 市川正人・酒巻正・山本和彦『現代の裁判【第6版】』(有斐閣、2013年)		
成績評価の方法/Evaluation	学期末試験(論述式)で評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	身近な事例を素材にした議論を通じて、法学の面白さを体感してもらいたい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	国際政治史/History of International Politics		
担当教員(所属)/Instructor	松村 史紀(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G410200
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松村 史紀(f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp 電話:028-649-5190)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松村 史紀(月曜日12:30~13:30)		
授業の内容/Course Description	近代ヨーロッパに生まれた国際政治のしくみは、大きな変容を繰り返しながら、二〇世紀には地球全体を包み込んでいくことになる。この授業は、(1)国際政治史を考えるための導入、(2)近現代国際政治の歴史的变化の概観、(3)二〇世紀後半の歴史という三部構成で展開される。特に、(3)に重点をおく。		
授業の達成目標/Course Goals	近現代国際政治の変容を「国家のかたち」「国家の行動」「国際秩序の展開」という三つの軸から理解した上で、現代世界の基礎を形づくった「冷戦史」について、その史的展開を理解できるようになることが目標である。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会に参画しながら身に付け続ける幅広く深い教養の基礎を学びます。		
前提とする知識/Prerequisites	世界史の知識を前提にしなくとも理解できるように工夫しています。		
関連科目/Related Courses	「国際関係論入門」「現代政治学入門」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、穴埋め式のレジュメを配布して、板書・パワーポイントなどを利用して講義を進める。授業時間内に問題を出し、それをコメント・ペーパーあるいは小レポートとして提出してもらう。課題提出は期限を厳守する。予習は指定した参考書の該当箇所、復習は配布したレジュメによって進めること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第一部 ーイントロダクションー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原爆投下をめぐる神話(1):敗戦国日本にとっての原爆 2. 原爆投下をめぐる神話(2):戦勝国アメリカにとっての原爆 <p>第二部 ー近現代の国際政治史ー</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 国際政治の起点:中世の終り、近代の始まり 4. 国民国家の誕生(1):革命が広がる世界 5. 国民国家の誕生(2):ふたたび革命が広がる 6. 映画『王と鳥』から考える革命と現状変革 7. 国民国家の衝突(1):総力戦の見取り図 8. 国民国家の衝突(2):グローバルな総力戦の展開 9. 未完の総力戦:冷戦の国際政治学 <p>第三部 ー冷戦史を学ぶー</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 戦争の「あと」と「まえ」 11. 成長する冷戦(1):中心地域の現状維持 12. 成長する冷戦(2):第三世界の暴力 13. デタント:超大国の衰退と多極化 14. 最後の冷戦:東側世界の崩壊 15. もう一つの冷戦終焉:フィクションから見る冷戦の物語 		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は、毎回配布するレジュメであるが、以下を有用な参考書として挙げておく。 E.H.カー(大窪憲二訳)『ナショナリズムの発展』みすず書房、2006年 佐々木雄太『国際政治史』名古屋大学出版会、2011年 松村史紀他編著『東アジアにおける二つの「戦後」』国際書院、2012年		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(コメント・ペーパー、小レポートの内容等)30%、定期試験 70%		
学習上の助言/Learning Advice	この講義では主に以下の映画を利用するが、部分的にしか観賞できないため、事前に見ておくこと(その都度、アナウンスする予定)。『カンゾー先生』、『太陽の帝国』、『王と鳥』(アニメ)、『紅の豚』(アニメ)、『V For Vendetta』など。		
キーワード/Keywords	世界史 国際政治 国際関係 西洋史		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	戦争と平和をめぐる諸問題/Issues of War and Peace		
担当教員(所属)/Instructor	清水 奈名子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G410300
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	清水 奈名子(nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	清水 奈名子(水曜日 12:30-14:20(研究室にて) (上記以外の時間に面談を希望する場合には、必ず事前にメールで予約をとってください))		
授業の内容/Course Description	戦争と平和をめぐる多様な問題を扱っている教科書を参照しながら、現代世界が抱える国際的問題の歴史的背景と現状を学習する。		
授業の達成目標/Course Goals	現代の問題に限らず、歴史を振り返りつつ国際関係について、自ら考察し分析する際の基本的な能力を養うことを目標としている。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会に必要なリテラシー(素養)、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行うとする、大学の教育目標に対応している。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に基づいて講義を中心に進める。履修者には毎回コメントシートを提出してもらい、それらに回答する時間を多くとることで双方向的な授業を目指している。授業で扱う教科書の範囲の予習・復習を前提とした講義を行うので、各自で毎週自習時間を確保すること。また学習内容の定着を促すために、学期中に2回のグループ討論を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(以下は現時点の予定であり、変更する可能性もあります) 第1回導入講義：国際関係と平和について 第2回尽きせぬ武力紛争：戦争と平和の歴史 第3回未完の理想：国際機構による平和 第4回国際機構の現代的展開：国連と様々な地域的機構 第5回平和のための法：国際人道法の歴史 第6回武力紛争のルール：ニュルンベルクと東京裁判の遺産から国際刑事裁判所へ 第7回平和を再定義する：「構造的暴力論」と人間の安全保障 第8回人道的介入：武力行使と人権保障 第9回視聴覚教材鑑賞とグループ討論：武力行使と平和について 第10回平和と人権：市民がつくる平和 第11回核兵器と殲滅の思想：人間の忘却としての平和破壊 第12回絶望から和解へ：パレスチナ問題 第13回隣人との平和：欧州連合(EU)の試み 第14回隣人との平和：日本の国際関係 第15回グループ討論と学期のまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最上敏樹『いま平和とは一人道と人権をめぐる9話一』岩波書店(新書赤版1000)2006年(740円+税)(予定) 主な参考書： 君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』世界思想社2009年 日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』法律文化社2014年 日本平和学会編『地域・草の根から生まれる平和』早稲田大学出版部 2015年 日本平和学会編『積極的平和』とは何か』早稲田大学出版部 2015年 他の文献については、授業時に適宜紹介する予定である。		
成績評価の方法/Evaluation	授業についてのコメントシート(20%)、中間レポート(20%)及び期末試験(60%)を総合して評価する。 期末試験には、教科書と自筆ノートのみ持ち込みを可とする。		
学習上の助言/Learning Advice	国際問題に強い関心をもつ学生の履修を期待しています。講義を受け身で聴くだけでなく、主体的な学習のきっかけとして活用して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	現代政治の理論と実際/Theory and Practice in Modern Politics		
担当教員(所属)/Instructor	中村 祐司(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G411713
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	中村 祐司(yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5181)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	中村 祐司(月) 12:00-12:50)		
授業の内容/Course Description	現代政治はまさに生きものであり、刻々と変化する。この授業では、紙媒体の新聞報道やインターネット情報をもとに、とくに新聞報道を素材にして、その時々タイムリーな課題に注目しつつ、日本および世界における政治のダイナミズムを論じる。現在進行形で生じている政治・政策課題や社会的課題について取り上げこれを前半の授業では中心に進める。基本的にその年その年の大きな政治課題を取り上げる。		
授業の達成目標/Course Goals	考察の対象を国内外に向け、国家間関係の変容や国家戦略を把握し、国際組織からコミュニティ組織まで様々な諸アクターの相互動態を探る。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代政治に関する基礎知識を身につけ、現在の重要な諸課題も取り上げることで、国内外の政府活動や政策課題に関する鋭敏な視点が持てるようにし、社会科学領域において政治活動のメカニズムについて理解する。		
前提とする知識/Prerequisites	「現代政治」という語に触れて何かしらの興味と関心を持つ者であること。		
関連科目/Related Courses	行政学、地方自治論、国際学英書講読、余暇政策論など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	例えば、台頭著しい中国やインド、そして政治・経済の停滞からなかなか抜け出すことのできない日本など、先進諸国における国家戦略の変容を理解する。一方で身近な地域社会においていかに政治が浸透しているかについても具体例を挙げながら、検討する。グループ討議も実施しつつ、授業後半からは各自がテーマを設定し、レポート作成を進めていく。第12週から第13週に提出し、第14週と第15週で意見交換を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>(※その時々政治・政策課題を取り上げるので、以下は例示)</p> <p>第1週現代社会における国家(中央政府)の役割と課題 第2週現代政治へのアプローチ方法と分析の視角 第3週現代政治における権力、イデオロギー、利害 第4週国家構造の変動と政治・経済・社会の変容 第5週中米関係と中台、日中関係の変容 第6週戦後の中国政治の変化(※このあたりから受講生の発言を促す) 第7週国際政治における中国 第8週日本の対北朝鮮政策の特質と拉致問題(※レポートについての説明) 第9週北朝鮮問題をめぐる国際組織の役割と課題 第10週朝鮮半島エネルギー開発機構(KEDO)をめぐる国家間関係(※レポート中間報告の実施) 第11週国際NGO組織による北朝鮮支援の特質(※レポート中間報告の実施) 第12週ロシア・中国の対北朝鮮政策をめぐる同質性と差異(※レポート仮提出) 第13週北朝鮮問題をめぐる中国の対応(※レポート本提出) 第14週北朝鮮の食糧難をめぐる国際支援の実際 第15週中国をめぐる政治的安定の可能性と諸国家の関わり</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>教材等：前半の授業では、ほぼ毎回、新聞報道などから資料をパワーポイントで提示する予定。Moodleを活用する。</p> <p>参考書：中村祐司『政策を見抜く10のポイント』(成文堂) 同『スポーツと震災復興』(成文堂)</p>		
成績評価の方法/Evaluation	期末に提出するレポート内容(65%)、講義やレポートをめぐるディスカッションの際の積極的発言とその内容(35%)。秀は上記各評価において極めて優秀な結果(的を射た質問や意見の提示、卓越したレポート内容、試験での論述内容)を出した受講生に与える。「書くという行為」を最重要視する。		
学習上の助言/Learning Advice	現在の「政治」に何らかの関心がある学生には、得るところの多い授業にしたい。この講義の成果(レポート)をインターネット上に公開する。履修を検討するにあたって受講生には「宇都宮大学国際学部行政学(中村祐司)研究室」のホームページ http://gyosei.mine.utsunomiya-u.ac.jp/ を事前に参照しておいてほしい(検索用語は「中村祐司」)。		
キーワード/Keywords	意思決定、調整、政治過程、政策、若者と政治		
備考/Notes	新聞報道等に接し、日頃から国内外の政治の動きに関心を持ってほしい。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	グローバル・ガバナンス論入門／Introduction to Global Governance		
担当教員(所属)／Instructor	栗原 俊輔(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G411800
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業は、グローバル・ガバナンスの入門編として、世界での様々な具体的な例を挙げながら世界の急速なグローバル化を背景に、グローバル・ガバナンスとは何か、どのような問題が起きているのかを考えていく。21世紀に入り、南北問題をはじめ、新興国の台頭など、世界のグローバル化はより一層複雑さを増してきている。IT技術の進展とともに世界中の情報ネットワークは途上国においても進歩しているが、その反面経済活動における格差や貿易不均衡、環境問題などは益々深刻になっている。グローバル・ガバナンスとは何か、何が問題なのか、討論を交えながら考えていく。		
授業の達成目標／Course Goals	今日の国際社会の様々な事象を論理的に分析・理解するために、身近なことから世界への結びつき、つながりを多角的に捉えて分析する視点が持てることを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際社会を理解し、これからの国際社会がどうあるべきか、現在どのような問題・課題があるのか、自分の言葉で語れるように、具体的な事例を多く取り入れて、世界ではどのような問題が起きているのか、そしてそれらの問題が日本とどうつながっているのか、具体的な事例を通して学ぶ。また、自分の言葉で伝える、という技術も学ぶべく、グループでの作業と発表を交えたワークショップ形式も随時取り入れ、これからの国際社会について考えていく。		
前提とする知識／Prerequisites	国際協力、開発援助、国際政治、市民社会に興味があること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で進めると同時に学生の発表の場も設け、双方向的にグローバル・ガバナンスを学んでいく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 国際社会とグローバル・ガバナンス 3. 移り変わる国際社会の文脈①: 富と機会の公平な分配(南北問題とは?) 4. 移り変わる国際社会の文脈②: 国境を越えた人々とモノの移動 5. ワークショップ①「つながりを理解する」 6. 多国籍企業と世界の生産者 7. フェアトレードと消費者 8. ビデオ鑑賞(ケニヤ、インド、スリランカの紅茶農園労働者問題) 9. ビデオ検証①: エンタイトルメント(権利)とアドボカシー(政策提言) 10. ワークショップ②: 国際マーケットに正当性はあるのか?(ディベート) 11. 市民社会とグローバル・ガバナンス①: 国境を越えた市民の力とNGO 12. 市民社会とグローバル・ガバナンス②: 世界の紛争と市民社会 13. 市民社会とグローバル・ガバナンス③: 企業の社会貢献(CSR) 14. ワークショップ③「世界のつながりを図解する」 15. まとめ 		
教科書・参考書等／Textbooks	随時配布。参考文献は後日指示。		
成績評価の方法／Evaluation	授業の参加態度(20%)、発表(40%)、ワークショップ各回のレポート(40%)を総合的に評価		
学習上の助言／Learning Advice	国際的なトピックが多いので英語を積極的に学ぶ姿勢があるとより一層、グローバル・ガバナンスを理解できる。		
キーワード／Keywords	グローバル化、格差、社会正義、市民社会		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	政治の世界/Introduction to Political Science		
担当教員(所属)/Instructor	遠藤 正敬(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G411855
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	遠藤 正敬(028-649-5190 zangesixty@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	遠藤 正敬(e-mailによる連絡で対応(火曜日、16時10分以降))		
授業の内容/Course Description	近代国家は、人々の多様に分節化した政治意識を一定の領域で国民の名の下に統合して発展してきた。だが、主権や自由といった近代国家を支配してきた主要な価値基準はだれを当事者とするかによって正当性を動揺させる契機を常にもってきた。ことに近年のグローバル化の波は否応なく国家における主権概念の転換を促し、市民の資格をめぐる排除・包摂の問題が改めて提起されている。こうした問題意識から本講義では、政治における価値や規範の多様性・流動性を主題としたクリティカルな政治学を講義していきたい。とりわけ後半では、「国家」と「国民」の乖離をめぐる問題として、外国人参政権問題、移民や無国籍者に対する市民権政策について世界各国の事例に関する比較研究を重要課題として提起するとともに、「国民主権」や「国益」といった概念がいかなる時に同調の圧力に転化するのかを議論していきたい。		
授業の達成目標/Course Goals	現実の政治問題に対応できる理解力や思考能力を養うことを目的とする。日本の政治だけでなく、国際的な視野に立って、世界で生じるさまざまな政治現象の特殊性への理解を深める。このことを通じて、我々の日常生活を取り巻く政治的問題を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成していく力を養成する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	政治の世界で起こっている社会現象を、国家や国際機構、市民社会そして人と人とのコミュニケーションという多層的な観点から考察するための、総合的な理解力、基礎学力そして情報処理能力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	「現代政治の理論と実際」、「現代政治学入門」、「戦争と平和をめぐる諸問題」を受講することが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的に講義形式で行う。レジュメおよび資料を母体にして講義し、補足的に板書を行うとともに映像資料も時折使いたい。極力、受講者との対話や質疑応答、受講者間の議論を行い、授業の活性化を図る。 なお、履修希望者が過多となった場合、第一回の授業で抽選を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 序:「政治」とはいかなるものか? 第2回 政治学とはなにをめざす学問なのか? 第3回 人間における「政治」の発見-古代ギリシャにおける民主主義論 第4回 近代国家の成立と系譜-近代市民社会とさまざまな国家観 第5回 権力、支配、正統性-マッキヤヴェリの「君主論」を読む 第6回 政治文化論-比較政治というアプローチ、西欧とアジア 第7回 デモクラシー論-主役はだれか、「市民」の政治参加と討議 第8回 議会と政党-国民と政治参加、「政治家」の使命とはなにか? 第9回 イデオロギーと政治-政治を動かす思想、自由民主主義、保守主義、マルクス主義 第10回 政治過程のしくみ-政策の立案から実施まで、利益集団の役割 第11回 官僚制-行政と立法、政治におけるエリート論 第12回 マスコミと政治-世論と政治意識、プロパガンダによる統合 第13回 ナショナリズムと政治-戦争の温床としてのナショナリズム、動揺する「国民」概念のゆくえ 第14回 多文化主義と政治-国家は「差異」をどこまでみとめるべきか? 第15回 まとめ:脱〇〇主義の政治		
教科書・参考書等/Textbooks	特に指定する教科書はないが、入門書として以下のものをお勧めしたい。阿部齊・有賀弘・斎藤眞著『政治 個人と統合(第2版)』東京大学出版会、1994; 福田歓一『近代の政治思想』岩波新書、1970; 堀江湛・岡沢憲英編『現代政治学(新版)』法学書院、2005		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験 60% 平常点(課題・レポート含む) 40%		
学習上の助言/Learning Advice	本講義で肝心なことは、政治学がいかに扱うテーマの幅広いものであるのかを理解すること。履修者の多様な価値観を提示してもらうことが講義の活性化になるので、意見や疑問や批判を積極的にぶつけてくれることを切望する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	現代日本政治論/Contemporary Japanese Politics		
担当教員(所属)/Instructor	遠藤 正敬(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G411911
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	遠藤 正敬(028-649-5190 zangesixty@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	遠藤 正敬(e-mailによる連絡で対応(火曜日、16時10分以降))		
授業の内容/Course Description	本講義では、明治維新から2009年政権交代後の現代に至るまでの日本の政治の構造と歴史を学んでいく。1回完結式で日本政治の重要な論点を取り上げて批判的に論じていく。日本政治の展開をアジアや欧米をめぐる国際政治的緊張関係において把握し、政治における理想と現実の関係、内政と外交の不可分性に焦点を当てる。政治学を学ぶ上で、日本の政治はいかに「開かれた」ものであったか、また日本政治において戦前と戦後はいかなる連続性をもっているのか、というのが履修者に問いかけたいテーマとなる		
授業の達成目標/Course Goals	日本で生じる政治・外交・経済問題に対応できる理解力や思考能力を養うことを目的とする。ただし、国際的な視野に立って、日本で生じるさまざまな政治現象を相対化するための理解を深める。このことを通じて、我々の日常生活を取り巻く政治的問題を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成していく力を養成する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	日本政治・外交をめぐる社会現象を、国家や国際機構、市民社会そして人と人とのコミュニケーションという多層的な観点から考察するための、総合的な理解力、基礎学力そして情報処理能力を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	「政治の世界」、「現代政治の理論と実際」、「現代政治学入門」、「戦争と平和をめぐる諸問題」を合わせて受講することが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業はレジュメと板書を中心に講義形式で行う。最新の統計やDVDなどの視覚資料も織り交ぜていく。そして何より、受講者との意見交換をさかんに行っていききたい。試験以外に、適宜レポートを課す。レポートの内容は授業で指示する。 なお、履修希望者が過多となった場合、第一回の授業で抽選を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回、序—あなたは日本の政治にどんな関心があるか？ 第2回 現代日本政治の足跡①—開国、明治維新、憲法制定と議会政治の確立、天皇制とデモクラシー 第3回 現代日本政治の足跡②—日本の大国化、政党政治の盛衰、日本の植民地統治、ファシズム 第4回 現代日本政治の足跡③—大東亜戦争と日本の敗戦、戦後改革と民主化、国際社会への復帰 第5回 現代日本政治の足跡④—55年体制と保守政治、冷戦と安保、アジアとの和解と摩擦、バブル崩壊 第6回 憲法と政治—国民主権の意義、天皇の存在、平和主義の理念と現実、三権分立 第7回 議会制民主主義—立法のしくみ、衆議院と参議院、選挙制度の変遷、国会議員の仕事 第8回 内閣と行政—議院内閣制、首相のリーダーシップ、官僚と政治家 第9回 政党政治—日本の政党の特質、野党の役割、無党派層の出現、政権交代の意義 第10回 地方自治—「民主主義の学校」、中央集権と地方分権、首長と地方議会、住民の政治参加 第11回 政治とマスコミ—政治を動かすさまざまな「世論」、マスコミと権力の関係、ネット社会と政治 第12回 国際政治のなかの日本政治—外交と国内政治、国際社会の眼と「経済大国」日本、国際貢献とは何か？ 第13回 現代日本政治の争点①—少子高齢化社会と社会保障、失業問題と雇用、環境問題としての原発問題 第14回 現代日本政治の争点②—グローバル化と共生社会、外国人の人権、すすむ管理社会化 第15回 まとめ—あなたは日本政治のなにを変えたいか？		
教科書・参考書等/Textbooks	特に指定する教科書はないが、入門書として以下のものを読んでおくことを勧める。 ・石川真澄『戦後政治史(新版)』岩波新書、2004 ・飯尾潤『日本の統治構造—官僚内閣制から議院内閣制へ』中公新書、2007		

成績評価の方法／Evaluation	定期試験 60% 平常点（課題・レポート含む）40%
学習上の助言／Learning Advice	本講義で肝心なことは、日本政治がいかなる現状にあるのかに関心をもつこと。賛成・批判を問わず履修者の多様な価値観を提示してもらうことが講義の活性化になるので、授業中に積極的な発言をぶつけてくれることを切望する。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	経済学Ⅰ/EconomicsⅠ		
担当教員(所属)/Instructor	磯谷 玲(国際学部国際社会学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G420954
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	磯谷 玲(isoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	磯谷 玲(オフィスアワーは原則として月曜ないし火曜の11:30-12:30を予定しています。)		
授業の内容/Course Description	テキストを用いて、経済学の基本的なカテゴリーを学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	経済学の基礎的なカテゴリーについて理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストを用いて、経済学の基本的なカテゴリーを学ぶ。また適宜、映像資料等を用いる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1) 導入 2) 経済学とは何か 3) 分業 4) 需要と供給 5) 価格統制 6) 価格弾力性 7) 労働市場 8) 資本市場 9) 個人投資 10) 完全競争と独占/独占禁止法 11) 規制と規制緩和 12) 外部性 13) 貧困と福祉/格差問題 14) 情報の非対称性 15) 企業と政治のガバナンス 		
教科書・参考書等/Textbooks	T・テイラー『経済学入門(ミクロ編)』かんき出版、2013年		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(小テスト、リアクションペーパーの内容等)(60%)、試験(40%)により評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	経済的事象に関心をもち、日常的に新聞・雑誌記事を読むことが望ましい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	経済分析入門/Introduction to International Political Economic Analysis		
担当教員(所属)/Instructor	塚本 純(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G420960
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	経済学が蓄積してきた分析手法の詳細、経済理論の具体的内容については、専門教育科目で取り上げることとし、この授業では経済を分析するということの射程とその内容についての概要を解説する。		
授業の達成目標/Course Goals	現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養うことを目的とする。経済とは何か、そこでは何が問題とされているのか、そしてその分析手法の特徴とはどのようなものであるのか、といったことを理解しながら、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力を養成する。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とする教養科目に位置付けられ、その中でも社会科学系経済学領域の科目。		
前提とする知識/Prerequisites	経済学の予備的知識がないことを前提に講義する。高校卒業程度の学力があれば十分である。		
関連科目/Related Courses	経済学の予備的知識がないことを前提に講義する。高校卒業程度の学力があれば十分である。		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	基本的には、すべての回で講義をおこなう。受講生の人数にも依るが、できるだけ回数多くレポートの提出を求める。 この授業では、第1に、経済の概念を取り上げる。経済活動とは何であるのか、その担い手はどのようなものであるのかについて説明する。第2に、経済の分野で問題になっている課題について取り上げる。社会問題のうち経済が関連する問題としてどのような課題があるのか、経済を分析することは何のためにおこなうのか考えてみる。そして3番目として、経済の分析手法を取り上げる。経済に関する諸問題の解明と、対処方法の提示のためにはどのような手法が考えられるのか、といったことについて考えていく。それは、大きくは記述と理論的分析に分かれる。記述の問題は、統計を中心に解説する。理論については、ミクロ経済学とマクロ経済学の二本の柱について、そのふたつの経済学で扱おうとしている論点について説明する。最後に、政府の活動について概観する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経済活動とは何か、経済活動の担い手と市場経済 3. 経済的に問題となること 4. 経済の実体を記述すること(GDPの定義) 5. 経済の実体を記述すること(GDPに関連する概念、日本経済の現状) 6. 景気の問題(小テストとまとめ) 7. 経済を分析すること(市場の表し方) 8. 経済を分析すること(市場均衡:ミクロ経済学) 9. 市場機構の役割について 10. 市場への介入 11. 市場機構のまとめ(小テストとまとめ) 12. 経済を分析すること(景気を動かすもの) 13. 経済を分析すること(均衡のGDP:マクロ経済学) 14. 政策とは、政府の活動について 15. 経済変動と政策の分析(小テストとまとめ) 		
教科書・参考書等/Textbooks	必要な資料は、プリントして配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	2/3以上の出席で評価対象とし、レポート・小テスト(65%)、期末テスト(35%)の総合点を判断基準にして、成績を評価する。総合点が60点以上の場合「可」(合格)、70点以上の場合「良」、80点以上の場合を「優」、90点以上の場合を「秀」とする。		
学習上の助言/Learning Advice	前提となる知識はそれほど必要としません。その点では、どのような学生でも履修できる授業です。本授業の背後にある経済学は、高校までは本格的に取り上げられないことのない科目であることを考えるとき、これまで何を学んだかということよりも、新たなことに取り組む姿勢が大切になります。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	資本市場の役割と証券投資/Roles of Capital Market and Investment in Securities		
担当教員(所属)/Instructor	野上 和雄(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G421101
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	野上 和雄(電話 : 028-635-2479 e-mail : nogami-0879@jp.nomura.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターンの考え方、株式資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。		
授業の達成目標/Course Goals	直接金融の基礎的な知識の習得をととして、現代社会に参画するために必要な資質を身に付ける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とする教養科目のうち、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養い、日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の特殊性への理解を深める社会科学系の科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特に問わず		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	手元資料、及びパワーポイントを使用し授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	①「ガイダンス」 ②「経済情報の捉え方」 ③「証券投資のリスク・リターン」 ④「ポートフォリオ・マネジメント」 ⑤「債券市場の役割と投資の考え方」 ⑥「株式市場の役割と投資の考え方」 ⑦「投資信託の役割とその仕組み」 ⑧「経済成長と金融資本市場」 ⑨「日本の株式市場史」 ⑩「外国為替相場とその変動要因について」 ⑪「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」 ⑫「産業展望と投資の考え方」 ⑬「財務分析と企業評価について」 ⑭「資本市場における投資家心理」 ⑮「ライフプランニングとNISA」 ⑯ 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	講義資料は毎回講師が準備する。 参考書 : 「証券投資の基礎」 野村証券投資情報部 編/丸善株式会社		
成績評価の方法/Evaluation	出席と試験を総合的に判断して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	数理経済学入門/Introduction of Economics and Mathematics		
担当教員(所属)/Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G422100
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	数学を利用したモデルによって、経済学の考え方を理解する。		
授業の達成目標/Course Goals	ミクロ経済学の基礎を学び、経済学の考え方・センスを身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	経済学の理解を通して、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	基本的な微分の知識		
関連科目/Related Courses	基本的な微分の知識		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書に沿った内容で講義を進め、関連する数学モデルを説明する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1)経済学とは 2)意思決定 3)時間：利子率と現在価値 4)リスク 5)取引と比較優位 6)ゲーム理論入門 7)パレート最適 8)同時手番ゲーム 9)オークション 10)需要と供給 11)税金 12)限界分析 13)弾力性 14)経済学と数学 15)経済学で世界を見渡すと		
教科書・参考書等/Textbooks	【教科書】 ヨラム・パウテン『この世で一番おもしろいミクロ経済学』ダイヤモンド社		
成績評価の方法/Evaluation	期末テスト100%		
学習上の助言/Learning Advice	理系の学生の受講も歓迎します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	農業経営入門/ Invitation to farm management		
担当教員(所属)/ Instructor	原田 淳(地域デザイン科学部)		
授業種別/ Type of Class	講義	時間割コード/ Registration Code	G422512
開講学期曜日時限/ Period	2016年度/ Academic Year 前期/ First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/ Credits	2単位
科目等履修生の受入/ Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/ Contact	原田 淳(5521, harada@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)/ Office Hours	原田 淳(木曜日3-4時限)		
授業の内容/ Course Description	どのような農業経営を行っている人がいるかの実例に基づいて、農業に関わろうとする際に直面する問題について考える、基本的な素養を身につける。		
授業の達成目標/ Course Goals	農業インターンシップ等農業の現場に出ようとする動機付け 農業インターンシップ等農業の現場に臨む心構え		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	農業経営や関連産業を素材として、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。		
前提とする知識/ Prerequisites	前提とする知識は特になし		
関連科目/ Related Courses	前提とする知識は特になし		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	資料やビデオによって実例を紹介しながら、関連する理論を講義する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 農業経営が直面する問題 3. 農業けいえいにおける理念 4. P D C A サイクル 5. 作業改善 6. 農業経営にとっての技術と技能 7. 農産物の市場特性 8. 農産物販売の課題 9. 農業協同組合と組織活動 10. 農業と農村社会 11. 農家と農政 12. 農業の多面的機能 13. 農業経営を支援する事業 14. 農家・農村の課題 15. 自分と農業の関わり方を考える 		
教科書・参考書等/ Textbooks	教科書は無し 参考書・教材については、授業中に配布ないしは指示		
成績評価の方法/ Evaluation	授業中に指示するレポートによる		
学習上の助言/ Learning Advice	農業に関わる仕事をを目指す人が受講して下さい		
キーワード/ Keywords			
備考/ Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	マスコミ入門/Introduction to Mass Communication		
担当教員(所属)/Instructor	西田 善行(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G432524
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	西田 善行(nishida.yoshiyuki.teach@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	西田 善行(授業のある金曜日 14:30-15:30(非常勤講師控室))		
授業の内容/Course Description	授業は前半と後半で二部構成になっています。前半は、主にマスコミ産業とその歴史について概説します。後半は、マス・コミュニケーション研究の代表的業績を紹介し、基礎概念について学んでもらいます。		
授業の達成目標/Course Goals	この授業では、マス・コミュニケーション(マスコミ)の産業の現状や歴史、理論について、基礎的な知識を身につけてもらい、マスコミを知る上で必須となるような語句や人名について解説ができ、さらに日常的な新聞報道やテレビ番組の内容に関して、身につけた知識を駆使して複眼的に読み解くことができるようになることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は大学の教育目標にある“専門に関する基礎を身につけ、広い視野とバランスのとれた判断を可能にする豊かな人間性を持った人材の育成をめざし”、“現代社会に必要なリテラシー(素養)、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育”に対応するものです。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありませんが、普段から新聞やテレビなどマスコミに関心を持っている方が理解しやすいでしょう。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回プリントを配布し、それに沿った形で講義を行います。また必要に応じて映像資料などを見ることにより理解を深めてもらいます。毎回の授業の最後にその回と次の回の内容をつなぐような「問い」を出します。これを踏まえて配布プリントや参考書などを読むことが復習と予習になります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 1.新聞産業 第3週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 2.新聞の歴史 第4週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 3.放送の歴史 第5週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 4.放送産業 第6週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 5. ITと新聞・放送 第7週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 6.広告とマスコミ産業 第8週 マス・コミュニケーションの歴史と産業 7.まとめ・中間試験 第9週 マス・コミュニケーションの理論 1.大衆社会の出現と弾丸効果モデル 第10週 マス・コミュニケーションの理論 2.「コミュニケーションの二段の流れ」仮説 第11週 マス・コミュニケーションの理論 3.「利用と満足」研究 第12週 マス・コミュニケーションの理論 4.アジェンダ設定研究 第13週 マス・コミュニケーションの理論 5.「コード化/脱コード化」モデル①(コード化とディスコース) 第14週 マス・コミュニケーションの理論 6.「コード化/脱コード化」モデル②(脱コード化とオーディエンス) 第15週 マス・コミュニケーションの理論 7.マスコミの理論と現代(まとめ)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書(その他授業中に適時、文献を示します) 『図説 日本のメディア』(藤竹暁編, 2012, NHKブックス) 『現代メディア史』(佐藤卓己, 1998, 岩波テキストブック) 『マス・コミュニケーション効果研究の展開[改訂新版]』(田崎篤郎・児島和人編, 2003, 北樹出版)		
成績評価の方法/Evaluation	中間試験40%, 学期末試験40%, リアクションペーパー20% 授業終了後、感想や質問などを書いたリアクションペーパーを提出してもらい、その内容について評価の対象とします。		
学習上の助言/Learning Advice	マスコミに関する基礎的な知識を学んでもらいますので、暗記的な知識も含めてしっかりと理解し、吸収してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	文化人類学入門/Introduction to Cultural Anthropology		
担当教員(所属)/Instructor	柄木田 康之(国際学部国際文化学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G433326
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	柄木田 康之(tel: 028-649-5207 e-mail: karakita@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	柄木田 康之(月曜日12:05~12:45 あるいは電話・メールでアポイントメントをとってください。 於: 峰5号館A棟3階柄木田研究室)		
授業の内容/Course Description	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。		
授業の達成目標/Course Goals	異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、異文化理解の基本的態度を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	人の話を聞きながらメモを取ることは、大学で身につけるべき重要な技術です。ですから授業は講義を中心とします。ただしAV機器等を利用して、具体的なケースの紹介に努めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画と評価方法の説明 2. 人類学の文化概念 3. 言語, シンボル(象徴), 文化 4. 異文化理解 5. ロマ人の穢れ概念 6. タブーと分類リーチとダグラスの理論 7. スーヤの通過儀礼I 8. スーヤの通過儀礼II 9. レレの聖なる動物センザンコウ 10. カラムのヒクイドリ 11. メタファー・メトニミー・プリコラージュ 12. 教員のフィールド・ワークから 13. 教員のフィールド・ワークから 14. 全体の復習 15. 期末試験へ準備 		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中にプリントを配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	随時レポートと出席, 期末試験を総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業以前に指定された文献を必ず読んでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	環境と国際社会/Environment and International Community		
担当教員(所属)/Instructor	高橋 若菜(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G435541
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本講義は、20世紀前半から今日にいたるまでに出現した国際的な環境問題・事件や文献をおいながら、国際環境政治の歴史的展開を全体的に通観する。また、アクティブ・ラーニングとして、足尾・渡良瀬におけるフィールドワークを行い、国内外に通底する環境問題の社会的構造を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	国際環境政治の歴史的展開について、基礎知識を習得する。歴史的体系的な思考・判断力の習得をめざす。アクティブ・ラーニングを通じて、環境問題が引き起こされる社会的構造を実感的に学ぶ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基礎的な知識の習得と、歴史的体系的な思考・判断力の習得。特になが、当該問題に対する高い関心と、真摯に学ぼうとする姿勢を求める。		
前提とする知識/Prerequisites	特になが、当該問題に対する高い関心と、真摯に学ぼうとする姿勢を求める。		
関連科目/Related Courses	特になが、当該問題に対する高い関心と、真摯に学ぼうとする姿勢を求める。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式+アクティブ・ラーニングにて行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回イントロダクション 第2回20世紀初頭の自然保護・天然資源保全と世界大戦 第3回1960年代：環境革命(核問題・先進国の公害問題他) 第4回アクティブ・ラーニング準備(事前準備・グループディスカッションを伴う) 第5回アクティブ・ラーニング(足尾フィールドツアー) 5/7を予定 第6回アクティブ・ラーニング(足尾フィールドツアー) 5/7を予定 第7回アクティブ・ラーニング(渡良瀬フィールドツアー) 5/8を予定 第8回アクティブ・ラーニング(渡良瀬フィールドツアー) 5/8を予定 第9回アクティブ・ラーニング振り返り(事前準備・グループディスカッションを伴う) 第10回70年代「成長の限界」とストックホルム人間環境開発会議、UNEP 第11回70-80年代の環境問題(先進国・途上国) 第12回原子力災害 第13回地球規模の環境問題(オゾン層破壊問題・気候変動問題)、リオ・サミット 第14回グローバル化の進行と途上国の環境悪化 第15回21世紀の問題、持続可能な社会に向けて (*授業計画は、一部変更する可能性がある。)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特に指定せず、レジュメを配布する。参考書は、授業の中で適宜紹介する。総論的な文献として、以下を参照されたい。 マコーミック『地球環境運動全史』岩波書店、1998年。 ポーター他著；村上朝子ほか訳『入門地球環境政治』有斐閣、1998年。		
成績評価の方法/Evaluation	中間レポート(50%)と最終試験(50%)の結果を総合して評価する。総合点が60点以上の場合「可」(合格)、70点以上は「良」、80点以上は「優」、90点以上は「秀」とする。なお、2/3以上の出席がない場合、評価の対象としない(単位取得不可)。		
学習上の助言/Learning Advice	受講生には、変遷する環境問題、およびこれらへの国際社会の対応について、基礎的かつ包括的な知識を身につけることを期待する。なお、受講にあたっては、自ら問題意識を持ち、建設的に議論を組み立てる姿勢を身につけることを期待したい。		
キーワード/Keywords	環境、国際社会、歴史、アクティブ・ラーニング		
備考/Notes	アクティブ・ラーニングの授業は、2日間のフィールドツアーと事前・事後学習をあわせれば、6回分の授業に相当する。このため、フィールドツアーに現時点で参加できない学生は、受講登録しても、単位取得がほぼ不可能となる。		

授業科目名(英文名) /Course Title	多文化共生論入門/Introduction to Multicultural Society		
担当教員(所属)/Instructor	立花 有希(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G435550
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	立花 有希(tachibana@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	立花 有希(月曜7-8時限、研究室)		
授業の内容/Course Description	多文化共生という用語で表現される対象を具体的に理解するために、国際比較や理論的検討を通じて、多文化社会の現実と理念を考察するものである。日本だけでなく北米や欧州の動向にも目を向けて、多角的な分析を可能にしたい。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化社会で顕在化している問題や潜在的な課題について、背景を含めて理解することができる。 ・望ましい多文化社会となるために求められる改善策について論じることができる。 		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	国際化によって生じた課題の解明と解決に寄与する学習を行う。		
前提とする知識/Prerequisites	多文化社会の抱える課題についての問題意識とその解決を目指す意欲があること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	各回に設定したテーマに関する講義と討論で授業を構成する。テーマごとに割り当てられた担当者による報告と質疑応答も予定している。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回現代日本の多文化状況 第3回国内の取り組み(1): 地域における多文化共生 第4回国内の取り組み(2): 学校における多文化共生 第5回諸外国の取り組み(1): アメリカ、カナダ、オーストラリア 第6回諸外国の取り組み(2): 欧州 第7回多文化社会と宗教 第8回多文化社会と政治 第9回多文化社会と教育 第10回多文化社会と言語 第11回移民に関する国際比較 第12回難民問題を考える 第13回移民政策を考える 第14回現代社会の課題と展望 第15回まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は特に指定しない。 参考書については、授業で適宜紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点40%、授業内での課題(報告、小レポート等)30%、期末レポート30%		
学習上の助言/Learning Advice	日常生活での小さな気づきが学習を大きく前進させることがあります。心に浮かんだ問題意識をそのままにせず、資料を探し、読み解き、論理的に検討することを数多く実践してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	人文地理学入門Ⅱ / Introduction to Human Geography II		
担当教員(所属) / Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	講義	時間割コード / Registration Code	G440350
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容 / Course Description	人文地理学の諸分野のうち、とくに文化地理学分野の研究例を紹介しながら、人文地理学の視点と特徴を解説するとともに、生活文化の多様性という面から日本の地理的特性を考察していく。		
授業の達成目標 / Course Goals	文化地理学的なものの見方を理解するとともに、生活文化の多様性という面から日本の地理的特性について理解を深める。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育において、社会科学系地理学分野の一科目として開設する。		
前提とする知識 / Prerequisites	中学校社会程度の日本地理の基礎的理解を前提とする以外に特別な知識・経験が要求されることはないが、身近な生活の諸相に対する好奇心と観察眼が期待される。		
関連科目 / Related Courses	中学校社会程度の日本地理の基礎的理解を前提とする以外に特別な知識・経験が要求されることはないが、身近な生活の諸相に対する好奇心と観察眼が期待される。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	身近な文化事象に着目した簡単な作業課題と、衣食住をはじめとした生活文化に関する内外の研究事例の紹介を中心に授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業計画、履修上の注意、分野の特徴と基本概念) 2. 期末レポートの課題と調査・執筆要領の説明、テーマのひろがり: 生活文化と土地柄 3. 日本の住まいの多様性とその意味 4. 自然の脅威と住まい(その1) 5. 自然の脅威と住まい(その2) 6. 住の吉凶観とその背景 7. 日本の住居の文化系統 8. 日本の周辺諸地域の住まい 9. 住の好みと現代住居の地域性 10. 素材と形態からみた衣の地域性 11. 発酵食品からみた日本の食 12. 歳時食の地域性(1)(雑煮) 13. 歳時食の地域性(2)(モチとイモ) 14. 地名・言葉の文化地理 15. 補足とまとめ 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書はとくに指定せず、配付資料および視聴覚教材により授業をおこなう。参考書は授業の中で適宜紹介する。なお、各自で地図帳を用意するのが望ましい。		
成績評価の方法 / Evaluation	毎授業時の小課題(25%)と指定課題による期末レポート(60%)および随時紹介するテーマについての任意提出課題(15%)の成績を総合して評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	この授業では日々のなにげない生活事象の中から、自分なりに人文地理学的な題材を見つけ出す面白さを経験してほしいと思っています。レポートの課題と作成要領、参考図書の紹介、授業日程の変更等、授業に関する重要情報は国際学部Moodleで周知します。授業で登録キーを確認したら、速やかに登録を済ませ、随時掲示内容を確認して下さい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	農村空間論 / Studies in rural spaces		
担当教員(所属) / Instructor	松村 啓子(教育学部)		
授業種別 / Type of Class	講義	時間割コード / Registration Code	G440580
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 水 / Wed 7, 水 / Wed 8	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	松村 啓子(kwmatu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00)		
授業の内容 / Course Description	<p>国土のわずか3.4%にすぎない既成市街地に人口の67%が居住する日本では、第一次産業の担い手不足による農村空間の荒廃が進んでいます。高度な都市化・兼業化の結果、農村住民も社会的属性や生活行動の面で都市住民との区別がなくなり、日本の伝統的な生業や生活文化の継承は高齢者がなんとか支えているという状況です。このようななかで、農村空間は国土保全という公益的機能を果たしつつ、都市住民の安全な食・観光・保養・二地域居住などの新たなニーズに応える場所としても注目されています。本授業では、村落立地、農村景観の特性、農村空間の商品化、むらおこしなどについて学び、農村空間の多面的機能を深く理解します。</p>		
授業の達成目標 / Course Goals	農業・農村に対する政策について理解し、農村の実態を明らかにするための地域統計の活用や、地形図や空中写真の利用法を学び、農村調査の方法を習得することを目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	教員志望の受講者に対しては、農村地域の伝統的な暮らしとその変化、過疎問題など、小中学校の社会科の学習内容を具体的な地域に即して教材化する力を養います。		
前提とする知識 / Prerequisites	中学校社会科地理的分野の内容を理解していること。		
関連科目 / Related Courses	基盤教育総合系科目の「里山のサステナビリティを考える」(前期不定時)を受講することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業内容に関するプリントを配布し、パワーポイントとVTRを使いながら講義を進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週: 農村空間のとらえ方 第2週: 農業の多面的機能 第3週: 都市近郊における農地保全の意義 第4週: 「地方消滅論」と「里山資本主義」 第5週: 村落立地と農村景観(1) 立地場所 第6週: 村落立地と農村景観(2) 耕地の配置形態 第7週: 村落立地と農村景観(3) 景観の東西差 第8週: 祭礼と地域社会(1) 天祭 第9週: 祭礼と地域社会(2) 黒川能 第10週: 農村空間の商品化(1) 新たな農産物供給 第11週: 農村空間の商品化(2) 都市-農村交流 第12週: 茂木町のむらづくり活動 第13週: 那須地域における観光化 第14週: レポート課題の提示と解説 第15週: 資料収集の方法と空中写真の判読		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は使用しません。 参考書: 田林明編著「商品化する日本の農村空間」農林統計出版 藻谷孝介・NHK広島取材班「里山資本主義-日本経済は「安心の原理」で動く」角川書店		
成績評価の方法 / Evaluation	授業時の課題(20%)と期末レポート(80%)によって評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	フィールドワークをともなうレポートを課しますので、資料の検索・収集や調査方法についての質問を毎回の授業終了時およびオフィスアワーに受け付けます。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	歴史学入門／Introduction to History		
担当教員(所属)／Instructor	下田 淳(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G450115
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	下田 淳(shimoda@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	下田 淳(火曜日12～13時。)		
授業の内容／Course Description	歴史学入門といっても、歴史学の抽象的理論を紹介するわけではない。具体的に歴史をみる。今回は世界の宗教史を概観する。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義を通して宗教の歴史の大枠を把握し、今後の人類社会を展望する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	現代社会、そして未来を生き抜くための教養と思考力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校「世界史」の教科書で当該箇所を予習しておくことが望ましい。授業内容は、理系の学生にも対応できる簡単な内容である。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	映像資料をスクリーンに映し、当該箇所について私が解説を加える。授業では、自分の関心にしたがって授業ノートに毎回メモすること。前回の復習と次回の予習をすること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1回：歴史における宗教とは何か 2回：宗教の登場 3回：原始宗教と高等宗教 4回：中東の宗教：ユダヤ教からキリスト教へ 5回：ヨーロッパのキリスト教史(1) 6回：ヨーロッパのキリスト教史(2) 7回：ヨーロッパのキリスト教史(3) 8回：中東文明とイスラム(1) 9回：中東文明とイスラム(2) 10回：インドとヒンドゥー教 11回：仏教史(1) 12回：仏教史(2) 13回：中国の宗教 14回：日本の宗教 15回：総括		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜指示。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験		
学習上の助言／Learning Advice	私語厳禁		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	歴史と民族／History and Peoples		
担当教員(所属)／Instructor	下田 淳(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G452320
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	下田 淳(shimoda@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	下田 淳(火曜日12～13時。)		
授業の内容／Course Description	世界の歴史を「民族」と「宗教」をキーワードに検討する。		
授業の達成目標／Course Goals	民族と宗教の関係についての大枠の知識を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	現代社会、そして未来を生き抜くための教養と思考力を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校「世界史」の当該箇所を読んでおくことが望ましい。授業は理系の学生でも十分に理解可能な内容である。		
関連科目／Related Courses	高等学校「世界史」の当該箇所を読んでおくことが望ましい。授業は理系の学生でも十分に理解可能な内容である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	映像資料を使って民族と宗教を概観する。自分の関心にしたがって、毎回授業ノートをとること。前回の復習と次回の予習をすること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1、人類の起源と宗教の起源 2、古代民族の宗教(1) 3、古代民族の宗教(2) 4、古代民族の宗教(3) 5、中東の民族のユダヤ教 6、中東の民族とキリスト教 7、ヨーロッパとキリスト教 8、アラブ・ペルシア・トルコとイスラム(1) 9、アラブ・ペルシア・トルコとイスラム(2) 10、インドとヒンドゥー教(1) 11、インドとヒンドゥー教(2) 12、インドと仏教 13、中国の宗教 14、日本の宗教 15、総括 		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜指示。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験		
学習上の助言／Learning Advice	私語厳禁。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	歴史と文化/History and Culture		
担当教員(所属)/Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G452720
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 3, 月/Mon 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsumiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	高山 慶子(月曜14:30~16:00)		
授業の内容/Course Description	前近代の日本史を、文化事象や美術作品に注目しながら概説する。		
授業の達成目標/Course Goals	日本の文化について興味をもち、歴史について自ら考え探求する契機を提供する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代および未来社会を生き抜くための教養と思考力を身に付ける。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	プリント配付。講義形式。それぞれの時代の文化事象や美術作品に注目し、それらが生み出された背景などを考えることで、日本の歴史や文化について理解を深める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 縄文時代(土器・土偶・三内丸山遺跡) 2. 弥生時代(土器・青銅器・吉野ヶ里遺跡) 3. 古墳時代(古墳・埴輪・纏向遺跡) 4. 飛鳥時代(仏教伝来・法隆寺) 5. 奈良時代(平城京・奈良仏教) 6. 平安時代(1)(平安京・密教・浄土教) 7. 平安時代(2)(国風文化・絵巻) 8. 鎌倉時代(鎌倉仏教・金剛力士像) 9. 南北朝時代(神護寺三像<伝源頼朝像ほか>をめぐって) 10. 室町時代(禅宗) 11. 安土桃山時代(狩野永徳・屏風・障壁画) 12. 江戸時代(1)(狩野派・琳派) 13. 江戸時代(2)(仏教・陶磁器・絵画) 14. 江戸時代(3)(浮世絵) 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	<p>教科書は使用せずプリントを配付、参考書は授業中に紹介する。 文化事象や美術作品そのものについてより深く知りたい人は、以下の参考書を参照して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辻惟雄監修『増補新装 日本美術史』(美術出版社、2003年) ・辻惟雄『日本美術の歴史』(東京大学出版会、2005年) 		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験100%		
学習上の助言/Learning Advice	文化事象や美術作品を覚えるのではなく、それぞれについて理解を深め、歴史的な背景を考えるなどして、日本史への関心を高めてほしいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域の歴史/Local Histories		
担当教員(所属)/Instructor	平野 哲也(その他)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G455555
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	平野 哲也(t_hirano123@ybb.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	平野 哲也(授業の前後に授業の教室に於いて(事前にメールで確認をしてください))		
授業の内容/Course Description	栃木県(下野国)の歴史と地域特性について、栃木県に現存する資料を通して具体的に考えていきます。主に、現代生活の基盤を形成した江戸時代、時代の主役に躍り出た庶民(百姓・町人)の活動を取り上げ、政治・経済・社会・文化など、さまざまな角度から地域史を学びます。適宜、明治時代以降の歴史や現在の状況、県外の事例についても触れていきます。		
授業の達成目標/Course Goals	自らが学び、生活する場である栃木県(下野国)の歴史的・地域的特徴を理解し、自然環境と庶民の暮らしの関わり、社会の変化に対する庶民の営為と力量について認識を深めます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	資料・情報を活用し、自ら考える力を身につけます。身近な地域に対する関心を高め、現代社会が直面している諸問題を、地域に即して、歴史的な因果関係として捉える視座を養います。		
前提とする知識/Prerequisites	中学校の日本史の知識があれば問題ありません。ただし、栃木県に生きた先人の歩みを知りたい、そこから何かを学ぼう、自分で歴史を考え想像しようという意欲をもって、主体的に授業に取り組んでほしいと思います。		
関連科目/Related Courses	中学校の日本史の知識があれば問題ありません。ただし、栃木県に生きた先人の歩みを知りたい、そこから何かを学ぼう、自分で歴史を考え想像しようという意欲をもって、主体的に授業に取り組んでほしいと思います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式で授業を進めますが、学生の皆さんと積極的に対話や質疑応答を行い、双方向的な授業にしていくつもりです。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 オリエンテーション:下野国の風土と歴史を読み直す視点 第2回 下野国における戦国時代の終焉:豊臣の天下統一から徳川の世へ 第3回 関東の国土改造:江戸時代の治山治水の技術と思想 第4回 下野国の政治風土:分散錯綜の領主支配と村の自治 第5回 家族による集約農業の発展:農法改良と高度な土地利用 第6回 農書王国としての下野国:百姓の科学と農耕文化 第7回 特産物の生産と流通:麻がつなぐ内陸農村と海村 第8回 百姓の元気①:「農村荒廃論」に修正をせまる百姓の消費 第9回 百姓の元気②:百姓の柔軟な生業選択 第10回 町と村の関係:成長する在郷町と後背農村 第11回 南奥北関を貫く諸街道:奥羽と日光・江戸を結ぶ陸上交通 第12回 内陸水運網の発展と河岸の競争:江戸に向かう水の道 第13回 川利用の多様性と諸生業の連関:地域資源の活用とその秩序 第14回 人と野生鳥獣の対抗と共生:江戸時代の百姓の鉄砲 第15回 自然災害からの復興:天和の大地震と五十里洪水		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は、その都度、授業中に配付します。参考書も、必要に応じて授業中に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	平常点(出席状況や授業態度)(30%)と試験(70%)などから総合的に判断します。		
学習上の助言/Learning Advice	歴史は、つねに読み直され、解釈し直される学問です。地域の具体的な事例や資料からどんな歴史像が描けるか、一緒に考えてみませんか。地域の庶民が積み重ねた歴史は、教科書で教わった概説的な歴史のイメージを相対化したり、覆したり、リアルで新鮮な驚きや発見を与えてくれます。文系の皆さんはもちろん、理系の皆さんにも十分理解してもらえます(土木や農業の技術についても考えていきます)。生活者の視点で見る、下野・栃木の地域史に興味がある方は、ぜひ受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中東の社会と文化／Societies and Cultures of the Middle East		
担当教員(所属)／Instructor	松尾 昌樹(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G475392
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	中東諸国に関する様々なトピックスを入り口に、歴史・政治・経済・文化の基本的な知識を獲得する。その上で、中東地域を理解するための基本的な視角を得る。		
授業の達成目標／Course Goals	中東地域の概要を理解する。日本とは大きく異なる(ように見える)地域を理解する際の基本的方法を学ぶ。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中東地域の社会と文化を理解することを通じて、世界理解の基礎を形成するとともに、社会科学系の学問の基礎を修得する。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	映像や音楽など、さまざまな資料を紹介する。場合によっては授業の最後にはコメントシートを配布するので、質問等を記入すること。次回の授業でそれらに答える。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週中東諸国の概要：位置、自然、民族、文化 第3週中東諸国の成り立ち 第4週中東諸国と化石燃料 第5週イスラームと中東の過去 第6週イスラームと中東の現在 第7週イランの政治と文化 第8週イスラエル／パレスチナ問題 第9週中東と戦争 第10週トルコの歴史と文化 第11週湾岸産油国の概要 第12週湾岸産油国と日本 第13週「アラブの春」をめぐる議論 第14週ヴェールと女性をめぐる議論 第15週まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(100%)。		
学習上の助言／Learning Advice	中東の歴史はイスラーム史や各国の成立過程に重点が置かれる予定。したがって、いわゆるオリент史は取り扱わない。		
キーワード／Keywords	中東、イスラーム、政治、経済、地域研究		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	遊びの理論とゲーム開発(アクティブ・ラーニング科目)/Theory of Play and Game Development(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	小原 一馬(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475667
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7-8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容/Course Description	前半では、遊びとは何か、人はなぜ遊ぶのか、人が「楽しい」と感じるのはなぜなのかを考察してきた理論を学び、後半では、そうした理論に基づいて、既存の(あまり面白くない)ボードゲームをより面白くするためのゲームバランスの調整を行うというかたちで、ゲーム開発の実習を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	「遊び」という比較的曖昧な対象について、それを理論的に捉える方法を学ぶことで、<理論で説明する>ということがどういうことなのか、どのように理論は用いたら良いのか考えられるようになる。また実際のゲームを開発することで、そうした理論の応用の方法と、問題解決における試行錯誤の重要性を体で学ぶ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本授業は、教養教育科目・社会科学系科目に属する選択科目である。大学で学んでいる「学問」というもの、それ自体について考察を深め、自分自身の身の回りで起こっている現象を「学問的に」理解し、理論を応用することを可能にする。		
前提とする知識/Prerequisites	なし		
関連科目/Related Courses	なし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	前半は、講義をベースとしつつ、随時グループを作り、グループごとのディスカッションをまじえながら進めていく。後半は、グループごとに、既存のすごろく型のゲームを、より面白くするためにゲームの改善を行い、開発したゲームを互いに遊んでもらって、学んだ理論に基づいたレビューを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	①子どもの頃によく遊んだ遊び、今よくやる趣味や遊びを分類する ②哲学者の遊び理論(カイヨワ) ③心理学の遊び理論(チクセントミハイ)フローと集中の条件 ④大脳生理学の遊び理論ドーパミン系とノルアドレナリン系 ⑤社会学の遊び理論(ゴフマン)相互作用浸透膜としてのフレーム ⑥文学の遊び理論(プロップ)物語の構造 ⑦遊び理論のまとめ ⑧既存のすごろく型ボードゲームの検討①種類と多様性 ⑨既存のすごろく型ボードゲームの検討②面白さとゲームバランス ⑩既存のゲームの改善点の検討① ⑪既存のゲームの改善点の検討② ⑫既存のゲームの改善点の検討③ ⑬ゲームの発表と説明、テストゲーム① ⑭ゲームの発表と説明、テストゲーム② ⑮授業のまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中に配布する		
成績評価の方法/Evaluation	・最終レポート50% ・グループで開発したゲームに対する、他の受講生たちからの評価と、グループ内での仕事分担50%		
学習上の助言/Learning Advice	ただ漫然と「楽しむ」のではなく、自分自身の「楽しみ」の経験を理論的に振り返り、それをさらに新たなゲーム開発に生かす、というこの授業の内容は、大学で学ぶあらゆることにあてはめることが可能です。この授業を通して、学問と生活の関係についても一度考えてみてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	遊び論と遊び指導(H26以降入学者対象)／Ideas in Playing and Instruction for Children's Play		
担当教員(所属)／Instructor	丸山 剛史(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G475668
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	授業では、①子どもの遊びの教育的意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行うとともに、遊び指導に関して学び、実践を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	(1) 遊びとは、自由で自発的で、現実世界から一定の距離のある、愉悦感を伴う活動であることがわかる。 (2) 子どもの遊びは、学習の土台であることがわかる。 (3) 「指導」概念を的確に理解し、子どもが遊ぶように働きかけることができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、基盤教育科目の選択科目である。教養人として視野を広くするとともに、柔軟な思考を習得するため、人間的で社会的な営みである「遊び」に関して学習する。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	下記の授業計画にもとづき、講義と演習・実技を織り交ぜながら授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(1) ガイダンス：授業概要の説明 (2) 大人社会の遊びの現在 (3) 子どもの遊びの現在 (4) 遊びにおける虚構の肥大化 (5) 遊びの本質を考える (6) 遊びのおもしろさを探る (7) 幼児期の発達と遊び (8) 学童期の発達と遊び (9) 遊びの指導を考える (10) 遊びと学習・学力 (11) 仕事・労働と子どもたち (12) 仕事にどうとりくませるか (13) 子どもとともに現代を生きる (14) 子どもの発達と文化 (15) まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	参考文献：須藤敏昭『現代っ子の遊びと生活』青木書店(1991年)、子どもの遊びと手の労働研究会編『子どもの「手」を育てる』ミネルヴァ書房(2007年)		
成績評価の方法／Evaluation	評価は、活動後に課すレポートの内容により行う。評価の観点は、①要点が的確に理解されているか、②授業で学んだことが学習により深められているか、の2点である。		
学習上の助言／Learning Advice	遊びを楽しみ、子どもにとっての遊びの意義を深く理解しましょう。		
キーワード／Keywords	子どもの遊び、遊び論、遊び指導		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	オイコス入門／Introduction to Oikosu		
担当教員(所属)／Instructor	赤塚 朋子(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G475673
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	赤塚 朋子(電話：028-649-5368 e-mail：akatsuka@cc.)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	赤塚 朋子(木曜日 12:20 - 12:50)		
授業の内容／Course Description	現代社会に資する基本的な学問を取り上げ検討するとともに、学際的な視野から今後の学問について考えます。		
授業の達成目標／Course Goals	学問の基礎を学び、学問の面白さを知るとともに、学問を探究する力をつけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学問の基礎を学ぶと共に、現代社会に参画しながらつくり続ける幅広く、深い教養を身につけます。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	学問とは何かを考えるうえで重要と思われる人間と生活を中心に、オイコスに関連した学問や学問背景を取り上げていきます。質疑応答、議論の場も設けます。毎回授業の終わりに授業に関連した考察や次の授業のテーマに関する記述を書いて提出してもらいます。中間レポート、および期末試験を課します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 オイコスとは何か 第3週 アリストテレスを読む1 第4週 アリストテレスを読む2 第5週 ソクラテスを読む 第6週 クセノフォンを読む1 第7週 クセノフォンを読む2 第8週 人間と生活 第9週 人間の生活と自然環境 第10週 人間の生活と社会環境 第11週 人間の生活と社会環境 第12週 人間の生活と生活環境 第13週 人間の生活と生活環境 第14週 学問の今後 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特に指定しません。 参考書：授業時に紹介します。 教 材：資料を適宜配布します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席及び授業参加(35%)、中間レポート(30%)、期末試験(35%)をもとに、総合的に判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	「果たしてそうだろうか」を一緒に考えたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	栃木県の歴史と文化(アクティブ・ラーニング科目)/History and Culture of Tochigi Prefecture Asio Copper Mine Pollution Incident an(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	大栗 行昭(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G475689
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大栗 行昭(5511 ohguri@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大栗 行昭(水曜5・6時限)		
授業の内容/Course Description	栃木県の歴史と文化の豊かさを認識するとともに、足尾鉍毒事件と渡良瀬遊水地の歴史と現在を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	<p>目標は2つある。1つは栃木県の歴史と文化の豊かさを認識すること、もう1つは足尾鉍毒事件と渡良瀬遊水地の歴史と現在を学ぶことである。</p> <p>47都道府県の中で、栃木県の知名度はきわめて低いが、内実は、1人当たり県民所得8位、農業生産高9位などと高く、評価と内実がかけ離れている。これは栃木県民にとって大問題である。知名度が低いのは、県民の郷土意識が低いことにもよる。本授業はその原因を探ってみたい。その過程で栃木県の歴史と文化の豊かさを掘り起こし、栃木県の知の中心を担う宇都宮大学で学ぶことの意義を認識したい。</p> <p>栃木県の人間にとって、日本の近代化の過程で起こった足尾鉍毒事件は避けて通れない大事件である。この深刻な環境破壊事件・人権侵害事件はどのような構造のもとに発生し、なぜ理不尽な結果に至ったのか。義人田中正造は被害者とともに事件とどう闘ったのか。谷中村を追われた村民はどのような生活を送ったのか。銅山の煙害で荒廃した足尾溪谷の治山・治水はどうなっているのか。谷中村を滅亡させてできた渡良瀬遊水地はどうなっているのか。このような問題を考察して、よりよい栃木県をつくるための糧にしたい。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	明治から大正にかけて日本を揺るがした深刻な環境問題および社会問題を知ること、豊かな未来の建設に必要な知識を得るとともに、宇都宮大学の学生の地元への貢献の足がかりを提供したい。		
前提とする知識/Prerequisites	学ぼうとする意欲があれば、知識・経験は問わない。		
関連科目/Related Courses	学ぼうとする意欲があれば、知識・経験は問わない。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>できるだけ栃木県の歴史と文化を具体的に提示しながら、授業を進める。</p> <p>6月11日(土)に第10・11回の授業を予定している。スクールバスを利用し、渡良瀬遊水地と谷中村遺跡を実地見学する。見学は必修。 4月23日(土)、足尾鉍毒事件の調査を兼ねて、足尾溪谷に木を植えに行く。スクールバス利用。第1回の授業で趣旨を説明し、参加者を募る。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1回 授業についてのガイダンス。 第2回 栃木県の謎(1)なぜ知名度が低いのか。郷土意識が低いのか 印象の薄い県・地味な県の実力。栃木県の県民性—文化人類学、歴史学などの視点で 第3回 栃木県の謎(2)歴史に学ぶ栃木の誇り(前半) 豊かな古墳文化、下野薬師寺、天台宗の確立者円仁、坂東の大学足利学校、聖地日光 第4回 栃木県の謎(2)歴史に学ぶ栃木の誇り(後半) 芭蕉・尊徳と下野、那須疏水、濱田庄司と益子焼、戦前戦後を代表する文化人 第5回 渡良瀬遊水地の自然 第6回 利根川と治水の歴史 第7回 谷中村滅亡史(1) 第8回 湿地の機能とラムサール条約 第9回 谷中村滅亡史(2) 第10・11回 渡良瀬遊水地と谷中村跡地実地見学 第12回 渡良瀬川の水害史 第13回 谷中村滅亡史(3) 第14回 渡良瀬遊水地の開発 第15回 谷中村滅亡史(授業まとめ)</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書として、渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民会議編『新・渡良瀬遊水池』		
成績評価の方法/Evaluation	提出課題によって評価する。そのために、渡良瀬遊水地と谷中村遺跡の実地見学には必ず参加されたい。		
学習上の助言/Learning Advice	栃木県には学ぶべき文化歴史が豊かであることをぜひ知っていただきたい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	社会福祉入門(アクティブ・ラーニング科目)/Introductation to Social Welfare(Active Learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G475710
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	地域でその人らしい生活を送るというノーマライゼーションの考え方が社会に浸透してきているが、実際には、まだまださまざまなバリアが存在している。この授業では、社会の中のさまざまなバリアとその解消の方策について実践的に考える。		
授業の達成目標/Course Goals	福祉を自分の問題として理解し、地域の様々なニーズの解決に向けた知識を身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会に参画しながら身に付け続ける幅広く深い教養の基礎を学ぶ。		
前提とする知識/Prerequisites	高校の現代社会、公民、政治経済で扱っている社会福祉に関する知識が身につけていることを前提とする。		
関連科目/Related Courses	高校の現代社会、公民、政治経済で扱っている社会福祉に関する知識が身につけていることを前提とする。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ビデオなど視聴覚教材、実地調査、参加者のグループディスカッションなどを通して課題発見解決型学習を進める。できる限り当事者の語りや自身の体験の中から学べるようにする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回社会福祉とは何か 第3回バリアフリーとユニバーサルデザイン 第4回障害に伴うバリア 第5回バリア体験(1)視覚障害, 聴覚障害 第6回バリア体験(2)高齢者 第7回子育てに伴うバリア 第8回バリア体験(3)妊娠中の女性、子連れの移動 第9回災害時の障害者 第10回ハードのバリアとソフトのバリア 第11回心のバリアフリー 第12回バリアフリーマップの立案 第13回バリアフリー調査 第14回バリアフリーマップの作成 第15回まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書はとくに使わない。		
成績評価の方法/Evaluation	授業内レポート60%期末試験40%		
学習上の助言/Learning Advice	体験型の授業のため、受講生の人数を制限することがある。また、学外での実習や見学などを行う場合がある。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	環境教育/Environmental Education		
担当教員(所属)/Instructor	松居 誠一郎(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475721
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松居 誠一郎(matsui@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松居 誠一郎(火曜日午後5時から5時半 事前にメールで問い合わせてください)		
授業の内容/Course Description	この授業では環境、環境問題および環境教育の基礎について理解を深めます。実習の内容を含めますので受講者数の上限を40名程度にします。初回授業で受講希望者がオーバーした場合は何らかの方法で選抜を行います。この場合、1回目授業に参加しなかった受講希望者は受講できません。		
授業の達成目標/Course Goals	環境問題についての一般的な知識を獲得することと、環境教育の意義と方法について基礎的理解ができるようにします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会の直面する課題について理解を深め、判断力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	日常的に環境問題に関心がある人を対象に開講します。		
関連科目/Related Courses	日常的に環境問題に関心がある人を対象に開講します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式ですが、多くの回で実習・演習的作業をしてもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題とはなにか 2. 持続可能な発展 3. 持続不可能社会の黙示録 4. 身近な環境問題の分析、予防の重要性 5. 公害問題 6. 地球環境問題 7. 地球温暖化と資源の枯渇 8. 生物多様性 9. 持続可能な発展再論 10. 環境教育の意義 11. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：初回の授業で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	最終試験および授業中に適宜実施する小テスト、演習に関する提出物を評価の基礎とします。このほか毎回のワークシートの記述内容も評価対象とします。これらの得点によって成績を評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	新聞やテレビニュースなどの報道内容を用いた演習があります。日常的にこうした情報に関心があることが必要です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル化と外国人児童生徒教育/Globalization and Teaching for Immigrant Children		
担当教員(所属)/Instructor	小原 一馬(教育学部), 田巻 松雄(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475733
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7-8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容/Course Description	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 外国人児童生徒教育の現状と課題がわかる。 (2) 外国人児童生徒教育問題の論点がわかる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教職に関する共通の・基礎的内容の学習をふまえ、現代的教育課題に的確に対応するための発展的内容であるが、国際的に活動する人材の開発にかかわる内容でもある。		
前提とする知識/Prerequisites	「教育原論」を履修していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「教育原論」を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画にもとづき、講義を基本として授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(1) 各担当者の授業内容の概要説明(全教員) (2) 本授業開講の背景:重点からHANDSへ(田巻) (3) 外国につながる子どもたちとは?(田巻) (4) 年少者日本語教育1:子どもの言語発達と日本語指導(鎌田) (5) 年少者日本語教育2:教科学習に必要な言語能力(鎌田) (6) 諸外国における移民児童生徒に対する言語教育政策(立花) (7) 幼児期の第二言語習得支援-理論と施策(立花) (8) 未定(スエヨシ) (9) 未定(未定) (10) 外国人児童生徒教育現場の実際と抱える問題(若林) (11) これから支援に関わる者がすべきこと(若林) (12) 外国人教育における教師のジレンマと葛藤(小原) (13) 多文化教育の理論:概説(戚傑) (14) 多文化教育への主なアプローチ(戚傑) (15) パネルディスカッション:まとめ・質疑応答・討議(全教員)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:①平成19年度宇都宮大学特定重点推進研究グループ編『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』(2008年)、②臼井智美『イチからはじめる外国人の子どもの教育』教育開発研究所(2009年)		
成績評価の方法/Evaluation	授業へ出席することを前提とする。成績評価は、授業終了時に課されるレポートにより行う。評価はそれらの合計点にもとづいて行う。		
学習上の助言/Learning Advice	近年、小・中学校において外国人児童生徒が増加しています。戸惑うことなく、的確に対応できるように、関心をもって受講していただければ、と考えています。		
キーワード/Keywords	外国人児童生徒教育、グローバリゼーション、異文化間教育、多文化教育、多文化共生		
備考/Notes	一部「未定」の事項がありますので、授業の初回に授業内容を改めて提示します。		

授業科目名(英文名) / Course Title	国際協力論入門/Introduction to International Cooperation		
担当教員(所属)/Instructor	重田 康博(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475735
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	重田 康博(shigeta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	重田 康博(水曜日14:30-16:00、来訪前に必ずメールでお問い合わせ下さい。)		
授業の内容/Course Description	本授業では、国際協力の定義を説明し、国際協力の背景を考えるため第2次世界大戦後の世界の貧困・開発問題の流れを振り返り、世界の貧困問題を解決するため国際協力の役割、具体的には日本の政府(外務省)による政府開発援助(ODA)やNGOの開発協力を考察し、国際協力の基礎について学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	本授業の到達目標は、①戦後の世界の貧困・開発問題の流れ、②貧困問題に取り組む政府機関(日本ODA)について理解し、国際協力の全体像を把握し、その基本的な知識を学ぶことです。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	基番教育科目として、国際協力の全体像と基本的な知識学びます。		
前提とする知識/Prerequisites	世界の貧困・開発問題、国際協力、国際市民社会に関心があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	ビデオ・DVD鑑賞を取り入れて講義形式で授業を行います。少人数であれば参加型学習の授業を取り入れます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 国際協力の定義(講義) 第3週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れ(1940-60年代) 南北問題、国連開発の10年、国連UNCTAD交渉等 第4週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れ(1970年代) 石油危機、新国際経済秩序、ブランド委員会報告等 第5週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れ(1980年代) メキシコ債務危機、アフリカの飢餓、構造調整政策等 第6週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れ(1990年代) 国連環境開発会議、人間の安全保障、ケルン債務イニシアティブ等 第7週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れ(2000年代) 国連開発目標、G8およびG20サミット、金融危機等 第8週 戦後の世界の貧困・開発問題の流れに関するワークショップ 第9週 貧困問題に取り組む政府機関-日本のODAの役割と貢献(ODAの定義、種類、理念と原則、財源等) 第10週 貧困問題に取り組む政府機関-日本のODAの変遷(1940年代から2000年代まで) 第11週 貧困問題に取り組む政府機関-日本のODAの課題(理念の変化、環境と人権への配慮、円借款による債務増大) 第12週 貧困問題に取り組む政府機関-日本のODAの課題(情報公開と透明性の確保、食糧増産援助、JICA一元化等) 第13週 貧困問題に取り組む政府機関-日本のODAの評価 第14週 貧困問題に取り組む政府機関-日本政府(外務省)とNGOによるパートナーシップ 第15週 貧困問題に取り組む政府機関-日本の国際協力に関するワークショップ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中資料を配布します。その他の参考文献は授業中指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	成績評価は、学期末試験(70%)、出席回数(20%)、その他課題の提出等(10%)とします。出席回数9回以上授業に出席しないと評価の対象としません。		
学習上の助言/Learning Advice	国際協力、世界の貧困・開発問題、地球市民社会、グローバル・ガバナンス、に興味・関心のある人は是非受講して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	著作権法入門/Introduction of Copyright Law		
担当教員(所属)/Instructor	新井 恵美(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475738
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	新井 恵美(arai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	新井 恵美(前期)金13:00~14:00 (後期)金14:30~15:30 これ以外はEメール等で予約をしてください。)		
授業の内容/Course Description	知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。		
授業の達成目標/Course Goals	著作権法について理解し、ビジネス著作権検定初級合格相当の知識を身に付け、身近な事例について考えることができることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会でより身近になってきている著作権法を知ることにより、事例に遭遇した時に自らの力で考えることができる人材を育てます。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義を中心とし、問題演習等も行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週著作権の概要 第3週著作物 第4週著作者 第5週著作者人格権 第6週著作権(著作財産権)(1)21~25条 第7週著作権(著作財産権)(2)26~28条 第8週保護期間 第9週変動、利用、登録 第10週著作権の制限(1)30~36条 第11週著作権の制限(2)37~50条 第12週著作隣接権 第13週著作権の侵害と救済 第14週その他の事項 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書 『ビジネス著作権検定BASIC 初級 公式テキスト』ウィネット(著作権法は法改正が頻繁に行われているため、授業開始までに改訂版が出版されたときはそちらを使用します) 参考書 半田正夫ほか『著作権法コンメンタール1』第2版勁草書房 半田正夫ほか『著作権法コンメンタール2』第2版勁草書房 半田正夫ほか『著作権法コンメンタール3』第2版勁草書房 文化庁『著作権法入門』2015-2016著作権情報センター 加戸守行『著作権法逐条講義』六訂新版著作権情報センター 小倉秀夫、金井重慶『著作権法コンメンタール』レクシスネクシス・ジャパン 半田正夫『著作権法概説』第16版法学書院		
成績評価の方法/Evaluation	リアクションペーパーの記入状況30%、筆記試験70%		
学習上の助言/Learning Advice	著作権法は社会の変化に対応するため、毎年のように法改正が行われています。また、昔はプロのための法律と言われていましたが、現在では非常に身近な法律となっています。主体的に学習する意欲を持ってください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes	ビジネス著作権検定対策テキストは、他に以下のものがあります。受験を希望する人は、こちらも参照してみてください。 和田宏徳ほか『解いて覚えるビジネス著作権検定初級・上級合格テキスト』第4版税務経理協会 和田宏徳ほか『ビジネス著作権検定公式テキスト』朝日新聞出版 塩島武徳『瞬解テキストシリーズビジネス著作権検定テキスト初級・上級』青月社		

授業科目名(英文名) /Course Title	人と自然の共生を考える(アクティブ・ラーニング科目)/Exploring coexistence of human and nature(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	西尾 孝佳(雑草と里山の科学教育研究センター), 平井 雅世(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G475740
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 他/Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	西尾 孝佳(電話番号: 028-649-5147 Email: nishio@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	西尾 孝佳(月曜日午後3時から5時。来室前に電話かEメールで問い合わせして下さい。)		
授業の内容/Course Description	人は自然からの恵みを受けて社会を発達させてきました。里山はまさにその過程を実感できる場所で、伝統的な知識に基づく自然と共生した暮らしがあります。しかし、そんな里山も、過疎化、高齢化により、雑草や野生鳥獣による暮らしへの影響が著しくなるなど、これまでの暮らしに様々な問題が生じています。この講義では、こういった問題に対して、地元住民が積極的に解決に取り組んでいる里山(那須烏山市大木須)を訪問し、課題の抽出から解決策の提案・試行までを実践します。		
授業の達成目標/Course Goals	地域が抱える問題の抽出から、現地住民と協同した解決策の探索、その試行までを実践する基礎力を養成します。様々な人たちとのコミュニケーション、問題解決に向けた専門的な技術を体験することで、各受講者が今後の修学の幅を広げていくことを期待します。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	「“あらたな社会”を創るうえで求められる行動的知性を養成する」、「社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育成する」等の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	課題解決に向けて積極的に意見を述べ、前向きに活動する姿勢があること。		
関連科目/Related Courses	生物の多様性とは何か、生物多様性論、野外調査論		
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	今年度は、里山林整備事業を活用した那須烏山市大木須地区の取り組みに焦点を合わせて演習を行います。演習では、まず現地を訪問し、里山の自然及び生産の場が荒廃する現状、地元住民によるこれまでの取り組みを把握します。現地で得た情報は大学に持ち帰り、ワークショップを通じて、課題を絞り込んだり、課題に対する実現可能な解決策を探索したりします。なおワークショップは現地でも開催し、地元住民と意見交換します。さらに、授業を通じて地元提案した案は住民と協同して試行します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション(演習の概要を説明) 日程は掲示します。 ○現地視察(里山林の現状を視察) 6/13(那須烏山市大木須地区) ○現地聞き取り調査(里山林整備の現状について現地担当者から聞き取り) 7/5(那須烏山市大木須地区) ○学内ワークショップ(ラーニングコモンズを活用し、課題を演習形式で探索) 7-10月不定期に開催。日程は受講者と相談して決めます。 ○現地視察(里山林整備の現場と作業状況を視察) 10月中。日程は現地の作業日程に合わせて決めます(那須烏山市大木須地区) ○学内ワークショップ(ラーニングコモンズを活用し、課題を演習形式で探索) 10月中不定期に開催。日程は受講者と相談して決めます。 ○現地聞き取り調査(里山林整備の効果について現地住民から聞き取り) 11/7(那須烏山市大木須地区) ○学内ワークショップ(ラーニングコモンズを活用し、視察及び聞き取りの結果をとりまとめる) 11-12月不定期に開催。日程は受講者と相談して決めます。 ○学内報告会(ラーニングコモンズを活用し、視察及び聞き取りの結果を発表する) 11-12月不定期に開催。日程は受講者と相談して決めます。 ○現地報告会(雑草と里山の科学教育研究センター主催の現地報告会において地域住民との意見交換) 2月中(那須烏山市大木須地区) 		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じて配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	ワークショップ・演習に取り組む姿勢とレポート、プレゼンテーションの内容によって成績評価を行います。		
学習上の助言/Learning Advice	現地における演習は全て、土曜日もしくは日曜日に実施されますので、日程に注意してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes	<p>～注意事項～</p> <p>履修前にオリエンテーションを行いますので、履修希望者は参加してください。</p> <p>開催日 : 4月14日(木) 時間 : お昼休み(12時05分～) 場所 : 雑草と里山の科学教育研究センター 2階 セミナー室</p> <p>不明な点は担当教員(nishio@cc.utsunomiya-u.ac.jp)へ問い合わせください。</p>		

授業科目名(英文名) ／Course Title	希望の地域社会論／The theory of hopeful regional society		
担当教員(所属)／Instructor	三橋 伸夫(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G475744
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	少子高齢化、家族など人間関係の疎遠、社会的孤立、ストレスや雇用不安、さらには自然災害など、希望をもちにくいように見える閉塞化した地域社会をどのようにとらえれば希望が生まれ得るのか、人々が希望をもつにはどのようなアプローチが必要か、地域社会におけるまちづくりの現場に即して受講生と共に考える。		
授業の達成目標／Course Goals	地域社会における「まちづくり」の現状と課題を理解し、新たな地域社会を展望する感性を磨くとともに、希望を生み出すための実践の視点と方法を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	各学部・学科等における社会科学系科目を位置づけた学習・教育目標と関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	地域社会に対する興味・関心、および高校卒業程度の知識。		
関連科目／Related Courses	地域社会に対する興味・関心、および高校卒業程度の知識。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式のほか、グループディスカッション、ワークショップなど多様な受講生参加型の授業形式も取り入れて進めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の現在 2. 協働の地域社会 3. 中山間地域社会 4. 学校教育と地域社会 5. 都市計画と地域社会 6. 震災復興と地域社会① 7. 震災復興と地域社会② 8. 超高齢下の地域社会 9. 建築デザインと地域社会① 10. 建築デザインと地域社会② 11. 交通計画と地域社会 12. コンパクトシティと地域社会 13. グラウンドワークと地域社会 14. 住民参加と地域社会 15. まとめ (オムニバス形式であり適宜テーマは変更される場合がある)		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、授業の達成目標である建築計画の考え方と基本的な方法を習得しているかどうかを、レポート、期末試験等の内容・結果から判断し評価します。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言／Learning Advice	本科目は、主として「まちづくり」分野に係る実際の地域社会の動きを扱うものです。ビデオ、スライドなど視覚的な教材を用いて、わかりやすい授業を心がけたいと思います。受け身にならないよう、地域社会・まちづくりに対する興味、関心を高めるなど、幅の広い学習を心がけて下さい。		
キーワード／Keywords	地域社会／建築・都市／まちづくり		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国事情(13億の人口に向けた強烈なプロポーズ)		
担当教員(所属)/Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475745
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	金 英花(電話:028-649-5178 メール:kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容/Course Description	副題:13億の人口に向けた強烈なプロポーズ ①本授業では世界で益々その影響力を拡大しながら、存在力を増している中国社会全般について歴史、政治、経済、地理環境、民族、文化などの側面から理解を深めてもらう。②著しい経済発展の裏に隠されている課題について、問題意識を持って考察する。③周辺国、特に日本との交流、関係の現状を踏まえながらその課題について分析し、共に議論する場を持つ。相手国を知るといことは、お互いの間に生ずる諸々のリスクを和らげ、豊かな相互理解を増進するためのもっとも有効な手段である。		
授業の達成目標/Course Goals	中国についての基礎的な知識を身につけ、中国地域専門家までは行かなくても隣国中国を理解する入門の場になればと願っている。さらに国際社会の中での日本との関係も視野に入れながら日中関係の現在と未来について考え、考察する眼目を養う。中国もしくは日中関係の中で自分の興味分野について、自分の意見をまとめ、言葉で説明できるようになる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会総合領域の視点から中国の諸相について論じ、その中で日本との関係について考察する力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	中国大陸ばかりでなく、東アジア地域に関心のある学生諸君の積極的な参加を歓迎する。		
関連科目/Related Courses	中国大陸ばかりでなく、東アジア地域に関心のある学生諸君の積極的な参加を歓迎する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本講義形式を中心としながら、授業の中で出てきた共通の関心分野についてはみんなで議論を展開する。 グループごとに興味のあるテーマを一つずつ選定して最後の授業で発表する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第一週授業の進め方の説明、自己紹介 第二週日韓中関係、国際マナー教育(通訳現場)、相互理解の必要性 第三週中華思想と哲学:儒教、道教、基礎哲学、社会主義政権の樹立まで 第四週概況:地理環境と行政区域 第五週政治:一党体制と政権組織、軍事制度 第六週経済:対外開放政策以前と以降 第七週人口と民族:計画生育、一人っ子政策、少数民族、 第八週対外関係:中韓、中日関係と交流 第九週兩岸関係:対台湾政策、統一問題、一国両制、香港の帰還 第十週社会問題:人口、宗教、婚姻、環境、医療、少数民族、不正、教育、農民工 第十一週芸術と文学:京劇、映画、音楽、唐詩など 第十二週風習:気質、年中行事、冠婚葬祭 第十三週生活文化:衣食住、言語 第十四週人の移動:華僑、華人、残留孤児、東北辺境地域の脱北者達 第十五週学生グループによる発表(「私が見た中国」で発表)		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は随時資料で配布する。参考書は授業中に適宜提示する。		
成績評価の方法/Evaluation	・プレゼンテーション50%(講義で得た見識やキーワードを用い、与えられたテーマについて論じて、発表する力を見る) ・小レポート又は小テスト30%(講義内容への理解度) ・授業への貢献度20%(積極的な議論参加と発表)		
学習上の助言/Learning Advice	関連文献だけに拘らず、関連ドラマや映画、関連テレビ時事番組、新聞やニュース、中国人の友達など、あらゆるルートから中国に接してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル韓国学(隣国に向けた晴れやかな微笑み)/Global Korean Studies		
担当教員(所属)/Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475750
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	金 英花(電話:028-649-5178 メール:kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容/Course Description	近くて遠いと言われる隣国・韓国は最近の経済成長、韓流、そして南北間関係など、さまざまな側面から注目を浴びている。日本との関わりも深く身近な存在として関連情報を得ることができるが、断片的で、時には偏ったものもある。一方、もう一つの隣国・北朝鮮は、拉致問題や核開発問題などで日本との緊張が高まっている。そして、日本社会には「在日コリアン」という存在もある。本授業では以下の3つを取り上げる。①グローバルな視点から韓国、そして、朝鮮半島に及ぶまで幅広く学び、今日の韓国・朝鮮の国と社会、人々の意識を知る上でヒントとなりそうな諸事象を紹介し、多様な切り口から理解を深める。②近年目まぐるしく変化する周辺環境の中で、表出された韓国社会の動態と政治的葛藤、抱える課題についても原文資料に基づいて考察していく。③これらに基づいて、日韓関係及び朝鮮半島全般の情勢、朝鮮半島をめぐる国際環境についても理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	もっとも身近な国と言われる韓国の社会全般について学び、紛争地域・分断地域をグローバルな視点から眺めることで、伝統的な韓国への理解に留まらず、今までの韓国と、現在の韓国、これからの韓国の行方について自ら考え、新しい時代にふさわしい知識と眼目を養うことを目標とする。日韓関係、朝鮮半島について共に考え、議論することを通じて、他国とどのように平和に生きて行くかを思考する場、一個人として実践につなげるためにはどうすれば良いかをみんなで共有する場とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会総合領域の視点から現在の韓国、朝鮮半島の諸相について論じ、その中で日本との関係について考察する力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	韓国だけでなく、朝鮮半島、東アジア地域、海外コリアン等に関心のある学生諸君の積極的な参加を歓迎する。		
関連科目/Related Courses	韓国だけでなく、朝鮮半島、東アジア地域、海外コリアン等に関心のある学生諸君の積極的な参加を歓迎する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には講義形式を中心としながら、授業の中で出てきた共通の関心分野についてはみんなで議論を展開する。 グループごとに興味のあるテーマを一つずつ選定して最後の授業で発表する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第一週授業の進め方の説明、自己紹介、グループ分け 第二週概況:地理環境と行政区域、言語と方言、地域特性(南男北女など)、マナー 第三週政治と行政:歴代政権の変容、地方行政、時事事件、直接民主主義(キャンドル集会) 第四週宗教と価値観:親族関係、美意識、お付き合い、教育熱 第五週韓国経済と産業:学閥、軍閥、財閥、サムソン神話、コンテンツビジネス、企業文化 第六週 IT強国:デジタル文化、情報化社会、インターネットと政治 第七週韓国文化:伝統文化(冠婚葬祭、遊び)、生活文化、大衆文化-K・POP 第八週名作鑑賞:*韓国の社会を映すドラマ、もしくは映画を見る 第九週中間まとめ 第十週二つのコリア:南北分断と「太陽政策」 第十一週単一民族主義から多文化社会へ:華僑、脱北者、外国人移住労働者、結婚移住者 第十二週在外同胞政策:在日コリアン、朝鮮族、サハリン同胞、在米コリアン 第十三週日韓関係の現状と未来:歴史、国家と地域と人 第十四週日韓の若者:韓流と日流、愛国熱、恋愛と結婚、遊び、大学文化、就職 第十五週学生グループによる発表(「私が見た韓国:サブタイトル付け」で発表)		
教科書・参考書等/Textbooks	教材は随時資料で配布する。参考書は授業中に適宜提示する。		
成績評価の方法/Evaluation	・プレゼンテーション50%(講義で得た見識やキーワードを用い、それぞれが理解した韓国について発表する力を見る) ・小レポート又は小テスト30%(講義内容への理解度)・授業への貢献度20%(積極的な議論参加と発表)		
学習上の助言/Learning Advice	学問上では偏見は要らないので、率直な質問や意見を歓迎します。関連文献だけに拘らず、関連ドラマや映画、関連テレビ時事番組、新聞やニュース、韓国人の友達など、あらゆるルートから韓国に接してください。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	資本論を読もう		
担当教員(所属)/Instructor	秋山 満(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475770
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	秋山 満(農学部2号館3階 秋山研究室 akiyamam@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	秋山 満(月曜3・4時限目(10:30~12:00))		
授業の内容/Course Description	社会科学の古典としてマルクスの「資本論」を材料に、近代社会のものごとの見方や考え方を学び、社会問題・経済問題に関する視点を学習する		
授業の達成目標/Course Goals	現代社会における社会問題や経済問題の考察する視点を身につける		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	経済学の一つの考え方であるマルクス経済学を通して、現実社会の様々な問題に自ら考え、自ら判断する能力を養う		
前提とする知識/Prerequisites	基本的には予備知識はいらないが、哲学や経済学、社会思想に関わる広範囲な領域が問題となるので、そうした社会科学の基盤科目を併せて取得することが望ましい。		
関連科目/Related Courses	農学部「経済学概論」		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	マルクスの資本論を活用して、現在の問題とどう関連しているか、を中心に講義を進める予定		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1, マルクスとは誰か 2, マルクスの考え方(哲学・経済学・社会思想) 3, 史的唯物論と近代化の理論 4, 資本論とは何か 5, 商品とは何か 6, 貨幣とは何か 7, 貨幣の機能 8, 資本とは何か 9, 資本増殖の方法(剰余価値の精算) 10, 資本増殖の段階(協業・分業・大工業) 11, 賃金とは何か 12, 資本の蓄積と再生産とは何か 13, 相対的過剰人口とは何か(貧困問題) 14, 独占の形成と帝国主義段階 15, 現代資本主義社会 		
教科書・参考書等/Textbooks	現在選考中、第1回の講義で紹介		
成績評価の方法/Evaluation	レポートを1~2回(40)、他は試験(60)		
学習上の助言/Learning Advice	広く社会問題の見方を学ぶので、新聞やニュースに触れておいて欲しい		
キーワード/Keywords	マルクス、資本論、近代社会、格差、成長		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域環境社会学		
担当教員(所属)/Instructor	関 美芳(雑草と里山の科学教育研究センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475780
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	関 美芳(雑草と里山の科学教育研究センター 2階 教員研究室5 内線 5150)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	関 美芳(毎週水曜日の午前10:30~11:30。 気軽にきてください。)		
授業の内容/Course Description	この講義では、環境問題とはどのようなものか、環境問題を解決するための担い手としてなぜ小さなコミュニティが大切なのか、身近な環境問題から学生と一緒に考える。中国と日本の現場の事例から環境問題を取り上げ、学生にグローバルかつローカルの視点から、地域社会の環境問題と自分自身との密接な関わりについて理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義では、学生に地域社会の環境問題をグローバルとローカルの両方から、鳥瞰的かつ等身大的にみる社会学の「目」を身につけてもらうことを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	身近な社会問題を、社会学の方法で発見する課題発見能力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	特にないが、社会問題に感心をもち、報道に感心を持っていることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	社会学		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この授業では、具体的な事例から、日本の環境社会学の研究蓄積となる被害構造論、受益圏・受苦圏・社会的ジレンマ論、生活環境主義を学生と一緒に学ぶ。環境問題の現場は被害・差別などの社会現象がある一方、それに立ち向かう人びと・地域社会も必ずいる。このことを踏まえて人びとがどのように環境問題と向き合い、創造的に生活環境の再生に取り組んでいるのかを、日本と中国の事例から考える。これら身近な環境問題を取り上げることによって、学生に資源の利用と価値観、環境問題と開発の関係、地域社会の創造性などについて、複眼的に捉える視点を身につけてもらうことを期待する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーションー小さいコミュニティと環境問題 第2週 水俣病と被害構造論 第3週 環境問題と発展途上国ー受益圏・受苦圏から考える 第4週 ゴミの環境社会学ー社会的ジレンマ 第5週 人と自然の共生ー自然保護の考え方とトラスト運動 第6週 人と自然の共生ー里山と持続的な環境利用 第7週 開発と環境保全ー都市近郊の平地林開発と里山保護 第8週 都市化のもたらす生活環境の再編と村の役割ー廟再建のむらから 第9週 環境運動と小さなコミュニティー足尾銅山などの事例から 第10週 歴史的環境保全と観光と地域社会ー大内宿の事例から 第11週 村の景観づくりと生態観光ー中国の「農家楽」の山村から 第12週 環境問題と農業ー『奇跡のリンゴ』から 第13週 環境問題と有機農業ー日本の有機農業の地域的展開から 第14週 授業全体のまとめー生活環境主義の発想 第15週 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：なし 参考書：鳥越皓之・帯谷博明編著 『よくわかる環境社会学』 ミネルヴァ書房 2009 鳥越皓之 『環境社会学』 東京大学出版会 2004 教材：必要な教材は教員が用意する		
成績評価の方法/Evaluation	出席(30%) + 期末試験(70%)		
学習上の助言/Learning Advice	学生には新聞等で社会問題に関する記事に目を通すようにしてもらいたい。		
キーワード/Keywords	被害構造論・受益圏・受苦圏・社会的ジレンマ・生活環境主義		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域振興と大学の役割(アクティブ・ラーニング科目)		
担当教員(所属)/Instructor	小笠原 勝(雑草と里山の科学教育研究センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475790
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	地域貢献・地域振興とは何か、またそれらの活動を支援するための大学の役割とは何かを考える。		
授業の達成目標/Course Goals	地域が置かれた社会的状況を正しく評価する能力を身に着けるとともに、地域内の合意形成の在り方、望まれる人材とは何かについて考える。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	宇都宮大学の地域貢献活動と合致する。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。社会に役立とうとするモチベーションが必要。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、特定の課題を挙げて、討論形式で進める。なお、予習が出来るように、課題の内容を授業に先立ち説明する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	雑草と里山の科学教育研究センターが現在、締結している協定を中心に授業を進める。 1. 栃木県那須烏山市大木須地区(里山の保全) 2. 栃木県大田原市(市天然記念物ザゼンソウの保全) 3. 栃木県市貝町シバザクラ公園の修復 4. 国土交通省宇都宮国道事務所(道路雑草の防除) 5. 国土交通省渡良瀬河川事務所(河川堤防植生の維持管理) 6. 社団法人日光カンツリークラブ(芝生を活用した地域貢献) 7. その他の事例紹介(福島県飯館村)		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	1. 出席数(正当な理由なく、5回以上欠席した場合は不可) 2. 討論への参加態度 3. 試験(レポート)成績 以上を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	予め課題を説明しておくので、自分自身で良く考えることはもちろんのこと、友人と意見交換をしながら、さまざまな考えを総合的に組み立てる習慣をつけると良い。		
キーワード/Keywords	地域貢献、地域活性化、大学		
備考/Notes	特になし		

授業科目名(英文名) / Course Title	農業と文明		
担当教員(所属)/Instructor	齋藤 潔(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475800
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	齋藤 潔(農学部2号館南(農業経済学科棟)4階齋藤研究室 saitok@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	齋藤 潔(随時(メールで在室日時を確かめてください。))		
授業の内容/Course Description	人間が農業を開始したのは今からおよそ1.2万年前とされている。場所は現在のイラクとトルコにまたがる山の中であるとそうていされている。それは麦と豆、そして畜産を交えた混合農業であった。 それから8000年を経て、人間は農業によってメソポタミア文明を成立させるまでに至った。それは、エジプト文明へ、そして古代ギリシア文明、古代ローマ文明へと引き継がれ、古代社会の終わりとともにヨーロッパの中世社会を形成した。この授業では西洋を形成した農業について、古代から中世を中心に講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	農業がなぜ発生したのか。農業は人間にどのようなインパクトを与えたのか。私たちの社会を形成している基礎要因の中に農業由来の要因が入り込んでいる構造を読み解く。その講義を通して、歴史の視点とロジカルシンキングの重要性について学ぶ。		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	農業と文系の関係性を学ぶことで、歴史視点について考え、ロジカルシンキング能力を習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	とくになし		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	この授業は講義形式で進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	第1回 人類の誕生、そして家族 第2回 農業の起源 第3回 メソポタミア文明の農業 第4回 メソポタミア文明の社会 第5回 エジプト文明の農業 第6回 古代ギリシア文明の農業 第7回 古代ギリシア文明の社会 第8回 古代ローマ文明の農業 第9回 古代ローマ文明の社会 第10回 古代世界の没落と中世社会の始まり 第11回 中世ヨーロッパの農業 第12回 中世ヨーロッパの社会 第13回 中世ヨーロッパの産業と宗教 第14回 産業革命と農業革命 第15回 農業と文明		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない。参考文献はその都度授業で紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業の出席状況、試験あるいはレポートで総合的に判断する		
学習上の助言/Learning Advice	歴史視点から農業がもつポテンシャルに気づいてほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	世界の農業/Agriculture in the world		
担当教員(所属)/Instructor	安藤 益夫(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475810
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	安藤 益夫(amasuo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	安藤 益夫(水曜日7~8時限(14:30~16:00))		
授業の内容/Course Description	<p>農業は、それぞれの地域・国の気候や風土を巧みに活用することによって成り立つ産業です。そのため、世界には多様な気候・風土に立脚した多様な農業が展開されています。本講義では、それらの世界各地の多様な農業の実態と特徴を浮き彫りにします。さらに、農業は食料問題のみならず、自然環境やエネルギー問題とも密接に関連しています。そこで、グローバルな視野から食料・環境・エネルギーの諸問題を農業問題と関連づけながら検討します。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>農業の多様性を理解するとともに、経済のグローバル化が進む中、食料危機・貧困と飢餓・食の安全安心・温暖化などの地球規模での問題が顕在化していることを、農業との関わりで理解する。</p>		
学習・教育目標との関連/Educational Goals	<p>世界各地の気候と風土、さらには文化に立脚した多様な農業展開を理解するとともに、地球規模での食料・資源・環境の諸問題を把握することによって、幅広く深い教養と豊かな人間性を育成する。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	高校教科書「地理」程度の知識。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方/Course Methodologies	パワーポイントを駆使しながら、講義形式を基本として進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等)/Class Schedule	<p>第1回 インTRODクシヨN 世界の農業地帯区分 第2回 アメリカの農業 第3回 ヨーロッパの農業 第4回 アジアの農業 中国 第5回 アジアの農業 東南アジア島嶼部 第6回 アジアの農業 東南アジア大陸部 第7回 アフリカの農業 第8回 食料危機 第9回 農地・水問題 第10回 遺伝子組換え問題等 第11回 食と農に関する国際機関と制度 第12回 食と農を巡ってⅠ 現状と問題 第13回 食と農を巡ってⅡ 国際的取組み 第14回 日本の食料需給 第15回 食の安全・安心</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	八木宏典監修「世界の農業と食料問題」ナツメ社 山本正三他訳「農業地理学」農林統計協会		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験(80%)と出席(20%)を目安に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	外国に興味を持ち、テレビやインターネットでの海外情報や農業情報に頻繁にアクセスすることが大切です。		
キーワード/Keywords	気候、風土、多様性、食料需給、農業問題、食料問題、環境問題		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	アフリカ学入門(アクティブ・ラーニング科目)/Introduction to African Studies(Active learning subject)		
担当教員(所属)/Instructor	阪本 公美子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義・演習	時間割コード/Registration Code	G475820
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 水/Wed 3, 水/Wed 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	阪本 公美子(電話:028-649-5180 メール:ksaka@utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	阪本 公美子(木曜日 12:00-13:00(研究室にて))		
授業の内容/Course Description	皆さんのアフリカのイメージは、距離的に遠く、自分の生活との直接的な関係が分かりにくい ため、少ない偏った情報から形成されているかもしれません。アフリカ大陸には多くの国 々が存在し、地域によって異なる自然・社会環境の基で異なる歴史をもった様々な人々がそ れぞれの生業のもとで生活しています。またアフリカ問題に関する誤解も流布しています 。本授業ではその多様性・多面性の一部を、等身大で理解することを目指します。		
授業の達成目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカに関して等身大に理解すること。 ・アフリカの地理的・文化的・社会的多様性について理解すること。 ・アフリカに関するステレオ・タイプが是正されること。 		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	<p>①知識・理解:アフリカの社会・文化・自然環境・歴史に関して概説的な知識を広げます。 ②思考・判断:自らのアフリカに関する知識・理解を問い直します。 ③技能・表現:アフリカに関連するトピックに関して、調査し、まとめ、発表する力を養い ます。 ④関心・意欲・態度:アフリカの人びとに関する関心とともに、更に学びたいという意欲を 喚起します。</p>		
前提とする知識/Prerequisites	アフリカに対する興味、住む人々と共感をしようとする姿勢を期待します。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義と分類していますが、質疑応答・討論など受講者の積極的な参加を期待します。毎回授 業の終わりに授業に関する考察や次の授業の予備知識について記述してもらいます。また、 ほぼ毎回、課題(宿題)を貸します。アフリカに関する個人発表、レポート、グループ発表 を課します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1週 オリエンテーション 第2週 アフリカ諸国と地域(参考書 p.142) 第3週 アフリカの自然(pp.143,149-150) 第4週 アフリカの歴史と宗教(概説とビデオ)(p.144) 第5週 農村における子どもの生存と家族 第6週 タンザニア南東部農村における男女分業 第7週 タンザニア南東部農村の人々にとって発展とは? 第8週 食を支えるものづくり [レポート提出] 第9週 サバンナの自然と農業 第10週 農業と食に対する支援を考える 第12週 グループ作業 第11週 アフリカの文化(音楽・料理を予定)</p> <p>第13週 アフリカン日比谷フェスティバル(2016年7月9日) 第14-15週 グループ発表 優秀レポート発表、テスト返却、質疑応答、授業評価 上記は目安ですが、状況や必要に応じて重点・日程など変わる可能性もあります。</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:吉田昌夫(2002)「熱帯アフリカ」『地域研究』古今書院pp.142-156		
成績評価の方法/Evaluation	授業参加・記述等平常点(20%)、課題(20%)、レポート(20%)、テスト(20%)、発表 (20%)を基に総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業でアフリカの様々な面について学んだことをきっかけに、更に自発的な学習を心がけて 下さい。 なお、教員の健康上の理由のため、当日の喫煙・人工香料(香水など)をお控えください。 また、授業中の換気を行いますため、ご了解ください。7月の授業は若干暑い可能性がある ため、軽装にて受講してください。 また、例年込み合いますが、諸条件の合う教室がないため、教室変更が難しいこともご了解 ください。上限人数の54名を超えた場合、第1週の出席、第2週の課題提出状況をもとに、受 講生を決定します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	現代日本の政治と行政/Politics and Public Administration of Modern Japan		
担当教員(所属)/Instructor	三田 妃路佳(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475830
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	政治はどこで、どのように決定されているのだろうか。なぜ、日本は政権交代が可能な選挙制度を取っているにも関わらず、結果として自民党の長期政権となるのだろうか。講義では、国会議員、官僚、利益団体・有権者、自治体の首長・議員、諸外国といった諸アクター(行動主体)の役割や目的、相互の関係について、選挙、立法過程、事業実施、対外交渉といった場面に沿って説明する。その上で、上の問いについて議論を行う。加えて、日本と米国とでは政治過程の違いについても説明する。		
授業の達成目標/Course Goals	日本の政治や行政の仕組みについて理解するとともに、理論や他国との比較から、日本の政治や行政の課題を見出す力を身につけることを目指す。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とした教養科目のうち、社会科学系政治学分野の科目		
前提とする知識/Prerequisites	国内外、国、地方自治体を問わず、政治や行政に関わる様々な制度のほか、政治家、公務員、利益団体などの活動や役割に関心を持っていること。		
関連科目/Related Courses	公共政策入門、政治学概論、政策過程論		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式を中心とするが、事前に配付した課題への発言を求める。ビデオの視聴後の討論も予定している。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、選挙と有権者 2. 日本の選挙制度 3. 選挙制度改革 4. 自民党政権の誕生 5. 自民党政権の崩壊と1993年の政権交代 6. 自民党政権復活と2009年の政権交代 7. 立法過程における官僚の役割 8. 立法過程における政治家の役割 9. 利益団体の役割と政治家 10. 地方自治体の財源問題 11. 利益誘導型政治はどう変わったのか 12. 行政と住民との関係 13. 公共事業の役割と課題 14. 内政と外交の関わり1: 理論的視点 15. 内政と外交の関わり2: 自由化問題 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 久米郁男・田中愛治・河野勝『現代日本の政治』放送大学教育振興会、2007年。 参考書: 授業中に指示する。		
成績評価の方法/Evaluation	定期試験70%、レポート提出、授業への参加状況30%		
学習上の助言/Learning Advice	課題を行うとともに、予習をし授業中の討論に参加できるようにすること。		
キーワード/Keywords	自民党、利益団体、中央・地方関係、不確実性		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	応用社会学／applied sociology		
担当教員(所属)／Instructor	中川 敦(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G475840
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	大きな変化に直面しているこの時代において、社会学に何ができるか、また、社会学でなければできないことは何か、について考える。講義は大きく2つに分けられる。前半は「社会」「権力」「公共空間」などを取り上げながら、理論的・方法的な観点から、社会学という学問を応用的にとらえるための基礎的な視点を獲得する。後半は、「(人間、動物の)福祉」、「ジェンダー・セクシュアリティ」、「恋愛」、「家族」といった具体的な論点をテーマにしなが、社会学を現実の問題に応用することの実際を理解する。		
授業の達成目標／Course Goals	社会学の基礎的な概念の習得を通じて、社会学に何ができるか、また、社会学でなければできないことは何か、について理解し、応用社会学の視点を身につけること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、基盤教育科目社会科学系科目に含まれ、「現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力」の養成に必要な、応用社会学の視点の涵養という点で、学習・教育目標と関連している。		
前提とする知識／Prerequisites	前提として要求する知識は求めないが、応用社会学を学ぶための真摯な姿勢を要求する。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	パワーポイントのスライドや映像資料などを利用して講義を行う。また講義の途中で、理解度を問う確認テストを随時行う。授業計画は学生の理解に応じて、適宜変更の可能性があるのである。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 社会を発見するには 第2回 公共空間の分析 第3回 相互行為の2面性 第4回 権力とは何か 第5回 差別はいかに作られるか 第6回 人の心はどのように分かるのか 第7回 人と動物が織りなす社会 第8回 動物の福祉 第9回 同性愛と家族 第10回 トランスジェンダーと家族 第11回 その恋愛はセクハラか 第12回 近代家族とフェミニズム 第13回 近代以前の子育て 第14回 性によって分割された社会 第15回 父子家庭の困難		
教科書・参考書等／Textbooks	長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著、2007『社会学』有斐閣。 ただし、購入の必要はない。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の確認テストで45点、学期末レポートを55点として評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	現代の社会問題に対する視野を広げられるよう、講義で学んだことについて、授業外の中で家族や友人などと積極的に議論してみたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地誌学/Regional Geography		
担当教員(所属)/Instructor	鈴木 富之(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G475850
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	「地誌学」とは、さまざまな地域が有する地域性を自然条件や社会条件の各要素について分析したり、その相互関係を考察したりする学問分野である。地誌学を学ぶことにより、対象地域を複合的な視点から正しく理解することができる。そのため、地誌学的手法はまちづくりや観光振興などに応用していくことも可能になるだろう。そこで、本授業では、自然、産業、文化などの複合的な視点から、日本および各地方の地域性について学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	①地誌学的視点から日本および各地域の地域性を正しく理解する。 ②特定地域の将来展望について考えることができる能力を身につけることである。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	地域に関わる専門教育を学ぶ際に必要とされる地理学的知識を習得する。		
前提とする知識/Prerequisites	中学校社会科地理的分野の内容を理解していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、授業に関するプリントを配布し、必要に応じて写真やDVDなどを使用する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統地理学と地誌学 2. 日本地誌(1):人口分布 3. 日本地誌(2):農林漁業の特徴 4. 日本地誌(3):鉱工業の特徴 5. 東京の地誌(1):東京都区部の都市構造と商業集積地域 6. 東京の地誌(2):東京多摩地区の土地利用および施設立地 7. 南関東の地誌 8. 北関東の地誌 9. 近畿の地誌(1):大阪の都市構造と商業集積地域 10. 近畿の地誌(2):京都と神戸の地域性 10. 中央高地の地誌(1):スポーツ合宿地の形成 11. 中央高地の地誌(2):高原観光地の形成 12. 中央高地の地誌(3):生き物と人間の生活 14. 九州離島の地誌 15. 沖縄の地誌 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使用しない。 参考書については、毎回授業時に紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験80%, 授業中の課題20%。		
学習上の助言/Learning Advice	高校などで使用した地図帳を持参することが望ましい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会 (平成22年度以前入学者用) ／Social Studies		
担当教員(所属)／Instructor	松村 啓子(教育学部), 山田 有希子(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G480002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) ／Contact	松村 啓子(kwmatu@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 山田 有希子(電話 : 028-649-5275 e-mail : yamaday@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー (自由質問時間) ／Office Hours	松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00) 山田 有希子(水曜日 12:50~14:20 (e-mail によるアポイントメントをとってください))		
授業の内容／Course Description	社会科という教科の基礎となる学問諸分野においてさまざまな問題を取りあげ、複数名の教員が交替で講義します。初等教育および中等教育の学校教員志望者に対して、社会科を教えるための基礎教養を提供します。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校社会科の授業で扱う内容について、関連する学問諸分野の見方・考え方を学び、実際の授業展開 (発問や資料提示) に必要な教養を身につけることを到達目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	教員養成課程の学生は、小学校社会科の授業をするための基礎的な教養を身につけます。また教養教育科目としては、社会についての幅広く深い教養を身につけます。		
前提とする知識／Prerequisites	特段ありません。		
関連科目／Related Courses	特段ありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	複数名の教員が3回ずつ講義を担当します。担当順は第1週の授業で知らせます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第1週～第3週 社会学分野 第4週～第6週 倫理学分野 第7週～第9週 歴史学分野 第10週～第12週 地理学分野 第13週～第15週 国際理解分野 (ただし授業の順番は変更することがあり、第1回の授業で説明します)。</p> <p>社会学分野 (小原一馬) では、「社会」とはそもそも何なのかということについて、社会学からのいくつかの見方を示します。社会科の中には歴史や地理、倫理・政経のように、「社会学」という分野があるわけではありませんが、実は小学校の社会科における重要な考え方の基礎となる学問であることを説明していきます。</p> <p>倫理学分野 (山田有希子) では、とくに医療倫理分野における人間の誕生と死をめぐる具体的倫理問題を紹介し、社会科教育という立場から、生と死にかかわる善悪の問題を考察する可能性について考えていきたいと思えます。</p> <p>歴史学分野 (高山慶子) では、歴史学の根幹で、歴史学習でも活用が期待されている史料について、日本史を事例に考えます。</p> <p>地理学分野 (松村啓子) では、地図の種類と利用について作業を通じて学んだのち、身近な地域における自然環境・資源と人々の生活や産業との関わり、災害の防止について理解を深めます。</p> <p>国際理解分野 (下田淳) では、外国の文化や伝統、習慣について、騎馬遊牧民を中心とする事例から考えます。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。適宜プリントを用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	各担当教員による課題 (試験あるいはレポート) を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	特段ありません。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会 (H22以前入学者対象) ／Social Studies		
担当教員(所属)／Instructor	山田 有希子(教育学部), 松村 啓子(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G480004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) ／Contact	山田 有希子(電話 : 028-649-5275 e-mail : yamaday@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 松村 啓子(kwmatu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー (自由質問時間) ／Office Hours	山田 有希子(水曜日 12:50~14:20 (e-mail によるアポイントメントをとってください)) 松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00)		
授業の内容／Course Description	社会科という教科の基礎となる学問諸分野においてさまざまな問題を取りあげ、複数名の教員が交替で講義します。初等教育および中等教育の学校教員志望者に対して、社会科を教えるための基礎教養を提供します。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校社会科の授業で扱う内容について、関連する学問諸分野の見方・考え方を学び、実際の授業展開 (発問や資料提示) に必要な教養を身につけることを到達目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	教員養成課程の学生は、小学校社会科の授業をするための基礎的な教養を身につけます。また教養教育科目としては、社会についての幅広く深い教養を身につけます。		
前提とする知識／Prerequisites	特段ありません。		
関連科目／Related Courses	特段ありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	複数名の教員が3回ずつ講義を担当します。担当順は第1週の授業で知らせます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第1週～第3週 社会学分野 第4週～第6週 倫理学分野 第7週～第9週 歴史学分野 第10週～第12週 地理学分野 第13週～第15週 国際理解分野 (ただし授業の順番は変更することがあり、第1回の授業で説明します)。</p> <p>社会学分野 (小原一馬) では、「社会」とはそもそも何なのかということについて、社会学からのいくつかの見方を示します。社会科の中には歴史や地理、倫理・政経のように、「社会学」という分野があるわけではありませんが、実は小学校の社会科における重要な考え方の基礎となる学問であることを説明していきます。 倫理学分野 (山田有希子) では、とくに医療倫理分野における人間の誕生と死をめぐる具体的倫理問題を紹介し、社会科教育という立場から、生と死にかかわる善悪の問題を考察する可能性について考えていきたいと思えます。 歴史学分野 (高山慶子) では、歴史学の根幹で、歴史学習でも活用が期待されている史料について、日本史を事例に考えます。 地理学分野 (松村啓子) では、地図の種類と利用について作業を通じて学んだのち、身近な地域における自然環境・資源と人々の生活や産業との関わり、災害の防止について理解を深めます。 国際理解分野 (下田淳) では、外国の文化や伝統、習慣について、騎馬遊牧民を中心とする事例から考えます。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。適宜プリントを用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	各担当教員による課題 (試験あるいはレポート) を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	特段ありません。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			